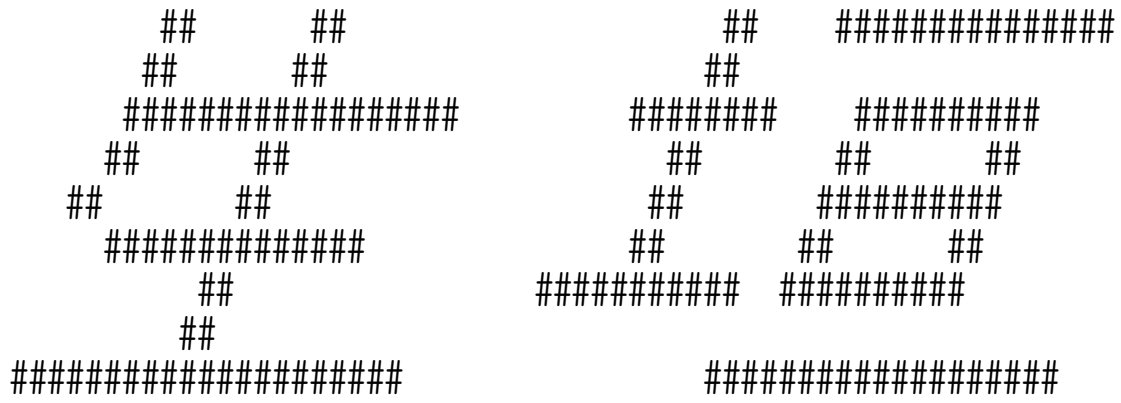

生け垣のすべて

（第６版）

ikegakiIKEGAKIikegakiIKEGAKIikegakiIKEGAKIikegakiIKEGAKIikegaki
IKEGAKIikegakiIKEGAKIikegakiIKEGAKIikegakiIKEGAKIikegakiIKEGAKI
ikegaki ikegaki
IKEGAKI A to Z of The HEDGE IKEGAKI
ikegaki ikegaki
IKEGAKI 生　け　垣　の　す　べ　て IKEGAKI
ikegaki ikegaki
IKEGAKI Version 6.0 IKEGAKI
ikegaki ikegaki
IKEGAKI (C) Copyright by S.OKAMOTO IKEGAKI
ikegaki ikegaki
IKEGAKI 2026/10/01 IKEGAKI
ikegaki ikegaki
IKEGAKIikegakiIKEGAKIikegakiIKEGAKIikegakiIKEGAKIikegakiIKEGAKI
ikegakiIKEGAKIikegakiIKEGAKIikegakiIKEGAKIikegakiIKEGAKIikegaki

はじめに

今は昔、1990年代にパソコン通信の「ニフティサーブ（NIFTY Serve）」内に「園芸フォーラム（FGARDEN）」と呼ばれるコミュニティが、当時のガーデニングブームと相まって、大きく繁茂していました。

そこにあったいくつかの会議室で、庭木だけでなく、生け垣についても様々な疑問や質問が投げかけられ、本作者はそれらの疑問質問に自分なりの考えや回答を寄せてきました。

さらに、それより遥か以前から、作者の本業であった植木職人として、庭造りや庭木の手入れ作業に従事していたことから、折に触れ施主から庭木や生け垣について様々な質問を受け、それらに応えることも多々ありました。

一方で、ガーデニング関連の市販本を見ていると、庭木とか花木とか草花とかに関する参考書だと、山ほど出版されているのに、生け垣について詳しく書かれた本といえばごく僅か、というのが当時の状況でした。これは、21世紀に入って20年以上も過ぎた今でも、それほど改善されてはいないようです。

また、近年数多くのウェブサイトやＳＮＳでも、生け垣が取り上げられてはいるのですが、それらを見ていても、個人ガーデナーのものであったり、園芸関連業者の販売サイトであったりで、書籍と同様どこも一長一短があり、生け垣全般について詳しくまとめられたものは、ほぼ見当たりません。

生け垣と庭木は互いに共通した植物を用いる場合が多いため、大抵の場合は、庭木の解説に付け足しで生け垣にも言及する、といった程度です。しかし現実に、自分で生け垣を作ってみたいとか、生け垣の管理をしてみようということになると、これらの簡単な説明程度で実際の役に立てようというには、どうしても「帯に短し」の感が否めません。

こういったところが以前から気になっていたこともあり、生け垣全般についての初心者向けテキスト、いわば「生け垣のＡ～Ｚ」というようなものがあれば、これから生け垣を作ろうとする人がいつでも利用できるのに、と考えるようにな

ったのです。そしてそれならいっそ、生け垣だけに特化したものを、自分でまとめてみたらどうだろうかと思い至った次第です。
　浅学の身で「生け垣のすべて」と題するのはおこがましい限りですが、少なくとも「生け垣のＡＢＣ」程度になったのではないかと考えています。

　「生け垣」について詳しく知りたいという方、特に、「これから生け垣を作りたいけれど、どういう木を選んだら良いのか分からない、迷っている」という方には、大いに参考になるのではないかと自負しています。
　それから、生け垣の管理等で、庭木の管理と共通するような部分では、本稿では簡単にしか説明していない場合が多くあります。

　なお、本稿の内容はすべてテキスト（文字情報）のみで構成されています。図版や写真などは一切含まれていません。作者自身のやむを得ない事情によって、このような形式にしました。
　近年Youtube動画など、SNSでも生け垣を取り上げているチャンネルが見られます。本稿は時流に逆行する形となりますが、第１章・第２章のように、画像や動画では伝えることが難しい内容でも、文字だと深く掘り下げた考察が可能になり理解し易くなる、というメリットもあります。

　本稿で解説している生け垣は、あくまで「個人庭園の生け垣」を対象としています。同じ生け垣でも、公園などの公共施設で見られる生け垣とか、果樹園の防風垣とかについては、本稿では付随的にしか触れていません。

　植物名や項目名を列挙する場合は、すべて五十音順としています。

　本稿が、ホームガーデニングや、広くは造園業界に対しても「一隅を照らす」一助になれば幸いです。

【追記】
　本稿は上記の通り、当初は園芸初心者向けのテキストとして執筆を始め、これまで20有余年に亘って版を重ねてきました。それと共に、テキストの充実度が増し、専門的な内容が増えてきたことから、近年では初心者だけでなく、本職の方々にまで読んで頂けるようになってきました。

　そのため今回、これまで書くのをためらっていた、高度に専門的な内容の項目をまとめて、新たな章として書き下ろしました。これによって本稿は、初心者だけでなく、ベテラン職人の方々まで、広く利用出来るようになったものと考えています。

　それから、近年作者自身が高齢になったこととか、障害持ちで体調の低下が進んでいることなどから、本稿「第６版」をもって最終稿とし、これ以上のバージョンアップは行わないことと決めました。

　以上、悪しからずご了承ください。
　これまで長年にわたって、数多くの皆様にご利用いただき、大変感謝しております。

　ありがとうございました。m(_”_)m

　皆様がこれからも、本稿を利用し、生け垣を愛し、園芸生活を楽しんで頂けるよう、心から願っています。

　岡本 茂治　(1997, 1998, 2012, 2017, 2024, 2026)

The contents of this document are all for use within Japan.

目　次

はじめに
目次

第１章　生け垣総論　１

1-1　生け垣とは　1
1-2　日本と欧米での生け垣の違い　2

第２章　生け垣の役割　４

2-1　区画　4
2-2　遮蔽　4
2-3　侵入防止・防犯　5
2-4　防風　6
2-5　通風　6
2-6　防火　7
2-7　防音・遮音　7
2-8　実用　8
2-9　装飾　9
2-10　修景　9
2-11　環境改善　10
2-12　人への効果　11

第３章　生け垣の種類　13

3-1　生け垣の分類１　場所や用途による分類　13

3-1-1　外垣（境界垣）　13
3-1-2　内垣（庭垣）　14
3-1-3　縁取り垣（境栽垣）　14
3-1-4　斜面垣　14

3-2　生け垣の分類２　仕立て方による分類　16
3-2-1　総刈り生け垣　16
3-2-2　玉刈り生け垣　16
3-2-3　波状生け垣　16
3-2-4　高垣　17
3-2-5　列植型生け垣　17
3-2-6　二重垣　17
3-2-7　二段垣　18
3-2-8　実生垣（播種垣）　19
3-2-9　変形生け垣　19
3-2-10　刈り込まない生け垣　20

3-3　生け垣の分類３　樹種や特性による分類　22
3-3-1　単植垣　22
3-3-2　混植垣　23
3-3-3　色彩垣　23
3-3-4　花垣　23
3-3-5　果樹垣　24
3-3-6　茨垣（いばらがき）　24
・茨垣として使える植物　25
3-3-7　竹垣・笹垣　25
3-3-8　蔓垣（つるがき）　26
3-3-9　草垣　27
・草垣として使える植物　28

3-4　生け垣でない生け垣　29
3-4-1　生け垣もどき　29
3-4-2　エスパリエ（垣根仕立て）　29
3-4-3　緑のカーテン　30
・緑のカーテンとして使えるつる植物　32

第４章　生け垣の植え付け　34

4-1　生け垣植栽時の事前調査　34
4-2　生け垣の植え付け　36
4-3　自治体による補助制度　37

第５章　生け垣の刈り込み　38

5-1　安全上の注意　38
5-2　刈り込みの道具　38

5-3　刈り込みの時期　39
　5-3-1　生け垣の刈り込み適期　39
　5-3-2　花垣の刈り込み時期　40
　5-3-3　果樹垣の刈り込み時期　40

5-4　刈り込みの要領　41
　5-4-1　刈り込み鋏の持ち方　41
　5-4-2　刈り込みの深さ　42
　5-4-3　刈り込みの深さ 苗木の場合　43
　5-4-4　切り返しができない生け垣　44
　5-4-5　側面の刈り込み　44
　5-4-6　天端の刈り込み　45
　5-4-7　稜線の仕上げ　45
　5-4-8　稜線に丸みを持たせる　46
　5-4-9　根元付近の処理　47

5-5　刈り屑の処分　47

5-6　生け垣の仕立て直し　48
　5-6-1　生け垣の高さを変える　48
　5-6-2　生け垣の種類を変える　49

第６章　刈り込まない生け垣　51

6-1　剪定して仕立てる生け垣　51
6-1-1　仕上がりをイメージする　51
6-1-2　天端の切り返し剪定　52
6-1-3　天端の枝抜き剪定　53
6-1-4　側面と稜線と仕上げ　53

6-2　鋏を使わない生け垣　54
6-2-1　手摘みの方法　54
6-2-2　手摘み法で注意すること　55
6-2-3　茶摘みとの違い　55

第７章　肥料　56

7-1　肥料の種類　56
7-2　施肥の時期　56
7-3　施肥の方法　56

第８章　生け垣の病虫害防除　58

8-1 薬剤散布時の注意　58

8-2　薬剤希釈の簡易早見表　59

8-3　生け垣で見られるおもな病気・害虫と防除　60
8-3-1　ウドンコ病　60
8-3-2　褐斑病　61
8-3-3　スス病　61
8-3-4　アブラムシ　62
8-3-5　イラガ　62
8-3-6　カイガラムシ　63

8-3-7　カミキリムシ　64
8-3-8　グンバイムシ　64
8-3-9　チャドクガ　65
8-3-10　ハダニ　66
8-3-11　ハマキムシ　66
8-3-12　ミノムシ　67

第９章　生け垣に使える植物　69

9-1　生け垣用植物の選び方　69
9-1-1　生け垣用植物を選ぶ条件　69
9-1-2　生け垣用植物の選び方　70
9-2　生け垣に適する植物　71

9-3　生け垣用植物とその特性　74
9-3-1　常緑広葉樹 46種　74
アベリア 74、アラカシ 75、イヌツゲ 76、ウバメガシ 77、エリカ 78、
オオムラサキ 79、カナメモチ 80、カンツバキ 81、キンカン 82、
キンシバイ 83、キンモクセイ 84、クサツゲ 85、クチナシ 86、
ゲッケイジュ 87、サザンカ 88、サツキ 89、サンゴジュ 90、
シマトネリコ 91、シラカシ 92、セイヨウイボタ 93、セイヨウツゲ 94、
ソウシジュ 95、ソヨゴ 96、タチカンツバキ 97、タチバナ 98、チャ 99、
トキワマンサク 100、ナギイカダ 101、ナワシログミ 102、
ネズミモチ 103、ハクチョウゲ 104、ハマヒサカキ 105、ヒイラギ 106、
ヒイラギモクセイ 107、ヒサカキ 108、ヒメイチゴノキ 109、
ヒラドツツジ 110、フェイジョア 111、ブッソウゲ 112、マサキ 113、
マメイヌツゲ 114、マルバシャリンバイ 115、モチノキ 116、
ヤコウカ 117、レッドロビン 118、ローズマリー 119

その他の常緑広葉樹 53種　120

9-3-2　落葉広葉樹 26種　123
アキグミ 123、ウツギ 124、オウバイ 125、カラタチ 126、クコ 127、
コデマリ 128、コムラサキ 129、シジミバナ 130、シナレンギョウ 131、
シモツケ 132、トウカエデ 133、ドウダンツツジ 134、ナツハゼ 135、
ニシキギ 136、ニワウメ 137、バイカウツギ 138、ハナカイドウ 139、
ヒメウコギ 140、ヒメウツギ 141、ブルーベリー 142、
ヘーゼルナッツ 143、ムクゲ 144、ヤマツツジ 145、ヤマブキ 146、
ユキヤナギ 147、ユスラウメ 148

その他の落葉広葉樹 66種　149

9-3-3　常緑針葉樹 16種　152
アスナロ 152、イヌガヤ 153、イヌマキ 154、イブキ 155、
カイヅカイブキ 156、カマクラヒバ 157、コノテガシワ 158、
コメツガ 159、ゴールドクレスト 160、サワラ 161、スカイロケット162、
スギ 163、ナギ 164、ヒノキ 165、ヒマラヤスギ 166、ラカンマキ　167

その他の常緑針葉樹 12種　168

9-3-4　落葉針葉樹 1種　170
カラマツ 170

その他の落葉針葉樹 2種　171

9-3-5　単子葉植物 2種　172
オカメザサ 172、ホウオウチク 173

その他の単子葉植物 13種　174

9-3-6　常緑つる植物 10種　175
アイビー 175、オオイタビ 176、キヅタ 177、サネカズラ 178、
スイカズラ 179、テイカカズラ 180、トケイソウ 181、
ハゴロモジャスミン 182、ムベ 183、モッコウバラ 184

その他の常緑つる植物 18種　185

9-3-7　落葉つる植物 9種　186
アケビ 186、キウイフルーツ 187、センニンソウ 188、ツタ 189、
ツルバラ 190、ノウゼンカズラ 191、フジ 192、ブドウ 193、
ヤマブドウ 194

その他の落葉つる植物 15種　195

9-4　生け垣に使ってはいけない植物 4種　196
キャラボク 196、キョウチクトウ 197、キンギンボク 198、
ドクウツギ 199

植物名索引　200
参考資料　212

★★★

生け垣のすべて

（第６版）

■ 第１章　生け垣総論

■ 1-1　生け垣とは

まず最初に「生け垣とはなんぞや？」「生け垣ってなぁに？」という疑問から。小難しく言うと「生け垣の定義」です。

「生け垣」または「生垣」、英語では hedge または hedgerow とは、「垣根」の一種であり、「生きている植物（主に樹木）を並べて植え込み、枝を刈り込んで一様に仕上げたもの」のことをいいます。この「生きている植物」を用いることが、生け垣の基本的かつ最大の特徴です。

上で「生け垣は垣根の一種である」としていますが、では生け垣より上のカテゴリーとなる「垣根」とはどのようなものなのでしょうか。
人との会話で、単に「垣根」と言うと、生け垣を指す場合が多いのですが、正確にいうと、垣根とは「敷地や庭に設けられる仕切り」のことをいいます。この仕切りには遮蔽効果の高いものから、逆に単なる区切りの要素しかないものまで、様々なタイプが見られます。
これらの垣根の中で生け垣は、見た目には大きな存在感を感じさせるにも関わらず、遮蔽効果は比較的小さい部類だと言えるでしょう。

また、一見生け垣のように見える場合でも、区切りや遮蔽などの効果を求めるのではなく、観賞のみを目的として植えられた場合は、生け垣でなく「寄せ植え」と呼びます。
しかし、場合によっては寄せ植えのように見える生け垣もあり、その逆もまたありで、実際には生け垣と寄せ植えの境界は、やや曖昧なところもあります。

■ 1-2　日本と欧米での生け垣の違い

日本列島は大小の島伝いとはいえ、北から南へ、東から西にかけて、それぞれ3,000キロメートルもの範囲に広がっていて、さらに海抜０メートルから3,000メートルを超える高低差もあります。

またアジア大陸の東端という地理的な位置関係とか、黒潮や親潮などの海流の影響も大きくて降水量が多いなど、地域ごとに様々な気候条件が見られることから、それほど広くもない国土に、高等植物に限っても、5,000種を超えるほど多様な植物が自生しています。

一方で日本人は、縄文時代以来１万年以上にわたって、これら自然の恵みを利用してきました。それぞれの地方ごとに、その地に自生する植物から食料を採取し、また他の用途にも様々に利用し、森や海で狩猟をしてきたのです。

そして人々が定住し、農耕を始めたことで、有用な植物が栽培されるようになり、さらに多様な植物が住居の周囲を飾り、生け垣にも利用されてきました。

さらに視線を世界に拡げて見ると、上記のように日本列島には豊富な植物相があることとか、現代まで受け継がれてきた、日本独自の伝統的な庭園文化なども相まって、日本ほど生け垣に多彩な樹種を使っている国は、他に例がないといっても過言ではないでしょう。

園芸大国といわれるイギリスを始めとする西欧諸国やアメリカでも、こと生け垣に用いられる樹木といえば、近年までほんの数種類に限られていたのです。

しかしその反面、生け垣のデザインとなると、その立場はまったく逆転します。日本では十年一日のごとく直線的に刈り込まれる、直方体の単調な生け垣がほとんどを占めています。これは土地が限られているため、生け垣に十分な空間を確保するのが難しいことも一因となっているのでしょう。

ヨーロッパに古くからある庭園では、樹種は限られているものの、いや限られているからこそなのかも知れませんが、様々なデザインの生け垣が見られます。しかもこれらの生け垣は数100年もの間維持されているのです。

これが日本ではと振り返ると、木造住宅の耐用年数が、欧米では一般的な石造住宅より遥かに短いこともあるのでしょうが、100年を超えるような生け垣は、日本では例外的な長寿と言えるでしょう。

もう一点、これは生け垣に限らず、庭園までをも含めた趣味園芸全体として言えることですが、かつては貴族など特権階級の高尚な趣味、道楽であった園芸文化を、一般市民までが広く楽しむようになった時期が、日本と欧米とでは大きく異なるという事実があります。

日本では江戸時代半ば（18世紀）にはすでに、庶民の間で男女貴賤の別なく、園芸が盛んに行われていました。そのため当時から、園芸関連の専門書が数多く出版されています。また江戸市民の膨大な需要を満たすため、江戸郊外に植木や花苗などを生産するための専門農場が数多くありました。

一方欧米ではといえば、どこの国でも貧富の格差が非常に大きかったこともあるのでしょうが、王侯貴族や富裕商人などの特権階級が長い間趣味園芸を独占しており、一般の市民が広く園芸を楽しめるようになるのは、日本より遥か後年となってしまうのです。

幕末に来日したイギリス公使ラザフォード・オールコックは、江戸の庶民が様々な花や盆栽、庭木などを楽しんでいる様子を観察して、次のような言葉を残しています。いわく、
『日本人は偉大なアマチュア園芸家である』と。

植物学者ロバート・フォーチュンは「幕末日本探訪記ー江戸と北京」の中で、
『日本人の国民性の著しい特徴は、庶民でも生来の花好きであることだ』
と述べています。

また、大森貝塚を発見したことで知られる、アメリカの動物学者エドワード・モース。お雇い外国人として明治初期に来日したモースは、日本とアメリカの貧困層を比較した文章の中でこのように綴っています。
『日本人ほど自然のあらゆる形況を愛する国民はいない。田舎の旅には楽しみが多いが、その一つには道路に沿う美しい生け垣、戸口の前にはきれいに掃かれた歩道、家の中はこざっぱりとして云々』と。

なお、ここでいう園芸とはもちろん、個人が行う趣味園芸、鑑賞園芸のことを指しており、利益を得るための職業として行う農業園芸、生産園芸とはまったく別物です。

■ 第２章　生け垣の役割

生け垣はどのような「役割」を果たしているのでしょうか。また生け垣を設置することによって、どのような「効果」が得られるのでしょうか。

これには以下のように様々な役割や効果が考えられます。

しかし、実際に生け垣を設置する場合は、この中の複数の役割を果たすことが期待されるのがふつうです。

■ 2-1　区画

生け垣はおもに、隣地との区画を目的として、敷地の外周に沿って植えられることが多いものです。「生け垣は境界に植えるもの」と考える方も多いでしょう。

しかし一口に区画といっても、敷地の外周りだけとは限りません。庭の内部でも区切りとすることがあります。また、庭内で見られたくない部分の目隠しにするとか、園路や植え込みの境に植えたり、縁取りとするためにも、生け垣が使われます。

■ 2-2　遮蔽

生け垣は外部からの視線や騒音を遮り、あるいは庭園内部で見られたくない部分を隠し、プライバシーを守るためにも用いられます。

単に遮蔽効果を求めるだけなら、コンクリートやブロックなどによる人工的な塀・構造物に、生け垣は遠く及びません。

しかし、塀の無機的な外観による圧迫感や拒絶感、疎外感、それに美的センスのかけらもない単調な見かけ、はたまた震災時の安全性のことまでをも考えると、やはり「生け垣に一票！」となるのが人情というものでしょう。

生きている植物による、特有の柔らかな色彩や質感・生命感などは、何者にも代え難い、生け垣のもつ最大の魅力だといっても過言ではないでしょう。しかも一部の樹種では「高さを自由に調節できる」という、塀では決して得られない利点もあります。

ただ、生け垣と塀に関係する費用を比べてみた場合、生け垣を設置する初期コストは比較的安価で済みます。
しかしその反面、塀より強度が低いとか、一定時期に刈り込みを行ったり、病害虫への対策をしたり、また日常的に落ち葉を掃除しなければいけない等々、維持管理にそれなりの手間や費用が発生するなど、「ランニングコストが必要になる」というマイナス面も、無視できない要素です。

■ 2-3　侵入防止・防犯

侵入防止という面では、生け垣で確実な効果を得ることは難しいです。特に犬や猫など、小動物の侵入を生け垣だけで100パーセント防ぐことはできないので、この効果を確実に求めるなら、竹垣やフェンスなどの構造物と生け垣を併用することが必要になります。

しかし、意外に思われるかも知れませんが、人間の侵入防止、防犯効果という点に限ると、塀より生け垣の方が遥かに効果が高いのではないかと作者は考えています。

生け垣は庭木と違って、表面が柔らかい枝葉で覆われているため、手掛かり足掛かりとなる丈夫な枝がほとんどありません。なので、生け垣を静かに素早く乗り越えて敷地内に侵入するという事は、よほど低い生け垣だとか、あるいは熟達した忍者でもない限り、非常に難しいこととなるのです。
日本の一般的な住宅でよく見られるブロック塀と生け垣、同じ高さの両者を比べてみると理解しやすいでしょう。

また、一旦侵入された場合、塀だと外部から目につかないように容易に隠れることができます。しかし生け垣だと侵入されても、多くの場合枝の隙間から内部を透かし見ることができるため、庭内で隠れることがそれなりに難しくなるのです。

それから、刺のある植物を用いた「茨垣(いばらがき)(後述)」を設置することも、侵入防止目的には、人畜を問わず非常に有効です。

■ 2-4　防風

防風効果を100パーセント求めようとするなら、コンクリートなどによる完全に遮蔽された塀に勝るものはありません。

しかし生け垣は見かけによらず、絶大な防風効果を発揮するのです。

十分な高さの生け垣があることによって、庭内の建物や植物が強風の害から保護されます。もちろんこれには強風に耐えられるように、しっかりと根が張っていることが絶対条件です。

一般的な住宅では、台風の時以外はそれほど問題になることはありません。しかし、果樹園の防風垣や海岸の防潮林・防砂林、北国の鉄道沿線に植えられた防雪林、関東平野の農村で見られるシラカシの高生け垣、あるいは島根県出雲地方で見かける、日本海から吹き付ける北風を遮るための、クロマツによる高生け垣の「築地松（ついじまつ）」など、風除けとしての生け垣や防風林が各地方で効果的に利用されています。

この防風効果について、具体的に果樹園の防風垣の例を挙げると。

高さ５メートルの防風垣を設置した場合、そこから得られる防風効果は、風下に向かって遠ざかるにつれ徐々に低くはなるものの、水平距離で高さの10倍、すなわち 50 メートル先まで防風効果が得られることが実証されています。

■ 2-5　通風

「防風効果」とは対照的に、適度の気流を通す「通風効果」も兼ね備えていることが、生け垣の重要な特徴の一つです。前項の防風効果も、枝葉の柔軟さと共に、気流を自由に通すことによって、相当の強風にも耐えられるだけでなく、その強風を生け垣の全面で、しなやかに受け流すことができるのです。

生け垣は強風を遮り、逆に無風時でも適度に空気を通し気流を生むことで、庭内の微気象を改善します。これによって庭内にある草花などが健康に生育し、病害虫の被害も受けにくくなるのです。

普段人が気に留めることはほとんどありませんが、多少なりとも空気の流れがあるということは、植物が健全に生育する上で、とても重要なポイントの一つなのです。

ブロック塀でも通風口を設けているのをしばしば目にしますが、どれ程大きく数多く開けたところで、空気が通り抜けるのは穴の位置に限定されているため、全面で空気を通す生け垣とは比べようもありません。

■ 2-6　防火

火災の時に、隣家への延焼を生け垣が効果的に食い止めたという事例があります。しかし、この防火効果については、生け垣の樹種によって大きな違いが出てきます。

大雑把にいうと、樹脂分や精油成分を多く含む樹種（主として針葉樹）とか、枝の細い低木類などは、生木でも比較的燃えやすいため、防火効果もほとんどありません。逆に、常緑広葉樹の中でも、厚くて大きな葉をもつ樹種ほど、防火性能が優れている傾向があります。中でもサンゴジュの防火性能はずば抜けて高い方です。

作者が実際に火災の翌日目にした例では、隣家の火事に遭った、高さ3メートルほどのサンゴジュ生け垣でした。

全焼した隣家に面する外側の葉や小枝が真っ黒に焼け焦げていたのに対して、内側に回ってみると、しおれた葉さえ見当たらないほど元気なままでした。

一方、火災に遭っても生き延びる性質の強い「耐火性」という点から見ると、厚い樹皮をもつ樹木ほど耐火力が強い傾向があります。生け垣に使われることはほとんどありませんが、イチョウやクスノキなどが強い方です。

第二次大戦末期の1945年3月10日、東京の下町が米軍の大空襲によって焼け野原になった後、真っ先に芽吹いたのが、黒焦げになっていたイチョウの街路樹だったという実例もあります。

■ 2-7　防音・遮音

交通量の多い道路に面した庭では、外部の騒音を生け垣によってある程度緩和することができます。しかし生け垣による防音・遮音効果は限定的なもので、それ程大きな効果は期待できません。

植栽スペースにゆとりのある広い庭であれば、生け垣の内側に常緑の中高木を植えることで、高い防音・遮音効果を得ることも可能です。もし確実な防音効果が欲しいというようであれば、コンクリート塀などの構造物に頼るしかないでしょう。

外部の騒音を生け垣だけで確実に防ぐことはできませんが、それ以上の効果を期待できることとしては、「人への精神的な効果」の方が大きいのではないかと考えられます。

同じ音量の騒音でも、生け垣によって騒音源が見えなくなることとか、緑の植物があるということだけで、その騒音に対する精神的な許容度がより大きくなるのではないでしょうか。

■ 2-8　実用

ここまで挙げてきた生け垣の様々な機能もまた実用のうちとも考えられるでしょうが、さらに直接人の役に立つ利用法もあります。例えば、第３章でも少し触れていますが、果樹などの食用となる果実をつける「果樹垣」がそれです。

食用や薬用・香辛料として葉や若芽などを利用する、ウコギ・チャ（茶）・ゲッケイジュ・ローズマリーなどもあります。また食用でなくても、花が咲いたり果実が実る生け垣だと、切り花にも利用できます。

それから、風にそよぐ葉擦れの音を聞いたり、枝にとまった小鳥の鳴き声を聞くにつけ、心が癒やされ穏やかになり、安らぎを感じられます。

このように、人々の生活に密着した様々な用途で、生け垣が古くから利用されてきたのです。

直接の実用とはいえないかも知れませんが、果実が実る植物、花から蜜を出す植物などの「食餌植物」を生け垣に用いることで、野鳥を庭に誘う・呼ぶこともできます。第９章の生け垣に使える植物のリストには、この食餌植物も樹種選択条件の一つとして取り入れていますので、興味のある方は参考にしてください。

■ 2-9　装飾

生け垣は庭全体のデザインの一部として重要な役割を担っています。
邪魔になる背景を隠し、前後の木々と重なることで、庭の奥深さを表現できるのです。見掛けが雑然とした印象の庭でも、手入れの行き届いた縁取り垣があることによって、俄然引き締まった庭へと変貌します。また花木を使った生け垣があると、季節ごとの色彩や質感の変化を楽しむこともできるのです。

従って生け垣は、花壇の寄せ植えとか、樹木の重なりによる質感とも異なる、庭空間の自由な構成を演出し、表現することが可能なのです。
ベルサイユ宮苑に代表されるようなヨーロッパの広大な庭園では、生け垣の装飾的なデザインをメインの鑑賞対象とするように設計された区域「パルテール(parterre)」も見られます。

■ 2-10　修景

一般にはあまりなじみのない、見慣れない言葉かも知れませんが、「修景」とは、人間と景観との相互関係をあらわす言葉です。大雑把にいえば「風景を美的に整えること」を修景といいます。
生きている植物によって自然感を強め、景観を良くします。植物のもつ特性、すなわち、生命感のある色彩の美しさが、それぞれの樹種により、季節により、また日光・温度・湿度・風・雲・雨など、自然の関与が加わることによって微妙に、かつ動的に変化していくのです。

生け垣を外から見る場合、周囲の景観と調和させたり、逆に周囲からの強調効果を生み出すこともできます。
また庭園の内側から外を見るときは、木々の重なりによる奥深さを表現でき、背後の邪魔な景色を遮り、目に心地よい背景とする効果も期待できるのです。

植物は生きている限り生長を続け、常に変化するという特性があることから、修景が完成することはありません。造園家としては当然、個々の植物や景観全体が、時間と共に変化していくことをも考慮した上で、修景を行うのです。

今日という日は二度と来ません。人が今という瞬間に見た景観は、その後二度と同じものを見ることは叶いません。もし叶うとすれば、心の中での「思い出」としてのみです。このあたりは茶道でいう「一期一会」にも相通ずるところがありますね。

もちろん写真や映像でその瞬間を残すことも可能です。でも、人が五感で感じた、その瞬間の記憶や感情まで記録することは、今の科学技術では不可能なことです。

造園家が庭園を造る場合、「庭が出来上がった時点で庭造りが完成した」とは決して考えません。逆に庭が出来上がった時が「庭の完成への始まりである」と捉えるのです。

このことが、工事が完了した時点ですべてが完成する「土木や建築」と「修景」とが、根本的に異なるポイントなのです。

庭が出来上がり、さらに適切な手入れを行いつつ時が過ぎていくことで、地盤も安定し、植え込んだ植物も植え傷みから回復して、その植物本来の美しさを見せるようになり、庭全体も落ち着いてきて、ようやく鑑賞に値する庭になる、と考えるのです。これは生け垣についてもまったく同じことが言えます。

ただし、庭が完成した後も、折々の手入れは絶対に欠かせません。手入れを怠り放任状態にしていると、程なく「庭」は消え去り、そこは雑然としたただの「雑木林」となってしまいます。

この点が、人間の手が加わらない「自然」と、人が手を掛けなければ成立しない「庭」との、もっとも大きな違いとなります。

■ 2-11　環境改善

植物は光合成活動をすることによって、二酸化炭素（CO_2）を吸収し、酸素が生成されます。また空気中の塵埃や有害成分を吸収・吸着することで、大気を浄化する作用もあります。つまり植物は天然の空気清浄器なのです。

さらに、適度の通風・遮蔽機能とか、蒸散作用によって葉から水分が蒸発することで、庭内の微気象を緩和し、調節する作用もあります。

個々の生け垣や庭園単位でみると、これらの効果はごく僅かでしかありません。強いて挙げるなら、防風効果以外では多少の防音効果や庭園内部の微気象の改善などが見込めますが、目に付くほど大きな効果はほとんど得られません。

ところが、これが一つの地区全体、あるいは都市全体として俯瞰すると、緑のあるなしでは俄然違ってくるのです。一例を挙げると…

コンクリートやアスファルトで固められ、エアコンが完備された現代都市では、夏の気温がその周辺地域の平均気温を遥かに上回るヒートアイランドとなります。しかし、街路樹や庭園・公園など、緑地のある所ではこの異常高温も、緑陰があるということだけでなく、植物の蒸散作用によっても、かなりの程度緩和されるのです。

真夏に照りつける陽射しの下を歩いた後、大木の木陰に入った時、そこで意外なほどの涼しさを感じてほっと一息ついたことは、みなさん誰しも経験されたことがあるでしょう。

これは直射日光を遮る木陰に入って気分が落ち着いたから、という心理的な効果もありますが、それ以上に植物の蒸散作用で気化熱が奪われ、実際にそこの気温が周囲より下がっている、という物理的な要因が大きいのです。

■ 2-12　人への効果

春先の芽吹きや初夏の若葉、秋の紅葉、花が咲く時期などを除くと、人が日常で生け垣を意識することはそれ程ありません。

しかし、緑の植物が身近に存在することによる、もっとも大きく、もっとも重要な効果は「人間自身に及ぼす精神的あるいは情緒的な影響である」と言えるでしょう。これは生け垣に限らず、人の周囲で見られるすべての植物について当てはまることです。

前述した「修景」の目的も、最終的にはここに行き着くわけです。自分の周囲に緑の植物があることによって、どれほど精神的に安定し、どれほど安心感を得られ、どれほど安らぎが増し、どれほど心が癒され豊かになることでしょう。

植物が直接人間に及ぼす肉体的精神的な影響や効果については、21世紀初頭になってようやく科学的な実証実験が行われるようになりました。それらの成果の一部をご紹介すると。

人が「二泊三日の森林浴」をすることによって、「心拍数や血圧が下がる」といった、その場で確認できる効果もあります。その他にも、「ストレスホルモンのコルチゾール値が16パーセント下がる」とか、「ヒトNK細胞（ナチュラル・キラー細胞）」を50パーセント以上も活性化させ、同時に「抗がんタンパク質」の濃度も上昇していることが確認されています。

これらの事から、「人の周囲に緑の植物があることによって、健康を改善し免疫機能を強化向上させる」ことが証明されているのです。しかもこれらの効果はその場限りのものではなく、１ヶ月も持続するという結果も得られています。

また別の研究では、１ヶ月に５時間以上自然と共に過ごすと、気持ちが前向きになり、活力が湧いて、ストレスが軽減できるという結果が出ています。

たとえば、毎日３分間ベランダの植物への水やりや世話をし、毎週２回30分間、近くの公園を散策することで、１ヶ月５時間の壁は楽にクリアできます。

生け垣は内側から見る住人に対しては当然のこととして、さらに道行く通りすがりの人に対しても癒しをもたらしてくれます。これは無機的な塀やフェンスでは決して得られない貴重なもので、庭の持ち主だけでなく、その周囲までをも含む地域社会全体にとっても大きな財産となっているのです。

■ 第３章　生け垣の種類

一口に生け垣といいますが、その生け垣にはどのような種類があるのでしょうか。じつは、これが意外と難しい問題でして、生け垣には様々なタイプがあるため、これといった決め手となる分類法が見当たらないのです。

そこで次善策として、生け垣を「場所や用途」「仕立て方」「樹種や特性」などに分けて分類し、それぞれに簡単な説明をつけてみました。

生け垣には以下のように多くの種類がありますが、この中には必要に応じて、作者が独自に名付けた名称もいくつか含まれていますので、あらかじめお断りしておきます。

■ 3-1　生け垣の分類１　場所や用途による分類

■ 3-1-1　外垣（境界垣）

区画・遮蔽・保護などを兼ねて、建物や庭など敷地の外周に沿って設置される生け垣です。高さは1.5～2.5メートル程度が一般的で、もっともありふれた普通に見られる生け垣です。

庭を構成する一部分として、道行く人が最初に目にするのがこの外垣です。美しく手入れをされた生け垣を見るにつけ、庭の主の奥ゆかしさが窺い知れます。

生け垣では葉が小さくて細かく枝分かれする樹種ほど、美しい仕上がりが得られます。しかしその反面、枝葉が密生していると、生け垣内部に日光が届かなくなるため、生け垣内部の枝が枯れ込むことが多く、また風通しも悪くなるため、病害虫が発生し易くなるというマイナス面もあります。この点はもう、生け垣がもつ宿命といっても過言ではないでしょう。

■ 3-1-2　内垣（庭垣）

庭の内部に設置する生け垣を内垣といいます。観賞価値が高く、さらに目隠しや区切りをも兼ねた生け垣です。高さは0.6～1.5メートルまでが一般的です。
当然ながら庭園内部でのデザイン上重要な要素の一つとなります。

使われる樹種も常緑樹・落葉樹を問わず、さらに花木を使ったり、小果樹を植えてみたり、はたまたラティスにつるを絡ませたりなど、外垣よりデザインや樹種の選択幅が遥かに大きくなるため、庭の構成上多くのバリエーションが可能となります。

■ 3-1-3　縁取り垣（境栽垣）

前項の内垣に含められるもので、園路・花壇・芝生・植え込みなどの縁取りにします。高くても１メートル以下。庭全体を構成する要素の一つとして、デザイン上重要な役割を果たします。
縁取り垣は直線的に設置することは少なく、自由なカーブを付けて、優美な曲線に仕上げることが多いです。また幾何学的な図形にしたりなど、アイデア次第で様々なデザインが可能です。

ただ、狭い庭でこの縁取り垣を用いると、くどい感じになったり、庭全体が圧迫される印象にもなるので、縁取り垣は使わない方か無難でしょう。またこういう場合は低めの「草垣（後述）」とするのも効果的です。

■ 3-1-4　斜面垣

「斜面垣」とは、本作者が独自に名付けた名称です。
比較的急な高低差のある場所を覆うように設置する生け垣です。高低の境界は土手の場合だけとは限りません。石垣や擁壁などの構造物を隠したい場合にもこの斜面垣を用いることができます。

斜面の上部・中部・下部など、植える位置によって違う樹種にしたり、寄せ植え的な「混ぜ垣（後述）」とすることも多く行われます。
また刈り込み方法も直線的に仕上げることは少なく、かまぼこ状に膨らみをもたせたり、樹種ごとにあるいは樹木１本ごとにモコモコと波状に刈り込むなど、様々なバリエーションを持たせることが可能です。

斜面垣はその性質上、どうしても幅広になるというか、厚みが大きくなってしまいます。全体的な見かけからすると、「大規模な寄せ植え」という見方もできるでしょう。しかし、生け垣と寄せ植えのどちらと捉えるかは、見る人の考え方次第ともいえます。

斜面垣は比較的広い面積を必要とし、足元も不安定なことが多いので、刈り込みなどのメンテナンスに多くの手間が必要になるというのが最大の欠点です。このため、「茨垣（後述）」以上に植木屋泣かせの生け垣ともいえます。
しかしその反面、適切に維持されている限り、生け垣としての鑑賞価値の高さはトップクラスと言っても過言ではないと作者は考えています。

この斜面垣に関しては、作者自身はこれまでに、京都市内でのただ１個所でしか手掛けたことがありません。
ゆるい坂道に面していたため、斜面の高さ幅共に徐々に大きくなっている所で、常緑樹落葉樹を各種取り混ぜた5種類の樹木を使った「混ぜ垣の斜面垣」でした。刈り込み自体は体力的にもきつい一日仕事だったのですが、仕上がった様子は素晴らしいものでした。この斜面垣を自分で作ったわけでもなく、ただ刈り込み作業をしただけなのに、なぜか誇らしい気分になったことを記憶しています。

■ 3-2　生け垣の分類２　仕立て方による分類

■ 3-2-1　総刈り生け垣

もっとも普通に見られるもので、生け垣全体を一様に刈り込んで、連続的に仕上げたものです。

さらに、生け垣断面の形状から、直方体に見える「方形生け垣」、底辺の広がった「梯形生け垣(台形生け垣)」、頂部を丸く仕上げた「円頂生け垣」などに分けられます。

生け垣としてはもっともありふれた形ですが、それだけに普段からの手入れの良し悪しが直接目につく所です。

■ 3-2-2　玉刈り生け垣

樹木の一本一本が丸く刈り込まれ、それぞれが両側で接するように仕上げた生け垣です。見ようによっては極端に背の低い「列植型生け垣（後述)」と捉えることもできますね。

玉刈りという樹形のため、当然ながら低い生け垣に適しています。また、樹種によっては年数を経るにつれ、「玉刈り」→「波状」→「総刈り」へと移行する場合もあります。

■ 3-2-3　波状生け垣

上記「総刈り生け垣」と「玉刈り生け垣」の中間形に仕立てた生け垣で、上面は波形に、側面を一様に刈り込む生け垣です。

逆に、樹種によっては上面を一定の高さに保ち、側面を枝ごとにモコモコとした波状に仕上げることもあります。このタイプの生け垣は、小枝が密集し、鱗片葉をつけるイブキ類でよく見かけます。

■ 3-2-4　高垣

敷地の外周に設置されることが多く、防風・防火・防音・日除け・目隠しなどを目的とします。高さは３～５メートル程度までが普通です。高さがあるだけに強い風圧を受けるため、しっかりと根の張る常緑の高木類が多く用いられます。

高垣は全体の表面積が広くなるため、大きな遮蔽効果を得ることが可能です。また表面積が広いということから、サンゴジュのような大きな葉をもつ樹種でも、雄大で美しい生け垣とすることが可能です。

しかしその反面、刈り込みや病害虫防除などのメンテナンスに、通常の生け垣より多くの手間や費用が必要となり、その作業自体も、低い生け垣よりずっと難しくなる、などのデメリットがあることも、高垣の無視出来ない特徴です。

■ 3-2-5　列植型生け垣

「ローソク仕立て」「段作り」「玉散らし」などに仕立てた樹木を、間隔を密に、並べて植えたものです。見掛けが生け垣とは思えないような形状ですが、きわめてデザイン性の高い装飾的な生け垣です。

しかしその反面、手入れに大きな手間や剪定技術が必要になるとか、遮蔽や目隠し・防風などの「機能性に乏しい」というマイナス面もあることが、列植型生け垣の大きな特徴です。

最初は総刈り生け垣だったものを、木が大きくなってから、内部の風通しや日当たりを良くするために、列植型に仕立て直す場合もあります。

参考「5-6 生け垣の仕立て直し」

■ 3-2-6　二重垣

高低差をつけて二列に植えた生け垣です。ときには前後三列に植える場合もあります。普通は列ごとに異なる樹種を用い、外側の低い生け垣は「裾垣」と呼びます。高さの異なる生け垣が前後に並ぶことによって、奥行きのある立体感やリズム感が得られます。

この方法は、生け垣の下枝が枯れ上がって、透き間の空いた部分を隠すためにも適しています。
しかしその反面、通常の生け垣より広い場所を必要とするとか、刈り込みなどのメンテナンスがしにくくなるなどの欠点もあります。

また二重垣のちょっと変わったバリエーションとして、石垣や擁壁の上に生け垣を植え込み、その根元から石垣を覆うように、つる性の植物をカーテンを下げるように這わせる、というやり方もあります。

ちなみに作者の自宅では、道路に面した南向きの敷地で、60センチメートルほどの段差があり、そこにキンモクセイの生け垣があります。その根元にマツバギクを植えて擁壁を覆うように垂らしているのです。これが5月～11月まで花を咲かせ続けるため、一年の半分は生け垣以上に目立つ存在となっています。

■ 3-2-7　二段垣

前項の「二重垣」と紛らわしい名前ですが、これも作者が名付けた名称です。
二段垣とは、同一側面で違う樹種を上下二段に見せるという生け垣です。これは刈り込みが二重垣より容易になるとか、植える場所を取らずに済むなどのメリットがあります。

その反面、樹木を詰めて植えた状態になるため、養分や水分の競合が起こりやすくなり、どうしても樹勢の弱いものが衰弱しやすくなるなど、通常の生け垣より管理が難しくなるという面があります。
この二段垣は「混ぜ垣(後述)」の一つのバリエーションとも捉えられるでしょう。

京都市左京区にある「慈照寺（銀閣寺)」の入り口参道に、それは見事で雄大なヤブツバキの二段垣が見られます。銀閣寺へ行く機会がありましたら、「竹垣の銀閣寺垣」と共にぜひチェックしてみてください。
また、この生け垣は Googleストリートビューでも見られますから、ぜひ検索してみてください。

■ 3-2-8　実生垣（播種垣）

生け垣を設置する一般的な方法は、最初に苗木を植え付けて、その後生け垣として仕立て上げるのが普通です。しかしもう一つ別のやり方があるのです。

それは、生け垣を設置したい場所に直接種子を蒔き、発芽した苗をそのまま大きく育てて、生け垣に仕立て上げるという方法です。

苗を植え付ける場合より数年多くの時間を必要とします。しかし、苗を植え付けた場合と比べると、根が深くしっかり張って植物が丈夫に育つため、出来上がった生け垣も、生け垣としての寿命が長くなります。

反面、実生の場合は樹種によっては、樹勢や葉の形状・花形・花色とか、果樹の場合だと果実の品質にも個体差が生じやすくなることもあるのが、欠点といえば欠点です。

しかしその個体変異で、親より美しい花が咲いたり、親より勝れた品質の果実が実るなど、偶然良い方向に向かう突然変異もまれにあるので、百万分の一の奇跡を期待するという楽しみもあります。

種子が調達できる樹種ならどんなものでも実生垣に仕立てられますが、苗木を挿し木で大量増殖するのが難しく、種子が容易に手に入るものが実生垣に適しているといえるでしょう。

参考「コラム１　生け垣の種」

■ 3-2-9　変形生け垣

上記のような型にはまらない、自由な形式の生け垣がすべてここに含まれます。

たとえば、総刈り生け垣のバリエーションとして、以下のようなものもあります。

鹿児島県南九州市知覧町の武家屋敷では、総刈り生け垣の頂部を緩やかな波形に刈り込んで、大海に見立てた生け垣「大刈り込み」が見られます。

また生け垣で、出入り口の両脇に門柱に見立てた刈り込みをしたり、もっと装飾的なトピアリーにしたり、さらに出入り口の両側から枝を伸ばしてアーチ状の

門を設けるとか、土地にゆとりのある場所では、平面のデザインで曲線や角度をつけたり、生け垣の高さや厚みを変化させたりなど、様々な工夫ができます。

それから、作者が以前見かけた、こんな生け垣もあります。
道路沿いの長い生け垣で、途中に数ヶ所、内側に折れ込んで、道路側に開いた空間を設け、そこに小形の花木を植えているものでした。生け垣の単調な見かけを打ち破り、デザイン性も高く、とても素晴らしい生け垣だと感じました。

■ 3-2-10　刈り込まない生け垣

刈り込み鋏やトリマーを使わず、植木鋏や剪定鋏、剪定鋸などで生け垣の手入れをする方法です。つまり、庭木を剪定して仕立てる方法を、そのまま生け垣に応用しようということです。
庭木と同じように細かく剪定することによって、最終的に刈り込む場合よりずっと美しい生け垣に仕立て上げることが出来ます。

このやり方のもっとも目につく利点は、刈り込む場合と違って、葉や枝が中途半端に切れることがないため、手入れ直後の美観が格段に良くなることです。
生け垣に花木や果樹を使っている場合は、それぞれの枝を見定めながら切ることができるため、花芽を残したり、あるいは将来的に花付きが良くなるようにしたり、また、果実が生りやすいように、枝を切ることも可能になるのです。
だから、一律に刈り込む場合と比べると、花付きや実生りが遥かに良くなることになります。

この剪定で仕立てる生け垣には、一般的に葉がやや小ぶりで、大き過ぎず小さ過ぎず、枝もそれ程伸びない樹種が適しています。

それから、鋏すら使わず、茶摘みのように、伸びた芽先を手で摘み取るだけ、という方法もあります。これは特定の樹種にしか適用できない、特殊な手入れ法です。

刈り込まずに生け垣を維持する方法は、手間をかければかける程、美しい生け垣に仕上がる、というのが最大のウリです。

しかしその裏返しとして、非常に大きな手間と時間と剪定技術が必要になる、という点も見逃せません。

これらの技法については、改めて別の一章として書き下ろしていますので、手入れ法など詳しくは「第６章　刈り込まない生け垣」をご覧ください。

★★★

★
★　種をまいて育てると、苗を植え付けるよりさらに２～３年余計に時間と手
★ 間を必要とします。
★　でも、自分で庭造りをしようというほどの園芸家であれば、この程度の時
★ 間は「負担が増えた」というより、むしろ「生け垣を育てる楽しみが増えた」
★ と考えることでしょう。
★
★　・入手しやすく育てやすい生け垣の種
★
★ アケビ、イヌマキ、ウメモドキ、カエデ類、カシ類（アラカシ、ウバメガシ、
★ シラカシ）、グミ類、チャ、ナンテン、ニワウメ、ネズミモチ、ハマヒサカキ、
★ ヒイラギナンテン、ヒサカキ、ピラカンサ、モチノキ、ヤブツバキ、
★ ユスラウメ、ラカンマキ
★
★★★

■ 3-3　生け垣の分類３　樹種や特性による分類

■ 3-3-1　単植垣

　単植垣とは、一種類の植物のみによって作られる生け垣です。地域や樹種を問わず見られる、もっともありふれた生け垣です。

　単植垣は多くの場合常緑樹が用いられます。しかし時にはドウダンツツジとかニシキギのような落葉樹の単植垣もしばしば見られます。

　ありふれているとはいえ、美しい生け垣として維持するためには、時期に応じた適切な刈り込みや病害虫の防除など、それなりの手入れが欠かせないことは言うまでもありません。

■ 3-3-2　混植垣

「混ぜ垣（まぜがき）」「交ぜ垣（まぜがき）」あるいは「吹き寄せ垣」とも呼ばれます。ふつう「混ぜ垣」と呼ばれることがもっとも多いようです。

２種以上の樹木を樹種ごとに、あるいはばらばらに混植して作られます。混ぜ垣には常緑樹だけでなく、落葉樹も比較的多く用いられます。また、常緑樹と落葉樹を混植する場合もあります。各樹種ごとに違った雰囲気を出せるので、四季折々の変化を楽しめます。

しかしその反面、樹種ごとの特性などを熟知していないと、全体に雑然とした印象になることもよくあるので、樹種の選択や配列には特に注意が必要です。

混ぜ垣のバリエーションとも言えるものだと、生け垣と人工的な塀やフェンスなどを組み合わせることも、庭のデザイン上効果的に使用できますし、実例も時折見かけることがあります。

例えば、ツルバラを絡ませたフェンスとサザンカを数メートル毎に交互に植えて、葉の色や質感の違いとか、季節毎に咲く花や香りを楽しむことができます。

■ 3-3-3　色彩垣

美しい花を咲かせる花木、若葉や紅葉が美しく色付く樹木、斑入りの葉をつける樹木など、四季折々様々に変化する色彩をもつ樹種を用いた生け垣です。

花や葉の違いなどで、自分の好みやその場所に合った種類を自由に選ぶことができます。

また、美しい花を咲かせる花木を用いる生け垣を特に「花垣（次項）」と呼びます。

■ 3-3-4　花垣

おもに花の美しい樹木を用いた生け垣です。季節ごとに異なる雰囲気を見せるので、様々な色彩や香りなどを楽しめます。

花だけでなく、果実あるいは紅葉や斑入りの美しい植物を用いる場合も併せて花垣と総称することがあります。

花垣も果樹垣（次項）も、本来は前項の「色彩垣」に含められるものです。しかし大抵の場合、これらが混同されて「花垣」という名前だけが一人歩きしているようです。

■ 3-3-5　果樹垣

食べられる果実が実る樹木を用いた生け垣を「果樹垣」といいます。一口に果樹といっても、店頭でふつうに見られるような、ジューシーな果物だけとは限りません。ブルーベリーのように小さな果実をつけるものとか、ヘーゼルナッツのような堅い実や種子を利用するナッツ類なども、このカテゴリーに含められます。

生け垣として利用できる果樹の種類はそれほど多くはありませんが、花も実も楽しめる種類もありますから、そういう観点から樹種をチョイスするのも、生け垣の楽しみ方の一つと言えるでしょう。

また、人影の少ない場所に果樹垣があると、この果実を目当てに飛んでくる野鳥を庭に誘うこともできます。

■ 3-3-6　茨垣（いばらがき）

刺（とげ）のある植物を材料とした生け垣です。人や動物の侵入防止を主目的とします。犬や猫などに侵入されたくない場合は、これが特に有効です。

しかし、手入れの時や刈り取った枝葉の処理時には、往々にして痛い目に遭うことが多いので、取り扱いには注意が必要です。

扱いが面倒であるとか、通行人への危険性などもあるため、近年茨垣はめったに見られなくなっています。

上記とは別に、葉の縁（鋸歯）が硬い刺になっている植物で、ヒイラギとかヒイラギモクセイなどを用いた生け垣をたまに見かけますが、これらも茨垣の一種と見なせるでしょう。

・茨垣として使える植物

ここには本稿で取り上げている植物のうち、茨垣になりそうな植物だけでなく、つる性の植物や、多少強引に引っ張ってきたものまで含めています。
こうしてリストアップしてみると、茨垣に使えそうな植物って、意外と沢山あるものですね。

アキグミ、アメリカハリグワ、アリドオシ、カラタチ、キイチゴ、クコ、
ザクロ、サルトリイバラ、サンショウ、シホウチク、スギ、セイヨウヒイラギ、
ツルバラ、テリハノイバラ、トウグミ、ナギイカダ、ナツグミ、ナツメ、
ナワシログミ、バラ、ヒイラギ、ヒイラギナンテン、ヒイラギモクセイ、
ヒマラヤスギ、ビャクシン、ピラカンサ、ブーゲンビレア、フユイチゴ、
マホニア、モミジイチゴ

■ 3-3-7　竹垣・笹垣

イネ科の竹類や笹類を用いた生け垣です。適切に手入れされた竹垣は、和風、洋風どちらの庭にもよくマッチします。また笹類で丈の低い種類だと、境栽風とか地表をカバーする地被植物としても使えます。
ただし、竹笹を問わず、地下茎が伸びる種類では、野放図に広がらないように、コンクリート枠などで根域を制限する必要があります。

竹垣の手入れ法は種類によって違うため、ここで個別には説明しません。ただ、高さを揃えるのは、タケノコが伸びきった頃に１回切るだけで済む、というのが竹笹類全体としての共通事項です。

広大な面積が必要なので一般家庭ではまず無理ですが、特殊な竹の生け垣をここにご紹介します。その生け垣は京都市西京区の「桂離宮」にあって、外部から見られます。
これはハチク（淡竹）で作られた「生け垣の桂垣」です。ふつう「桂垣」と呼ばれるものは、太い割り竹の間に竹穂を整然と美しく編み込んだ、構造物の竹垣を指しますが、生け垣にも桂垣と呼ばれるものがあるのです。

この生け垣の桂垣は、生きているハチクを稈の途中で割ってねじ曲げ、生け垣の骨組みに絡めて枝を縛り付けたものです。

桂離宮の東側境界、桂川の土手道に沿って延々と続いていて、とても見応えがあります。この「生け垣の桂垣」と「構造物の桂垣」は共に、Googleストリートビューでも見られます。興味のある方は検索してみてください。

なお、「竹垣」という名前、呼び方について。
一般的に「竹垣」といえば、「四つ目垣」や「建仁寺垣」など、竹材を主材料とする、人工的な構造物に対する呼び名、とされる場合がほとんどなので、生きている竹を用いる生け垣に対して「竹垣」という呼び方をすることはほとんどありません。
「構造物の竹垣」と区別する必要がある場合は、単に「竹の生け垣」と呼んでいます。

■ 3-3-8　蔓垣（つるがき）

蔓垣とは、構造物の竹垣やラティス・金網・フェンスなどの骨組みに、つる性の植物を絡ませたものです。
近年、ラティス風にデザインされた金属製のフェンスもありますので、これに多年生のつる植物を絡ませると、木製のラティスを用いる場合より、遥かに長持ちします。

つる植物といっても、葉の美しい種類だけでなく、バラやクレマチスのように花の美しいものから、アケビやサネカズラといった果実を楽しめるものまで、自分の好みに合わせて様々なバリエーションが考えられます。

さらに、蔓垣の変化型として、気根や吸盤などをもつつる植物を使い、石垣やコンクリート擁壁・建造物の外壁などに自力で這い登らせて、壁面緑化を図ることもできます。
また、壁面につるが自力で登れない場合は、ネットやラティスを壁面に固定してつるを絡ませたり、逆に、生長の旺盛なつるを擁壁などの上から垂らして壁面を覆うという方法もあります。
参考「3-4-3 緑のカーテン」

■ 3-3-9　草垣

生け垣に含めるには違和感があるかも知れませんが、草垣とは「多年生の草本類を使った生け垣」です。刈り込みは普通しません。通常の手入れは、乱れた枝葉や枯れ葉を取り除く程度です。

パンパスグラスのような高性の種類だと、塀や背後の邪魔な景色の目隠しとするのに適しています。ただ、丈が高い種類だと、風で傾いたり倒れたりしやすくなるので、竹材などで前後から挟むなどの補強措置が必要になります。

丈の低い種類だと、花壇や通路の縁取りとして最適です。また斑入りの葉をもつ種類などを用いると、庭が明るくなり、要所要所に使えば、ワンポイントのアクセントにもなります。

また、草垣の材料として、多年草でなく一年草を用いると、一年限りの草垣とすることができるので、自分の好みに応じて毎年草垣の種類を変えて、一年ごとに雰囲気を変化させてみるのも面白いでしょう。

それから、野菜やハーブを草垣として使うことで、収穫と味覚嗅覚が楽しめるなど、草垣によって、庭のデザインや用途の自由度がさらに大きく広がります。

下のリストには、草垣に適している植物として、庭先で栽培されることの多い草花類などの、栽培植物のみを取り上げています。しかしその一方で、普段は雑草として嫌われる存在の植物でも、種類により使いようによっては美しい草垣とすることもできるのです。

一例を挙げると、畑地の雑草として知られるアカザやシロザは、派手さはないものの、柔らかく繊細な色合いの葉をつけますし、その若葉を食用とすることもできます。

ただ、こういった野草を栽培すると、種子が飛び散って思わぬ所へ広がってしまう可能性もありますから、栽培管理には特に気を付ける必要があるでしょう。

・草垣として使える植物

第９章の「生け垣に使える植物」には、草本類は収録されていませんので、ここに草垣として使えそうな植物を挙げておきます。イネ科など、園芸界で「グラス」と呼ばれるグループを含む単子葉植物が多くを占めます。

ただし、生け垣用とはとても呼べないような植物でも、縁取りには使えるということで、高さが数センチメートル程度の低い植物まで取り上げています。また、ここにない種類でも、色々な植物が工夫次第で様々に利用できるでしょう。

【一年草】

アマ、インパチェンス、キンギョソウ、ケイトウ、ソルガム、ハルシャギク、ヒマワリ、ヒメヒマワリ、ホウキギ、ワタ

【多年草】

アイリス、アガパンサス、アスチルベ、アストランティア、アマリリス、アルストロメリア、オキザリス、オリヅルラン、カマシア、カラー、カンスゲ、カンゾウ、カンナ、キク、ギボウシ（ホスタ）、グラジオラス、クリナム、クルクマ、サルビア、ジャーマンアイリス、ショウブ、シラン、スイセン、セキショウ、タカノハススキ、ダスティミラー、タマスダレ（ゼフィランサス）、ダンチク、トキワススキ、トリトマ、ニチニチソウ、ネリネ、ノシラン、ハネガヤ、ハラン、パンパスグラス、フウチソウ、ペラルゴニウム、ベロニカ、ホトトギス、ミソハギ、ムスカリ、モントブレチア、ヤブラン、ユーコミス、リアトリス、リボングラス、リュウノヒゲ、ルドベキア

【野菜ハーブ】

アズキ、アワ、エンバク、オオムギ、オカボ、オクラ、カモマイル、キクイモ、ゴマ、コムギ、シソ、ショウガ、ジンジャー、ソラマメ、ダイズ、チャイブ、トウガラシ、トウモロコシ、トマト、ナス、ネギ、パプリカ、ピーマン、ミニトマト、ミョウガ、ミント、モロコシ、レモングラス

■ 3-4　生け垣でない生け垣

　ここまでは生け垣だけについて分類解説してきましたが、一見生け垣のようには見えるものの、厳密には生け垣とは呼べない生け垣をいくつか、以下にご紹介します。ある意味生け垣の変化型あるいは進化発展型ともいえるものです。

■ 3-4-1　生け垣もどき

　小形の樹木をプランターや鉢に植えて刈り込んだものをいくつか用意しておき、これを玄関先やベランダなどに並べると、意外な場所で植物を生け垣風に楽しむことができます。
　これは集合住宅のような庭のない場所とか、戸建てでも狭くて植物を植え込む余裕のない場所で使えるやり方です。

　ただ集合住宅の場合、緊急時に避難経路の邪魔にならないよう、置き場所には注意が必要です。また管理組合や管理業者等の規定で、玄関前には何も置けないなどの制約がある場合もありますから気をつけましょう。

■ 3-4-2　エスパリエ（垣根仕立て）

　エスパリエ(espalier)は、一見すると普通の生け垣のようにも見えます。しかし、これも厳密には生け垣とは違うものです。
　エスパリエとは、個々の樹木の枝を水平に伸ばし、全体的には垂直な平板状に仕立てたものです。考えようによっては、「極端に厚みの薄い生け垣」という見方もできます。
　庭が狭くて生け垣を作れないとか、通路沿いの壁や塀を少しでも緑で隠したい場合など、スペースに制約がある場合にエスパリエが効果的に使えます。

　また生け垣のためでなく、庭先で果樹を同じように仕立てると、面積当たりの本数を増やせるだけでなく、果実の収穫量を効率的に増やすことができます。
　というか、エスパリエは本来、リンゴやナシなどの果樹を仕立てるために考案された、「枝を誘引するためのガイドにする木枠」のことを指しており、これがそのまま整枝法の名前となったものなのです。

エスパリエは「刈り込む」のでなく、剪定や誘引をして「仕立てる」ものなので、ある程度剪定や整枝の知識と技術が必要となり、刈り込むだけで仕上げられる生け垣とは違って、かなり手間がかかり、難易度も高くなります。

もしこのエスパリエを自分で試してみようと思われたら、市販のラティスを整枝用のガイド枠に使うと、手軽で扱いやすく、美観も良くなるでしょう。

枝葉が密生しやすい樹木を刈り込むだけでも、ある程度はエスパリエらしくすることもできますが、この場合、刈り込んだ部分とそうでない部分との枝葉の密度差が大きくなるため見苦しくなるとか、刈り込みだけでは埋められない空白部があちこちにできるので全体的な美観を損なう、などの欠点があります。

■ 3-4-3　緑のカーテン

緑のカーテンは生け垣とはかなり趣が違ってきますが、一応「つる垣(別項目)」の延長線上にあるものとして、本稿に取り上げました。

夏の日本は、ただ気温が上がるだけでなく、湿度も高くなるため、人々の活動や生活に悪影響を及ぼしています。「日本の夏は熱帯より暑い」という言葉もしばしば見聞きしますね。

伝統的な日本家屋は、この夏の高温多湿を少しでもしのぎ易くなるようにと、高床式と言っても過言ではないほど、床下の空間を大きく取り、軒を深くして日差しを遮り、戸障子を開け放して風通し良くすることが基本構造となっています。

しかし現代の住宅建築では、内外の通気を完全に遮断して、冷暖房の効率を高めて省エネにつなげることが常識となっています。

コンクリートやアスファルトで固められた現代都市では、夏になると周辺地域より遥かに気温の高いヒートアイランドと化します。その暑さの中で屋内を冷房するためだけに膨大なエネルギーを消費し、室外機からは室内を冷やす以上の熱風を吹き出し、その結果、屋外の気温をさらに押し上げるという悪循環に陥っているのです。

省エネとかエコとか、さらに近年ではSDGs(Sustainable Development Goals; 持続可能な開発目標）という言葉をよく見聞きするようになってきました。

夏の蒸し暑さや強い西日を遮り、エアコンの使用時間を減らせ、二酸化炭素（CO_2）の排出量削減にも効果があることなどから、近年、壁面緑化（vertical garden; living wall）や屋上緑化（green roof）などが注目されるようになってきました。しかし、これらを個人住宅で本格的に実行しようとすると、それなりに相当の設備や費用を必要とします。

でも、この壁面緑化を手軽に試せる方法があって、それが「緑のカーテン(green curtain)」あるいは「グリーンシェード（green shade)」と呼ばれるものです。これは日差しを遮りたい場所の軒と地面の間にネットや柵を固定し、それにつる植物を絡ませたものです。

緑のカーテンは、設置するのが簡単な割に、非常に高い省エネ効果が得られます。たとえば、それまで夏の日差しを遮るのに「簾(すだれ)」を使っていた場合と比べてみても、屋内の気温は２～３℃も低下し、室内の快適さが段違いに向上します。

これは強い日差しを遮るということだけでなく、植物の蒸散作用で気化熱を奪うことにより、周囲の気温自体を下げる効果が大きいからなのです。

また、第２章でも詳しく触れていますが、緑の植物の存在そのものが、気分的に涼しさを感じさせるという精神的な効果もあります。

日本では古来、真夏の日差しや西日を遮るために、アサガオやヘチマなどをこのやり方で利用し、夏の風物詩となっていることは皆さんもよくご存じでしょう。日本人って、昔から緑のカーテンを利用してきたんですよねえ!!

緑のカーテンは省エネ効果があるだけでなく、子供たちが身近に緑に触れ、その生長を観察したり、果実を収穫したりなどで、理科・社会・環境などの教育効果もあることから、最近は各地の学校で大規模な緑のカーテンが設置されるようになってきました。

緑のカーテンを設置することには上記のように様々な機能や効果が期待できるのですが、この他にも、外からの視線を遮る目隠しとか、紫外線の直射による外壁の劣化を遅らせる、あるいは緑のカーテンとして植えられた植物そのものを鑑賞する、なども効果・利点として数えられるでしょう。

さらに、花が咲いたり果実を実らせる植物を用いると、「野鳥を呼び寄せる」効果も期待できます。

その一方で、緑のカーテンを設置する時に気をつけなければならないことをいくつか挙げると、
植物を支える支柱やネットは、確実に固定しておく必要があります。台風などの強風に遭っても吹き飛ばされたり壊れたりしないように固定しておかないと、場合によってはご近所さんにまで、思わぬ被害が及ぶこともあります。

緑のカーテンは主材料として植物を使っているため、その植物をエサとする害虫や病気に取り憑かれることも往々にしてあります。そのためにやむを得ず薬剤撒布をする場合もありますが、その折り近所迷惑にならないよう気を付けなければなりません。
薬剤撒布時に注意するべき点については、「第８章　生け垣の病虫害防除」で詳しく述べていますので参考にして下さい。

・緑のカーテンとして使えるつる植物

緑のカーテンで用いられる、おもな草本性のつる植物を以下に挙げておきます。この他、木本性のつる植物では第９章「生け垣に使える植物」にある「つる植物」の大半の種類が緑のカーテンとして利用できます。
また実際に緑のカーテンを設置する場合、特定の植物１種だけでなく、複数の種類を植えることで、見た目の変化を楽しむこともできます。

【一年生つる植物】
アサガオ、オモチャカボチャ、ノアサガオ、ヒョウタン、フウセンカズラ、
ヘチマ、ヘブンリーブルー、ヨルガオ、ルコウソウ

【多年生つる植物】
カラスウリ、スズメウリ、リュウキュウアサガオ

【野菜ハーブ】
アカザカズラ（オカワカメ)、アピオス、アマチャヅル、インゲン、エンドウ、カボチャ、キュウリ、小玉スイカ、シカクマメ、ツルムラサキ、ツルレイシ（ニガウリ；ゴーヤ)、トウガン、トマト、ナタマメ、ニガカシュウ（宇宙いも)、ハヤトウリ、フジマメ、ヘビウリ、ホップ、マクワウリ、ミニトマト、
ヤマノイモ

【木本性つる植物】
第９章の「9-3-6　常緑つる植物」、「9-3-7　落葉つる植物」を参照

■ 第４章　生け垣の植え付け

■ 4-1　生け垣植栽時の事前調査

　生け垣に使いたい樹種を選ぼうとする時、下記の状況が判れば、その場面にもっともふさわしい樹種を選び、絞り込むことができます。また、以後の作業をスムーズに進められるようにもなります。もちろん、必ずしも下記項目のすべてが必要だというわけではなく、調べられる分だけで構いません。

　それから、これは予算とも密接に関連することですが、苗木の価格は、樹種や規格の大小によって上下することは当然として、同じ樹種・同じ規格であっても、地域や季節によって価格が違ってきます。
　だから、実際には希望の樹種をある程度絞り込んで、複数の候補を決めてから、近くの植木屋さんへ行き、可能であれば苗木の現物を見ながら相談にのってもらうことを強くお薦めします。
　本テキストの第９章は、まさにこの樹種選択を容易にするための手助けとなるように作成したものです。

　苗木購入のもう一つの方法は、大手の種苗業者から、カタログやインターネットを利用した通信販売で求めることです。まとまった数量の注文だと、それなりに割安になります。
　なお、（ ）内の数字は、第９章の各特性の番号と対応しています。

・あなたがお住まいの地域は？（6, 9, 10）
　これは地域というより、気候区分ととらえた方が分かりやすいでしょう。
　樹種によっては、暖かい地方でないと冬越し出来ないものがあります。

・生け垣を設置する目的・場所は？（第２章・３章を参照）
　敷地の外周に、庭内の仕切りと目隠しに、園路の縁取りになど。

・隣地との境界はどうなっている？（18, 19）
　段差の有無、フェンスや石垣など既設物の有無、ある場合はその材質・形状・高さなど。

・家の周囲の環境は？（5, 6, 7）
　住宅地、商業地、郊外の農村、海に近いなど。

・道路に面している場合、その道路の幅員・交通量の多寡・歩道や街路樹の有無など。（5, 7, 8）

・方角や日当たり、日照時間はどうか？（7, 8）
　庭木や建物・街路樹などによって日陰にならないか。

・希望する生け垣の種類は？（第３章を参照）

・その生け垣に必要な高さは？（15, 16）
　仕上がりの高さはどの程度にしたいのか。
　苗木から数年かけて希望の高さまで大きくするのか。
　それとも、最初から目隠しなどの効果が必要なのか。

・植える場所の土壌条件は？（7, 8）
　土質や硬軟、土壌酸度（pH）、排水性の良し悪し、土壌改良の必要性。
　石や瓦礫が埋まっていないか。
　上下水道ガス管や浄化槽など、地下埋設物の有無とその位置や形状など。

・あなたの好きな樹種は何？（第９章を参照）

・そしてなによりも、あなたが生け垣に使える予算は？（参照「4-3　自治体による補助制度」）

■ 4-2　生け垣の植え付け

生け垣に限らず、庭木についても同じことが言えるのですが、植物は生きている限り生長を続けます。従って、苗木を植え付ける時にはこのことを考慮しなければならないのです。

生け垣について具体的にいうと、出来上がる生け垣の厚みや高さを想定した上で、あらかじめ苗から仕上がりまでの生長分を見込んで、植える位置を決めなければなりません。特に外周の境界に苗を植える場合には、普通は50センチメートル程度、土地にゆとりがない場合でも、少なくとも30センチメートルは境界から内側に、植え付け位置を控えるようにします。

生け垣は枝葉が密生していて、他の庭木よりはるかに強風の害を受けやすいので、植え付け後は根がしっかり張るまで支柱が必須となります。

苗を植える場合、支柱・苗の保護・侵入防止・美観などを兼ね、さらに比較的安価で済むことから、竹材で「四つ目垣」を設置することが多く行われます。この場合、竹垣の設置を先にやり、その後から苗を植え付けると、作業がしやすいです。

生け垣を設置する場合、建物や庭全体、さらには周辺地域とのバランスや調和を考えて、生け垣の樹種や高さを決めないと、周囲の景観から生け垣だけが不自然に浮いて見えることもあります。

しかしこのことを逆に捉え、周囲と大きく異なる種類の生け垣を作ることで、自分の個性をアピールする、ということもまたアリです。

■ 4-3　自治体による補助制度

近年、街並みの美化や緑化、震災時の安全性確保、はたまたエコ活動への取り組みなどが、地域ぐるみで積極的に行われるようになってきています。

その行動実践の一環として、

「新たに生け垣を設置する」あるいは

「ブロックなどの塀を取り壊して生け垣に変更する」

などの場合、その工事費用に対して一定の補助金を出そう、という自治体が各地で増えています。この補助制度を利用することで、生け垣を意外と安価に設置することができるのです。

生け垣を作ることが決まったら、まずはあなたがお住まいの自治体で、この補助を受けられるかどうか、関係部署に問い合わせてみることをお薦めします。

それから、この補助制度を利用する際に注意しておきたいことがいくつかあります。それは、補助を申請する際に、それぞれの自治体によって補助を受けられる条件が異なるからです。たとえば、

「生け垣を設置する前に申請しなければいけない」

「生け垣を植栽する前後の写真が必要」

「購入した資材の領収証を添付しなければいけない」

「補助金額は工事費用のXX%以内、最高YY円まで」等々。

また各自治体の予算によって補助の総額が決まっているため、年度末が迫った時期に補助の申請をしても、すでに予算枠を使い切っていて、それ以上は補助を受けられないというケースもあります。

だから、確実に補助を受けるためには、会計年度中のなるべく早い時期に申請するようにしましょう。

■ 第５章　生け垣の刈り込み

生け垣の良さ美しさは、デザイン的な要素は当然として、何よりも生きている植物特有の変化に富む色彩や、見た目の柔らかさ、生命感にあります。これは無機的な塀やフェンスでは決して得られないものです。

その美しい生け垣を作り上げ、維持するために欠かせない、もっとも重要な作業の一つが「刈り込み」です。

■ 5-1　安全上の注意

刈り込み作業は刃物を持って行うため、安全には常に気をつけなければなりません。特に電動式バリカン（トリマー）を使用する時は、手刈りの場合と違って、刈り込み速度が段違いに速いので、ちょっとしたはずみで深く刈り過ぎてしまったり、誤って電源コードを切断したり、最悪自身が怪我を負うことすらありますから、注意の上にも注意を重ね、急がないようにと常に意識して、ゆっくり丁寧に作業を進めましょう。

刈り込み作業に脚立や三脚を用いる場合は、ガタつきのないように確実に立て、必要ならトラを張って（脚立にロープを張って倒れないように支えること）、常に安全作業を心掛けましょう。

■ 5-2　刈り込みの道具

刈り込み作業に使う道具としては、「刈り込み鋏」がもっとも手軽で扱いやすく、安価で済みます。他に、太い枝を切るための「剪定鋸」や「植木鋏」、「剪定鋏」、それからバリカン方式で刈る「トリマー」なども市販されています。

機械を使うと効率よく刈り込みができますが、庭木手入れの初心者であれば、まずは刈り込み鋏での手刈りから始めるのが無難でしょう。

トリマーは手刈りで使うものから、コードレスタイプの充電式、家庭用交流電源を用いる電動式、小型の二サイクルエンジンを載せたエンジン式など、それぞれのタイプで多くの機種が販売されています。

刃物以外では、高い生け垣などの高い位置で作業する時は、脚立や三脚などが必要になります。この扱いについては、上記「5-1　安全上の注意」をご覧ください。

それから、園芸趣味家が使うことはほとんどありませんが、プロの業者だと、12尺(約3.6メートル)を超えるような、高い三脚を使いこなします。また、取り付きの悪い場所での手入れのため、電気工事でよく見られる「高所作業車」も、見掛けることがあります。

■ 5-3　刈り込みの時期

■ 5-3-1　生け垣の刈り込み適期

生け垣の刈り込みの時期といっても、樹種によって違ってくるので一概には言えませんが、一般的に常緑樹の場合は、新芽が伸びきって成熟した頃を刈り込み時期の目安とします。樹種や地域・気候などである程度前後しますが、おおむね６月から梅雨が明ける頃までが刈り込み適期となります。

春に枝が伸び出して見苦しくなったからと、生長が盛んな時期に刈ると、かえって樹勢を損ない、さらに樹種によっては枝枯れの原因ともなりますから、新芽が伸びている時期に鋏を入れるのは、樹種を問わず厳禁と心得てください。これはすべての植物についての共通事項です。

夏に土用芽が伸びて樹形が乱れてしまった場合は、秋にもう一度、樹形を軽く整える程度に刈り揃えます。この時に深く刈り込むと、樹勢を損なったり、翌年花が咲かなくなったりするので、気を付けなければいけません。

また落葉樹の場合は、休眠している冬季から、春に芽がふくらむ直前までが刈り込みの適期となります。ただし寒冷地では、地表が凍結するような厳寒期とか、根雪が残っている時期は避けます。

■ 5-3-2　花垣の刈り込み時期

サツキやツツジ類・サザンカなどの花木を使った生け垣では、次の時期に咲く花の元となる芽が作られる時期（花芽形成期）によって、刈り込みの時期が決まります。ふつうは花が咲き終わった直後を、刈り込み作業を行う時期の目安とします。

刈り込みの時期を間違えると翌年に咲く花が少なくなったり、最悪花が咲かなくなることもありますから、花木の場合は刈り込みの時期を誤らないよう、特に注意が必要です。

■ 5-3-3　果樹垣の刈り込み時期

花を咲かせるだけてすむ花木の場合と違って、果樹垣の場合は、花が咲き終わった後も、果実が成熟するまで長期間を要します。第９章のリストにはさまざまな果樹を取り上げていますが、それぞれの種類によって、果樹としての手入れや剪定などの時期が異なってきます。

果樹垣の取り扱いは、果樹としての手入れに準じることが基本となります。ただ、個々の果樹についてここで取り上げると煩雑に過ぎるので、それぞれの種類については参考書を見るなり、ウェブサイトで調べるなりしてください。

また、第９章で個別に解説のある果樹では、記事中に手入れの時期を記載したものもあります。

■ 5-4　刈り込みの要領

以下に刈り込みの方法を解説しますが、ここでは主として刈り込み鋏による手刈りの場合について記します。

またこのやり方は、作者が初心者を指導する場合に「こういうふうにすれば楽に刈れて、効率よくきれいに仕上がりますよ」と教えている方法です。ある程度刈り込み作業に慣れてきたら、自分のやりやすいように適当にアレンジすれば良いでしょう。

初めて生け垣を刈る時は、どうしても恐る恐る手をつける、という感じになるかと思います。しかし、大抵の植物は多少切り過ぎたとしても、その切り口付近から新しい枝葉が出てくるので、切った直後はやや美観を損ねるという以外に、大きな問題となることはありません。ただ実践あるのみです。

ただし、下記「5-4-3　切り返しができない生け垣」にも書いているように、樹種によっては枝を切り詰めると、その後芽吹きしない場合もありますから、その点だけは気をつけましょう。

生け垣の刈り込みで以下に記す内容には、作者が長年の経験から考案した独自の方法が含まれています。一部はプロの目から見てもどうかと思われるかも知れません。しかしまあ、この場はガーデニングの初心者や趣味家を対象としているから、ということで。

■ 5-4-1　刈り込み鋏の持ち方

初心者の場合、刈り込み鋏は長い柄の端の方を持って刈ることが多いようです。しかしこれでは刃の位置が定まらず、切り損なうことがよくあるので、柄の先端から３分の１辺りを持つようにします。こうすることで刃先の位置が安定し、作業が遙かに楽になり、正確な位置で刈ることが出来ます。

柄の先端部を持つのは、そこを持たないと届かないような場合だけにします。

刈り込む時に両手を同時に動かして刈ろうとすると、これも刃先が安定せず、刈り面がデコボコになりやすいです。基本的に、(右利きの場合)左手は動かさずに刃先が刈り面の位置を常にキープするようにし、右手だけを動かして刈ると、

刃先が安定して正確な位置で刈ることができます。場面は異なりますが、食事での箸の動きと同じだと考えると分かりやすいでしょう。

刈り込み鋏は刃が長いので、一度に多くの枝を刈ることが出来るのですが、初心者の場合、刈り込みに慣れるまでは刃先の部分だけを使い、一度に２～３本の枝を切るようにします。時間はかかりますが、刈り込みの深さが一定になるようにしなければいけないからです。鋏の扱いに慣れてきたら、徐々に自分に合ったやり方に変えていきます。

見た目を美しく仕上げる簡単かつ最大のポイントは、「たびたびその場を離れて、作業状況を遠くから眺める」ことです。一歩下がって他人の視点から見直すことで、作業中は気付かなかった仕事のアラが見えてくるものです。

■ 5-4-2　刈り込みの深さ

生け垣の一般的な刈り込み作業では、刈り込んだ後の見栄えが良いようにと、ある程度葉を残すために、前回の刈り込みより数センチメートル外の位置で刈ることが普通です。しかし、こういう刈り込みを毎年繰り返していると、ほんの数年後には生け垣全体が大きく膨らんでしまうことになります。

この生け垣が年々膨らんでいく問題を回避するために、本作者が自宅の生け垣で行っている方法をご紹介します。
この場合、刈り込みの位置は、前年刈った切り口のすぐ外側を目安とします。この位置で切ると、前年刈った後に出た枝や、今年伸びた枝をほとんど全部切り捨ててしまうので、刈り込んだ直後の見栄えが良いとはいえないのですが、こうしないと生け垣の大きさを一定に保つことができないのです。

ただ、前年の切り口のすぐ外側で毎年刈っていても、年数を経るにつれ、徐々に外へ外へと少しずつ膨らんでいくことはどうしても避けられません。一般的な刈り込み法よりも、生け垣の膨らむ速度を遅らせるだけなのです。
こうなった場合、膨らみが目立ってくる前に、飛び出た枝を刈り面よりさらに数センチメートル内側まで切り返して、生け垣内部から新たな枝を出すようにします。これを年々繰り返すことによって、生け垣を同じ大きさのまま維持することができるのです。

生け垣を同じ高さのままで維持する場合も上記のやり方で行います。植物は上方向に向かって強く生長する性質があるので、生け垣の天端（てんば＝上面）ではこの切り返しを頻繁に行うこととなります。

このやり方は、深く刈り込むこととか、切り返しを併用することで、ある程度樹勢を抑えることにもなるため、刈り込み後に出る枝が長く伸びず、生け垣全体としての樹形の乱れが少なくなるというメリットもあります。

ただ、この方法には見過ごせない欠点もあるのです。それは、普通に刈り込むだけの場合と比べて、ゆっくり丁寧に作業を進めなければならないので、大きな手間と時間が必要になるということです。

まぁこれは好きなだけ時間をかけられる、趣味家だからこそやれることだと割り切るしかないでしょう。本職に依頼すればこの方法でやってもらうこともできるのですが、当然ながらそれなりに費用が嵩むことは避けられません。

ちなみに、作者の自宅には30数年前に植えたキンモクセイの生け垣があるのですが、毎年上記のやり方で手入れを続けているため、高さ170センチメートル、厚さ40センチメートルで、現在に至るまでずっと同じ大きさを維持しています。

■ 5-4-3　刈り込みの深さ 苗木の場合

苗木からの養成途上で、生け垣完成予定の高さまでもっと伸ばしたいという場合は、伸びている枝の状況に応じて刈り込みの深さを決めます。今年伸びた枝の先端からおおよそ３分の１～２分の１程度を刈り込み位置の目安とします。こうすることで切り口付近から新たに数本の枝が出てくるので、将来的に枝葉が密生した見栄えの良い生け垣が出来上がることになるのです。

この時、早く伸ばしたいと考えて、刈り込みをせずにおくと、伸びる力が上の方にばかり集中して、逆に下枝が弱ってしまったり、樹種によっては下枝が枯れ込むことすらあります。だから、たとえ苗木といえども刈り込みを怠ってはいけないのです。

また、放任状態のまま伸ばしていると、枝数が増えずにまばらなまま大きくなるので、生け垣は早く出来上がったものの、透き間だらけで見栄えの悪いことこの上なし、という結果になってしまいます。

■ 5-4-4　切り返しができない生け垣

上記の刈り込み法を行うことで、生け垣を一定の大きさのまま長期間維持することが出来ます。ただ、コニファー類など、ヒノキ科やマツ科植物の大半の種類では、切り返しをすると、残した枝は新たな芽を出すことなく枯れてしまうので、切り返しどころか深い刈り込みもできません。

ヒノキ類の生け垣が大きく膨らんでしまったものを、ある程度コンパクトに仕立て直す、こんな方法もあります。
伸び過ぎた枝を紐で樹冠内部に引き戻す、というやり方です。しかしこれをすると、生け垣表面のあちこちに穴が開いてしまい、その穴が埋まるまでの数年間は、見映えの悪い状態が続くこととなります。

■ 5-4-5　側面の刈り込み

以下は、生け垣としてすでに完成している場合の刈り込み方法です。
刈り込みを始める時、まず第一に生け垣の両端、途中で折れ曲がっている場合はその角の部分も、横方向に長さ0.5～１メートル程度を所定の形に刈り整えて、角がはっきり分かるようにして、刈り面全体の目安とします。

次に側面の刈り込みをします。大体胸の高さから刈り込み鋏が楽に届く高さまで、幅30～50センチメートルを上に向かって刈り、さらに足下に向かって下方向に刈り、順次横に移動しながら刈り進めます。脚立がないと届かないような高い位置の刈り込みは後回しにします。

トリマーを用いて側面を刈る場合、基本的には刃先を下から斜め上方向に移動しながら刈ります。上部では横方向に刈っても構いませんが、決して上部から下向きに刈ってはいけません。樹種によっても違いはありますが、大抵の場合上からは刈りにくいだけでなく、その刈り面もデコボコになってしまうからです。
特にコニファー類など、枝が斜上して伸びているものをトリマーで刈る場合は、必ず下から斜め上に向かって刈るようにすると、楽に刈れるし美しい仕上がりが得られます。

もう一点気を付けたいことは、日当たりの良くない場所などで、枝葉の密度が薄い部分でも、往々にして気付かずに深く刈り過ぎてしまう傾向があるので、こういう部分の刈り込みには特に注意が必要です。

それから、側面の最上部、天端（てんば＝上面）との境目となる稜線の付近は、規定より長めに残しておきます。理由は（5-4-7　稜線の仕上げ）に記します。

■ 5-4-6　天端の刈り込み

側面を両面とも刈り終えたら、次に天端（てんば＝上面）を刈ります。この時、手元付近よりも身体から遠い部分の方が、目の錯覚で刈る高さが高くなる傾向がありますから、きちんと水平に刈るよう気をつけましょう。

天端を水平に刈るには、生け垣から離れた所にある建物や塀などを生け垣越しに見通して、刈り面高さの基準とします。ただ、この基準となる構造物は、生け垣と平行になっていないと正確な水平線を出すことが難しいので、気を付ける必要があります。

この基準となるものがない場合でも、度々その場を離れて作業状況を見直すことで、刈り込みがきちんと出来ているかを確認・修正できます。

天端を刈る時に、生け垣内部に刈り屑が引っ掛かっていたら、残さないよう丁寧に取り除かなくてはいけません。

それから、これはとても重要なことですが、側面と天端の境界となる稜線付近の枝は、規定位置より数センチメートル長めに残しておきます。理由は次項に記します。

■ 5-4-7　稜線の仕上げ

刈り込みでの終盤の作業として、側面と天端の境となる稜線を一直線に切り揃える作業をします。この稜線をまっすぐに仕上げることは、生け垣の美観と完成度を左右する、もっとも重要なポイントの一つです。

長さの短い生け垣だと、目につくことはそれほどありません。しかし、途中で角度がついていたり、道なりにカーブしていたとしても、生け垣が長くなる程、

また小さな葉をつける樹種程、この稜線が揃っていることが、生け垣全体の仕上がりに大きく影響してくるのです。
　側面と天端の刈り込みに際しては、この稜線部分の枝はやや長めに残しておき、側面と天端を刈り終えてから、最後に稜線を真っ直ぐに切り揃えて、刈り込み終了となります。

　大事なことなので重ねて言いますが、稜線部の仕上げを後回しにすることは、とても重要なことなのです。特に初心者が刈り込みをする場合、最初から稜線をきれいに切り揃えたつもりでいても、大抵の場合、後になってあちこち切り過ぎていたことに気付くものです。

　例えば側面などをきれいに刈っていたとしても、稜線がデコボコしていては、生け垣全体の見栄えが悪くなり、だらしなく感じられるため、画竜点睛を欠くこととなってしまいます。
　まあ本職が刈り込むと、最初からビシッと仕上げることもできるのですが、この場は初心者向けのハウツーということなので。

■ 5-4-8　稜線に丸みを持たせる

　上記は稜線部が直角で一直線に見えるように仕上げる方法ですが、この稜線に丸みを持たせるようにすることもよく行われます。また天端全体をかまぼこ状に丸く仕上げる「円頂生け垣」にしたものも見かけます。
　これまで本稿の旧バージョンでこれを書かなかったのは、初心者には技術的にかなり難しい作業だからです。

　丸みを持たせて刈り込むこと自体は、割と簡単にできるのですが、刈り込みを終えてから生け垣全体を見渡した時に、この丸みがまっすぐに揃っていないと、非常に見苦しくなってしまいます。
　このまっすぐに揃えることが、初心者には中々出来ないことなのです。

■ 5-4-9　根元付近の処理

犬や猫などの小動物に侵入されたくないとか、道路との段差が大きいため、外側からの視線が気になるなどの理由から、地面すれすれまで葉を繁らせている生け垣をよく見掛けます。

しかし、そういう視線や小動物の侵入が気にならない、気にする必要がない場合は、生け垣の高さに応じて、地表からおよそ10～20センチメートル程度まで、すべての枝を切り除いて、一定の高さに空間を空けておきます。この空間の高さは一直線に仕上げることが重要です。前記稜線の仕上げと同じ理由ですね。

こうすることで、地表付近まで葉が繁っている場合と比べて、足元がすっきりして、生け垣全体の見映えが格段に良くなるのです。

また空間を空けて風通しが良くなることで、病害虫の発生が少なくなり、庭内の植物も健全に生育するようになります。

■ 5-5　刈り屑の処分

生け垣の内部に、刈り取った枝葉や古くなった枯枝枯葉などが引っ掛かっていると、単に見苦しいというだけでなく、枯れ葉や枯れ枝そのものが病気や害虫の巣窟にもなりますから、生け垣内部に引っ掛かっている刈り屑は、必ず丁寧に取り除かなければいけません。

刈り取った枝葉はきれいに掃き集め、あなたがお住まいになっている自治体の、ゴミ出しルールに従って正しく処分しましょう。

また枝葉を小さく切り刻んで、庭仕事や鉢植えで使用する腐葉土を作る材料とすることもできます。これはゴミ処理による二酸化炭素の排出を抑え、環境負荷を軽減する、ベストな処分法と言えるでしょう。

作者自身の例でいえば、自宅での庭木や生け垣から出る剪定屑はすべて、専用の機械に通して細切れにし、腐葉土作成の原料としています。

■ 5-6　生け垣の仕立て直し

　生け垣を長年維持し見慣れてくると、時には飽いてしまったり、目先の変わった生け垣に変えてみたいと思うこともあるでしょう。かといって、今ある生け垣を全撤去して、苗木から新たな生け垣を養成するとなると、長い時間と膨大な手間や費用がかかることが避けられません。

　そこで、現在ある生け垣を、それまでとは見た目が大きく異なる生け垣として作り直す方法もあるのです。

■ 5-6-1　生け垣の高さを変える

　生け垣の高さを変えるのは簡単です。今の高さより刈り込みの高さを高く設定する、あるいは低い位置まで切り戻す、それだけです。芽吹きの良い樹種であれば、たいていの場合、どの高さで切っても大丈夫です。

　これは仕立て直しと呼ぶほど大げさなものではないのかも知れませんが、高さが変わるだけでも、生け垣全体の印象は結構違って見えるものです。

　今ある生け垣をもっと高くしたい場合の刈り込み方法については、「5-4-2　刈り込みの深さ」を参考にしてください。

　生け垣を今より低くしたい場合は、もっと簡単です。希望する高さで一気に切り落とすだけのことです。太い幹や枝を切った場合は、切り口に保護剤を塗っておくと、回復が早まり、後の芽吹きも良くなります。

　ただ、樹種によっては太い幹や枝を切ると、芽吹きし難いものがあるので注意が必要です。特に針葉樹のマツ科やヒノキ科の樹木では、原則切り詰めは出来ないものと考えるのが良いでしょう。

■ 5-6-2　生け垣の種類を変える

　生け垣を長年手入れしていると、生け垣全体が年々少しずつ膨れてくることがどうしても避けられません。これを避けて生け垣を一定の大きさで維持するための一つのやり方が、上記「5-4-2 刈り込みの深さ」で説明している「切り返し法」です。

　この切り返し法も仕立て直しの一種と考えることもできますが、生け垣の種類そのものを変える、根本的な仕立て直しをすることも可能なのです。
　この仕立て直しが出来るのは、ある程度切り詰めても萌芽力（新しく芽を出す力）の強い樹種に限られます。ふつうは「総刈り生け垣」から「玉散らしの列植型生け垣」に仕立て直すことが多いです。
　枝を１本ずつ見定めながら、細かく切らなければならず、整枝や剪定の技術も必要なので、園芸初心者にはほぼ無理な作業となるでしょう。
　しかし、この仕立て直しがうまくいくと、非常に装飾的で見栄えの良い生け垣が出来上がります。

　作者はこれまでに、列植型に仕立て直したものを、ただ１ヶ所でのみ確認しています。樹種はカイヅカイブキで、総刈りで側面が波状の生け垣だったものを、玉散らし樹形の列植型に変更したものでした。
　作者が見た時は隙間だらけだったので、樹形を変えてからそれほど経っていないようでしたが、それでも全体的な見かけは素晴らしい印象でした。ただ、今後は手入れの手間が大変だろうなという感想もありましたが。

★★★

★　一見して「なるほど」と誰もが納得するやり方です。
★　しかし、実際に現場でこれをしようとすると、例えばほんの数メートル程
★ 度の短い生け垣であっても、所定の位置に水糸を真っ直ぐ張ることは、伸び
★ た枝葉が邪魔になって非常に困難な作業となります。
★
★　かといって、稜線から離れた位置に水糸を張ったところで、刈り込みの基
★ 準になる訳もありません。特に高い生け垣で水糸を真っ直ぐに張ろうとして
★ も、不可能とは言わないまでも、現実的なやり方とはとても思えません。
★　多少大袈裟に言えば、水糸を真っ直ぐに張るだけの時間があれば、刈り込
★ みそのものを終えてしまいます。また、刈り込み作業中に間違って枝葉と一
★ 緒に水糸を切ってしまおうものなら、それまでの苦労が一瞬で水の泡と消え
★ てしまうのです。
★　理論と現実は全然違うという典型的な例ですね。
★
★　まあゆっくり時間を掛けられる園芸趣味家ならまだしも、時間に追われる
★ ことの多い本職からしてみると、こんな方法はとてもやってられないです。
★　それにほとんどのイラストが、大半の刈り込みを終えてから水糸を張った
★ ようにしか見えないのはなぜでしょう。もしこれを実践したのであれば、間
★ 違いなく写真を撮るべき場面だと思うのですが、これまでそんな写真は一度
★ も見たことがありません。
★
★　じつはこのやり方の出典となったものは､西洋で数100年も前に出版され
★ た、ガーデニング本に載っていたイラストなのです。イラスト自体は新しい
★ ものに変わっていても、こういう非現実的な方法をどういうお積もりで自著
★ に載せようと考えられたのでしょう。この方法を取り上げた先生方は本当に
★ これを実践したことがおありなのでしょうか。それとも単にこんな資料があ
★ ると紹介されただけなのでしょうか。
★　本作者がかねがね疑問に思っていることの一つです。
★
★★

■ 第６章　刈り込まない生け垣

刈り込まないとはいってももちろん、何もせず放任状態にするという意味ではありません。これは刈り込み鋏やトリマーを使わずに、生け垣を美しく維持する方法です。

生け垣といえば、ほとんどの方が「刈り込んで仕立てるもの」と考えるでしょうね。この考えは正しいとは言えないのですが、あながち間違っているという訳でもありません。

有り体に言えば、生け垣をある程度見栄え良く仕立て上げるためには、刈り込みをするのがもっとも効率的で、しかも安上がりで済む、というだけの話しなのです。

しかし、園芸趣味家を自認するような方であれば、効率を求めず、手間や時間を惜しみさえしなければ、刈り込む場合よりもっと美しい生け垣を作り上げることも可能なのです。

■ 6-1　剪定して仕立てる生け垣

庭木の手入れでしばしば見られる「透かし（透かし剪定）」と呼ばれる技法を生け垣に応用したものです。

ただこの技法は、刈り込む場合より段違いに多くの時間と手間と高度な技術力も必要となります。庭木の手入れを専門に修行した人でも、透かしの技術を駆使して美しく仕上げられるようになるまでには、数年を要するほど難しいことなのです。

■ 6-1-1　仕上がりをイメージする

以下は主として常緑広葉樹についての説明です。

まず最初にやること。

少し離れた所から生け垣全体を見渡して、あらかじめ仕上がりの高さをイメージしておきます。前年まで刈り込みをしていた生け垣の場合だったら、その刈り

面を仕上げの目安とすれば良いでしょう。
　本職なら、これから手入れをしようという植木を見たら、毎年手入れしている木であっても、作業にかかる前には必ずしていることです。見た目とは裏腹に、ただ無雑作に切っているのではありません。

■ 6-1-2　天端の切り返し剪定

　生け垣の刈り込みといえば、最初に側面を刈り、次いで天端を刈るのが通常の手順です。しかし、刈り込みをせず剪定で仕立てる生け垣の場合は、枝葉が混み合っている天端から最初に手を付けることとします。

　始めに想定した高さに合っている枝を基準として、それより高い枝を、想定面より内側まで切り詰める「切り返し剪定（切り戻し剪定とも）」をします。切る位置は、葉の付け根から3ミリメートル程度上にします。

　残した枝先には必ず葉が着いているようにします。これが刈り込む生け垣と刈り込まない生け垣の、もっとも大きな違いの一つです。
　このやり方を実践することで、刈り込む生け垣には必ずついてくる、葉の無い枝先とか、半端に切れた葉といった見苦しさがなくなります。

　ただ、刈り込む場合と違って、枝先の高さが一定にはならないため、全体を見通すと、ある程度でこぼこになることがどうしても避けられません。しかし、この高さのばらつきがあることによって、生け垣全体が優美で自然な感じに仕上がり、柔らかな見かけにも繋がります。そのため、手入れをした直後でも、刈り込んだ場合とは段違いに見映えが良くなるのです。

　この、高さのばらつきの幅は、生け垣の大きさや樹種によって多少前後しますが、ばらつきが小さくなるほど、見かけが整形生け垣に近くなり、自然さが薄れてきます。
　言葉で表現するのは難しいのですが、この辺りの兼ね合いは、経験を重ねるしか上達の道はありません。

最終的には、この枝先の葉が樹冠全体に均等に分布して見えるかどうかが、全体的な美観を決める最大のポイントとなります。

この「枝葉を均等に配分する」という作業は、初心者にはかなりハードルが高いです。剪定に慣れた上級者がやっていても、この仕上がり具合を見るだけで、技量の良し悪しが如実に表れる所です。上達するまでは、何度も離れた位置から見直して、修正を重ねていくこととなります。

■ 6-1-3　天端の枝抜き剪定

生け垣全体で枝の密度に極端なばらつきが出ないように、小枝が混み合っている部分では、枝数を減らすために「枝抜き剪定（間引き剪定とも）」を行います。

こういう枝を中途半端に切って残しておくと、その枝から出てくる新しい枝もまた長く伸びてしまうので、強い枝そのものをなくすためにも、枝の付け根から切り落とすのです。

枝抜きをしても間に合わないような、小枝が密集している部分では、小枝がついている太い枝や幹自体を、ある程度下の方まで切り縮める「切り返し剪定」を行います。

実際の作業では、上記「切り返し」と「枝抜き」は、場面に応じて両者を使い分けながら、同時進行で行うこととなります。

■ 6-1-4　側面と稜線と仕上げ

側面についても上記とほぼ同様ですが、枝の向きが揃わず、天端より密度も薄いので、ばらつきの幅は天端より小さめにする方が、全体的な見映えが良くなります。

稜線部については、刈り込む場合とは逆に、稜線の角をはっきり出すことはせず。やや丸みを持たせて自然な感じが出るようにしましょう。

枝の密度の濃い部分があったら、適宜追加の枝抜きをして、生け垣全体に平均するように仕上げます。

最後に、生け垣全体を見渡して、目につくような飛び出た枝先を、1節2節切り縮めて、全体がバランス良く見えるように整えて、手入れ完了となります。

■ 6-2　鋏を使わない生け垣

基本的に、植木鋏すら使わず、「素手で枝先を摘み取るだけ」という手入れ法です。これは京都では時折見かけることがあるのですが、このやり方はヒノキ科のイブキとか、イブキに似た葉や樹形をもつ、コニファー類のみで行われる技法です。

■ 6-2-1　手摘みの方法

基本的なやり方は単純です。数センチメートル伸びた枝先を、適宜手で摘み取るだけです。これは細かくすればするほど緻密に仕上がり、鋏による切り口も見えないので、非常に見映え良く美しい生け垣が出来上がります。ただ、細かくするほど、時間と手間を要することは言うまでもありません。

手で摘み取れないほど長く伸びた枝は、やむを得ず植木鋏で切ることになります。この時、鋏の刃先は斜めに差し込んで、枝の軸だけを切ることが大切で、残す芽先を極力傷付けないようにします。

樹種と手入れ法から想像できるでしょうが、生長期には常に見回って、小枝が伸びる傍から、頻繁に摘み取る必要があります。そのため非常に大きな手間を要することが避けられません。しかし、その仕上がりは絶品です。

この芽摘み法は、同じイブキを、「刈り込んで仕上げ、その数週間後に新芽が生え揃った頃」と同じような感じに仕上がります。

この手摘み法を行うと、手入れ直後でも、樹冠が美しく揃った状態で維持できるだけでなく、刈り込む生け垣には必ず付いてくる、切り口が茶色に変色する見苦しさが無くなるのです。

こういう手の掛け方を考えると、盆栽を培養することに相通ずるようにも思えますね。

■ 6-2-2　手摘み法で注意すること

　枝先を摘み取るため、手元に意識が集中してしまい、周りが見えなくなりますから、作業中はたびたび周囲を見渡して、生け垣の全体がでこぼこにならないよう、気を付けなければいけません。

　作者が修行していた頃の京都では、あちこちで芽摘みをしている庭があったのですが、近年こういうやり方をしている所は、めったに見かけなくなってきました。美しく整った庭を維持するためだけに、これだけの手間をかけさせて頂けるほど、心の、あるいは金銭的なゆとりが無くなってきたのでしょうか。残念なことです。まあ時代が変わったのだから、と言われればそれまでのことなのかも知れませんが。

■ 6-2-3　茶摘みとの違い

　ところで、茶畑での茶摘みを見ていると、他の広葉樹でも同じことが出来るのではないかとも思えます。確かにその通りで、茶畑の整然とした様子を見ると、生け垣にぴったりではないかと考えても不自然ではありません。

　しかし茶畑は、その道のプロが茶摘みのためだけに、茶樹にとって最高の環境となるよう、年間を通して大切に手を掛けてきた結果なのです。
　植物の生育にとって最適とは程遠い環境の庭先で、茶摘みと同じことをしても、同じ結果が得られるはずもありません。

　前記「5-3-1　生け垣の刈り込み適期」でも述べていますが、基本的に、新芽が伸びている最中に、その新芽を摘み取る行為は、その植物に対して非常に大きなダメージを与えることになります。
　イブキの芽摘みや茶摘みという技法は、イブキやチャという植物の特性を最大限に生かしたやり方なのです。こういうことが出来る植物は、植物界全体から見ると、特殊な例外なのだと理解してください。

■ 第７章　肥料

生け垣は庭木と同じ樹種を用いることが多いため、通常の肥料管理も庭木とほぼ同じように行います。つまり、庭木に肥料を施す時、同時に生け垣にも肥料をやれば良いということです。

■ 7-1　肥料の種類

肥料の種類は、基本として窒素・リン酸・カリが同じ割合の化成肥料がもっとも手軽で使い易いでしょう。土壌改良を兼ねて、牛糞堆肥や腐葉土などを一緒に施用したり、有機肥料を用いるのも効果的です。

花木や果樹の場合は、窒素分の割合が少ない、あるいはリン酸・カリ分の割合が多い肥料を用います。

ただ、開花期の直前に窒素分の多い肥料を与えると、花が咲く前につぼみのまま落ちてしまったり、果樹の場合、開花しても果実が生長せず、幼果の段階で落ちてしまうこともママありますから、施肥の時期には特に注意が必要です。

■ 7-2　施肥の時期

施肥の時期は、一般の庭木と同じで、冬の寒い時期に寒肥として与えます。その他に、生育期間中にも、必要に応じて適宜追肥を施します。

また、刈り込みをした直後は、一時的に樹勢が衰えるので、ほんの少しでも肥料を与えることで、樹勢回復や芽出しを早める効果があります。

■ 7-3　施肥の方法

植え付け前には元肥として、あらかじめ堆肥や化成肥料を土に混ぜておきます。粘土質の土壌とか水捌けの良くない場所では、土壌改良材を用いることも必要になります。

生け垣が出来上がって根がしっかりと張っている場合は、根元から30～50セン

チメートル離れた位置に、生け垣と平行に浅い溝を掘り、肥料を入れて埋め戻します。これすら面倒だというようであれば、同じ位置の地表に化成肥料をパラパラと撒くだけでも構いません。

　移植直後とか、樹勢が弱ってしまった木には、直接に肥料をやってもすぐには吸収できないばかりか、場合によっては浸透圧のバランスが崩れて根を傷めてしまうこともあります。

　こういう時は液肥を規定量に薄めて噴霧器やじょうろで葉面に撒布します。肥料を葉から直接吸収させることで即効性があるため、樹勢回復を早める効果を期待できます。

■ 第８章　生け垣の病虫害防除

■ 8-1　薬剤散布時の注意

生け垣に用いられる植物には多くの種類があるので、それに取り憑く病害虫も千差万別です。細かく挙げるときりがないので、生け垣で比較的多く見られる主要なものだけを下で解説します。
ここでは薬剤散布をする場合の一般的な注意を書いておきます。

生け垣といっても大抵の場合、庭木に使われている樹種と共通しているので、それぞれの病虫害についてさらに詳しく知りたい時は、市販の庭木管理の解説本をご覧下さい。
生け垣は一般の庭木と比べると、枝葉が密生しているだけに、風通しが悪く、病虫害が発生しやすいものです。その上一旦発生すると、被害が急速に拡大する傾向があります。だから、普段から見回って予防に努め、発生した場合は早期に対策をとることが重要です。

薬剤散布をするときは、風のない日を選び、露が残っている早朝とか、撒布した薬液が乾きにくくなる夕方は避けます。
服装は長袖長ズボンを着用し、マスクやゴム手袋などで、極力肌が露出しないようにします。誤って薬剤が皮膚に着いた場合は、ただちに石鹸水で洗い流しましょう。

薬剤を使用する時は、必ず使用説明書に従い、正しく使いましょう。特に、規定の希釈濃度は必ず守らなければいけません。効き目が悪いからといって濃度を濃くしても、その割に効果は上がらず、かえって植物に薬害を生じたり、人体への危険性が増したりなど、文字通り百害あって一利なしです。
また、必要以上に多量に撒くことも、薬剤が無駄になるだけでなく、周囲の環境汚染の拡大にも繋がります。

近年農作物への残留農薬がしばしば問題になっています。生け垣の周辺に家庭菜園や農家の田畑・牧草地などがある場合は、散布した薬剤が作物に懸からないよう、風向きに注意して作業しましょう。また、干している洗濯物がある場合は、

薬液が付着しないよう気をつけ、またはあらかじめ取り込んでおきます。
　作業が終わったら、使用した器具をよく洗い（註）、残った薬剤は子供の手が届かない冷暗所（なるべく鍵のかかる所）に保管します。
　着ていた衣類はすぐに洗濯し、作業者自身も風呂に入って身体をよく洗いましょう。

（註）特に、次の薬剤を使用した後は、器具を念入りに洗浄する必要があります。
・石灰硫黄合剤　金属部分に薬剤が付着したままにしておくと、強アルカリ分のため腐蝕します。
・除草剤　洗滌が不十分だと、次に薬剤撒布をした時に、薬害を生じる恐れがあります。

■ 8-2　薬剤希釈の簡易早見表

希釈倍率↓ ＼ 水量↓	0.5ﾘｯﾄﾙ	1.0ﾘｯﾄﾙ	1.5ﾘｯﾄﾙ	2.0ﾘｯﾄﾙ	3.0ﾘｯﾄﾙ	4.0ﾘｯﾄﾙ	5.0ﾘｯﾄﾙ	10ﾘｯﾄﾙ
10倍	50.0	100.0	150.0	200.0	300.0	400.0	500.0	1000.0
20	25.0	50.0	75.0	100.0	150.0	200.0	250.0	500.0
50	10.0	20.0	30.0	40.0	60.0	80.0	100.0	200.0
100	5.0	10.0	15.0	20.0	30.0	40.0	50.0	100.0
200	2.5	5.0	7.5	10.0	15.0	20.0	25.0	50.0
500	1.0	2.0	3.0	4.0	6.0	8.0	10.0	20.0
1000	0.5	1.0	1.5	2.0	3.0	4.0	5.0	10.0
1500	0.3	0.7	1.0	1.3	2.0	2.7	3.3	7.5
2000	0.25	0.5	0.8	1.0	1.5	2.0	2.5	5.0
3000	0.2	0.3	0.5	0.7	1.0	1.3	1.7	3.3

↑薬剤量（グラムまたはミリリットル）

（註：薬剤量は正確な数字ではなくて、おおよその目安となります。
　　しかし実用上はこれで問題ありません。

■ 8-3　生け垣で見られるおもな病気・害虫と防除

植物の葉は動物の皮膚と違って、一旦病気や害虫によって傷ついたら最後、回復することはなく、落葉するまで見苦しさが続きます。生け垣の美しさを長く保つためにも、普段から気をつけて見回り、病害虫の早期発見・早期治療を心がけることが大切です。

ここでは生け垣でよく見られる病気と害虫をいくつか挙げて、その症状や対策法を簡単に記します。

それぞれの病害虫についてさらに詳しく知りたい場合は、市販の参考書あるいはウェブサイトを検索して調べて下さい。

被害樹：生け垣で比較的被害を受けやすい樹種。
特徴：　病気・害虫の特徴。
症状：　どんな被害を受けるのか、具体的な症状。
防除：　どういう対策を取れば良いのか。適する薬剤は何か。

■ 8-3-1　ウドンコ病

被害樹：
アラカシ、ウバメガシ、カエデ類、サルスベリ、シモツケ、バラ、マサキ、他。

症状：
若い葉の表面に、小麦粉のような白いカビが生じ、後に真っ黒になって胞子を飛ばします。

防除：
発生初期に、1週間おきに2回、殺菌剤を撒布します。薬剤は、トップジンM、モレスタン、ベンレート、ダコニール、水和硫黄剤など。
ウドンコ病菌は薬剤に対する耐性がつき易いので、同じ薬剤は連続使用せず、違う薬剤数種類をローテーションするようにします。

■ 8-3-2　褐斑病

被害樹：
　ほとんどの樹木で見られます。
症状：
　葉に不正形で褐色の斑点が現れ、次第に大きくなります。
防除：
　発生期の少し前から、月２回殺菌剤を撒布します。ダイセン、ダコニール、ベンレートなど。
　その他の斑点性の病害（黒斑病など）も同様に治療します。

■ 8-3-3　スス病(煤病)

被害樹：
　樹種を問わず見られます。アブラムシ（別項目）やカイガラムシ（別項目）が大量発生した樹木では、それらの排泄物に副次的にスス病が発生します。
症状：
　葉や枝の表面がススを被ったように真っ黒になり、著しく美観を損ないます。ス状の膜は爪でこすると剥がれ落ちます。
防除：
　ダイセン、ダイファー、トップジンＭなどで治まりますが、すぐに再発するので、根本的に治療するには、アブラムシやカイガラムシを退治しなければなりません。

■ 8-3-4　アブラムシ（蚜虫）

被害樹：

ほとんど全ての樹木に見られます。特に生け垣で多く見られる樹種は、ウメ、カエデ類、カシ類、サザンカ、サルスベリ、ツツジ類、ツバキ類、バラ、ムクゲなど。

特徴：

種類が非常に多く、色・形・大きさや習性が様々です。大部分のアブラムシは特定の樹種にしか付きませんが、ワタアブラムシとモモアカアブラムシは多犯性で、樹種を選ばず取り憑くので、大きな被害が出ます。

症状：

アブラムシが多量に発生した場合の共通した症状は、樹液を吸い取られて植物体が弱ることくらいです。アブラムシの種類によっては、葉が縮んだり、虫こぶを作ったり、綿状物をつけたり、時にはウイルス病を媒介することもあります。

また二次被害として、アブラムシの排泄物を求めてアリが群がったり、スス病が発生して葉を汚すこともしばしば見られます。

防除：

大部分は普通の殺虫剤でよく効きます。薬剤を虫に直接かけられない場合は、植物体への吸収浸透性があるオルトランやエストックスなどを、発生初期から１週間おきに２～３回撒布します。

■ 8-3-5　イラガ（苛蛾）

被害樹：

イラガは雑食性でほとんど全ての樹木を食害します。特に多く見られるのは、カエデ類、カナメモチ、ハナミズキ、バラなど。

特徴：

イラガは数種類ありますが、おもに黄緑色の毛虫で刺をもち、卵形の繭を作って越冬します。刺には毒があり、触れると感電したような激しい痛みを感じます。

症状：

イラガは食い意地の張った暴食家で、大抵の樹木の葉を片っ端から食い荒らすので、ときに木が丸裸になることも珍しくありません。

防除：

幼虫が小さいうちに、殺虫剤を散布します。スミチオン、アクテリック、オルトラン、マラソンなど。

また冬の間に、枝に付いている卵形でまだら模様のある繭を取ってしまうと、その年の被害を抑える予防効果があります。

■ 8-3-6　カイガラムシ（貝殻虫）

被害樹：

ほとんど全ての樹木に発生します。生け垣で特に被害が大きいのは、クチナシ、ゲッケイジュ、コデマリ、サザンカ、サルスベリ、ツバキ類、ネズミモチ、マサキ、モチノキ、モッコク、ユキヤナギ、など。

特徴：

白・赤などのロウ物質を被るもの、貝殻のような殻を被るもの、綿のような物質を被るものなど、様々な種類があります。また、地中で根に寄生するカイガラムシもいます。

症状：

大発生すると木全体が衰弱します。葉では褐色の斑点が出来たり黄変したりし、被害が激しいと落葉します。また多くの場合、二次的な被害として、カイガラムシの排泄物にスス病が発生し、美観を大きく損ないます。

防除：

カイガラムシは孵化直後の幼虫期を狙って、スミチオンやオルトランなどを撒きます。成虫には通常の殺虫剤はほとんど効きませんが、冬期にマシン油乳剤を撒布すると効果があります。ただマシン油乳剤は常緑樹では葉に薬害を生じやすいので、使用には注意が必要です。

ロウ物質を被る種類や貝殻状の殻を被るものなど、定着性のカイガラムシは植物から剥がされるだけで死ぬので、発生が少量であればブラシなどで擦り落とすだけで退治できます。

■ 8-3-7　カミキリムシ（噛切虫）

被害樹：

生け垣でカミキリムシの被害が多く見られる樹種は、

カエデ類、カシ類、カナメモチ、サルスベリ、スギ、マサキ、ムクゲなど。

特徴：

長い触覚と堅い顎、派手な斑紋のある堅い羽を持つ昆虫で、幼虫が木の幹にトンネルを掘って幹の内部を食い荒らします。被害が大きいと木全体が枯死することも珍しくないため、「鉄砲虫」とも呼ばれます。

症状：

枝や根元近くの幹に、おが屑のような糞の塊が盛り上がり、中で幼虫が食い荒らしています。根元近くで被害が大きいと、木全体が枯死することもあります。

防除：

糞をきれいに取り除き、幼虫を捕殺します。トンネルの奥に潜んでいる場合は、針金などを差し込んで突き殺すか、脱脂綿に殺虫剤を浸み込ませ、穴に詰めて蓋をします。

親のカミキリムシは見つけ次第捕殺します。

■ 8-3-8　グンバイムシ（軍配虫）

被害樹：

ツツジ科の植物のみで被害が見られます。

アセビ、サツキ、ツツジ類など、

特徴：

体長３ミリメートルほどで、褐色の斑紋のある透明な羽を持つ虫が、葉の裏に群がって汁を吸います。木をちょっと突くだけで、葉の裏から小さな羽虫が一斉に飛び立ちます。

症状：

葉が吸汁されるため、表から見ると白っぽくかすれて見えます。一見ハダニやスリップスの被害痕と似ていますが、葉の裏に黒いヤニ状の排泄物が沢山付いているので判別できます。

防除：

発生初期から、７～14日おきに、２～３回、スミチオン、マラソン、オルトランなどを撒布します。グンバイムシは葉の裏に隠れているので、薬剤を葉の裏側から集中的に撒布すると効果的に駆除できます。

■ 8-3-9　チャドクガ(茶毒蛾)

被害樹：

ツバキ科の植物のみで被害が見られます。

サザンカ、チャ、ツバキ、ヒサカキなど。

特徴：

成虫は黄色の蛾で、灯火に向かって飛来します。幼虫は黒い模様のある黄褐色の毛虫で、葉を食害します。成虫幼虫共に有毒の毛を持っているので、この毛が皮膚に刺さると激しい痒みを生じます。脱皮した抜け殻や乾燥した死骸が風で飛ばされて皮膚についても、同じように痒くなりますから、葉の食害痕を見つけた時は素手で触らないように気を付けましょう。

症状：

卵から孵って間もない若齢幼虫は、葉の裏に群がって葉肉だけを食べるので、葉の表からは黄色いまだら模様に見えます。毛虫が大きくなると樹木全体に分散して、葉を丸ごと齧り、時には木全体が丸裸になることもあります。

防除：

毛虫が小さいうちなら、群がっている葉を摘み取るだけで、まとめて退治できます。大きくなっても殺虫剤には比較的弱いので、家庭用の殺虫スプレーでも簡単に退治できます。薬剤はスミチオン、オルトランなど。

■ 8-3-10　ハダニ（葉蜱）

被害樹：

ほとんど全ての樹木で見られます。特に生け垣で被害が目立つのは、スギ、ツツジ類、バラ、モクセイ類など。

特徴：

体長0.2ミリメートル位の橙色の虫が、葉の表面を動き回り、樹液を吸い取ります。

症状：

被害痕は小さな白い斑点になり、葉緑素が失われます。ひどくなると葉全体が白っぽくかすれて見えます。

防除：

ハダニは昆虫ではないため、普通の殺虫剤がほとんど効かないので、専用の殺ダニ剤を撒布します。しかし、同じ薬剤を続けて使用すると、薬剤抵抗性が付いて効果がなくなってしまうので、数種類の殺ダニ剤をローテーションする必要があります。

ケルセン、アカール、モレスタン、テデオンなど。

また冬に石灰硫黄合剤を撒布すると、その年のハダニの発生を抑える、予防効果があります。

■ 8-3-11　ハマキムシ（葉巻虫）

被害樹：

よく見られる樹種は、イヌツゲ、イヌマキ、カシ類、カナメモチ、サザンカ、セイヨウツゲ、タケ類、ツツジ類、ツバキ類、マサキ、ムクゲ、モッコク、ユキヤナギなど。

特徴：

ハマキガと呼ばれる茶色の蛾の仲間で、幼虫が葉や花の蕾などを綴り合わせた中で食害します。

症状：

葉を数枚綴り合わせ、その中で食害され、その葉はやがて枯れます。花・蕾や新芽を食われることもあります。枯れた部分は落ちずに、いつまでも残っているので、非常に見苦しいです。

防除：

４～10月、スミチオン・オルトラン・アクテリックなどを、月に１～２回定期的に撒布します。

■ 8-3-12　ミノムシ（蓑虫）

被害樹：

ミノムシは樹種を選ばず食い荒らす雑食性なので、ほとんど全ての樹木で被害がみられます。

特徴：

灰白色の蛾の幼虫が、葉や小枝を綴り合わせた蓑に隠れています。おもに夜間、蓑を被ったまま移動し、葉を食害します。

症状：

若齢幼虫のうちは、葉脈を残して葉肉だけを食べるので、葉が網状になりますが、大きくなると葉全体を齧ります。ミノムシは食い尽くし系の暴食家なので、発生が多いと木全体が丸裸になることもあります。

防除：

こまめに見回って捕殺するのが一番良いでしょう。

蓑の大きさが５ミリメートル以下の小さいうちなら、普通の殺虫剤でよく効きます。しかし、蓑が大きくなるほど薬剤の効き目が悪くなり、根絶が難しくなります。とにかく蓑が小さいうちに対処することが肝要です。

スミチオン、オルトラン、ディプテレックス、カルホスなど。

★★★

■ 第９章　生け垣に使える植物

■ 9-1　生け垣用植物の選び方

■ 9-1-1　生け垣用植物を選ぶ条件

　生け垣に使う樹木を選ぶに当たって、生け垣として望まれる各種の特性を以下に記します。
　各項目の番号は、次節「9-3　生け垣用植物とその特性」にある、各特性欄に付けられた番号と対応しています。

－－

1 耐病虫害　病気や害虫に強い。言い換えると、病害虫の被害に遭っても、植物自体の回復力が強いという意味。

2 病害虫少　目立った被害を与える病害虫の種類が少ない。

3 刈込み少　刈り込み量が少なくて済む。これは樹種別の相対的な量ではなく、樹体の大きさに対しての刈り込み量となる。

4 枝葉密生　その木の特性として枝葉が密生する。または、刈り込み後の萌芽力が強く、枝葉が密生しやすい。

5 耐公害　　排気ガスや大気汚染に耐える。

6 耐潮性　　潮風や塩分に抵抗力がある。

7 耐乾性　　乾燥に強い。乾燥しやすい場所でも生育する。

8 耐陰性　　日光が当たらないような日陰でも生育する。

9 耐寒性　　寒冷地でも使える。寒冷地といっても、おおむね北海道南部までを目安とするが、中には北海道全域で使える樹種もある。

10 暖地向　　暖地でのみ使える。本州南部以南の無霜地域を目安とする。

11 花果実　　花や果実を楽しめる。（雌雄異株は♀印）

12 芳香　　葉・花・果実などに芳香成分や精油成分を含む。

13 食餌植物　果実や花蜜が野鳥の餌になる。（雌雄異株は♀印）

14 紅葉　　秋に紅葉や黄葉が見られる。葉が緑色以外の色に着色するものや、若葉が美しく着色する植物も含む。ただし斑入りによる着色は含めない。

15 高生垣　　高い生け垣に適する。高さ 2 メートル以上を目安とする。

16 低生垣　　低い生け垣に適する。高さ 2 メートル以下を目安とする。

17 移植容易　苗の移植が容易で植え傷みが少ない。主として地掘り苗の場合。

18 フェンス　つる（蔓）をフェンスやネットに絡ませる。

19 壁面　　つるが自力で石垣や壁面を這い上れる。

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

■ 9-1-2　生け垣用植物の選び方

(1) これから植えようとする生け垣について、本章「9-3　生け垣用植物とその特性」のリストから、希望する特性を適宜選択します。

(2) 本章にある特性欄に「◎」が付いている樹種を抜き出せば、目的にもっとも合っている植物を選ぶことができます。
逆に言えば「◎」が沢山付いている植物が、生け垣に好適であるという指標にもなります。

(3) 選び出した植物から、目的のうち絶対に外せないもっとも重要な項目、庭との調和、自分の好みなどを考慮してさらに絞り込みます。

(4) 最後まで残った複数候補について、近くの植木屋さんへ行って、現物を見ながら相談に乗ってもらう（これが一番のお薦め）。
あるいは、園芸関連業者のウェブサイトで調べるなどして、植えたい樹種を最終決定します。

■ 9-2　生け垣に適する植物

ここに収録している植物は、庭木や街路樹・公園樹としてよく見かける、ありふれた樹木が多くを占めています。しかし見方を変えると、それだけ多くの場面で植えられているということは、生け垣としてもそれなりに優れた特性を備えているということでもあります。

さらにそういうありふれた植物の他にも、ここには多種多様な植物を取り上げています。例えば、生け垣はおろか庭木としてさえ使われているのを見たことがないような植物とか、観葉植物として鉢物でしか流通していないもの、外国産で日本では実物を見ることさえ難しいもの、さらに果樹類や、栽培されることがほとんどない野生植物から、つる植物までがリストアップされています。

生け垣用植物としてこれほど広範な種類を取り上げたのは、
「こんな植物の生け垣があってもいいんじゃないの？あったらいいな！」
という、作者の独善的かつ願望ともいえる考え方を基本として、
「今後日本国内で生け垣として使える可能性が多少なりとも見込める」
という理由だけで選んだ結果です。

ここに挙げた植物名には、一般的な通称や総称が数多く含まれていますが、それぞれの植物によってはさらに、花色の違いや葉の形態・斑入りなど、多くの園芸品種が存在します。
それぞれの植物の特性や形態についてさらに詳しく知りたい場合は、植物図鑑で調べるなり、ウェブサイトで検索するなりして確認して下さい。

この一覧には、下記のとおり全部で 292 種の植物を収録しました。この中では各樹種を次のように大きく８つの分野にグループ分けしています。

9-3-1　常緑広葉樹　99種(46種)
9-3-2　落葉広葉樹　92種(26種)
9-3-3　常緑針葉樹　29種(16種)
9-3-4　落葉針葉樹　3種(1種)
9-3-5　単子葉植物　15種(2種)
9-3-6　常緑つる植物　28種(10種)
9-3-7　落葉つる植物　24種(9種)

9-4　生け垣に使ってはいけない植物　4種(4種)

各グループ中、()内の植物では、生け垣用樹として比較的多く使われている植物や、生け垣としての植栽例は少ないものの、生け垣として優れた特性をもつ植物、それから今後生け垣として使って欲しいと作者が考える植物など、合わせて110種を取り上げ、それぞれの種ごとに、和名・別名・分類・学名・見頃・特性・解説、を記しています。

以下の植物解説の各ページにある「特性」欄の各項目は、「9-1-1　生け垣用植物を選ぶ条件」にある、それぞれの項目と対応しています。

その他にも生け垣として使えそうな植物を多数取り上げ、「その他の～」として、植物名と特性をまとめて一覧表にしました。
さらに、少数ですが「生け垣に使ってはいけない植物」も取り上げています。

「その他の～」リストで、植物名の後に「♀」記号のある植物は、雌雄異株であることを表します。ただし、これはあくまで便宜的に付けただけです。
「植物学的には雌雄異株であっても、実用上雌雄を区別する必要がない植物」には、♀記号は付けていないということです。

なお、この一覧表では木本性の植物のみを収録しています。草本植物については、第３章「3-3-9 草垣」および「3-4-3 緑のカーテン」の末尾に植物名のみを列挙していますので、興味のある方はそちらもご覧ください。

各特性欄に並べた記号のうち、

「◎」の項目は、該当する特性について【優れている】ことを、
「○」は、該当する特性について【中庸である】ことを、
「ー」は、該当する特性に【欠けている】ことをそれぞれ表します。

これらの記号のうち「◎」の数が多い植物は、生け垣として優れた特性を数多く持つため、生け垣としての汎用性が高く、様々な場面で使えることを意味しています。
また、「ー」が多い樹種は、生け垣に適さないのではなく、「生け垣として使える場面が限られる」という意味になります。

ただし、各特性の適否については、本作者がこれまで「関西地方以西」での経験に基づいた、極めて主観的な指標である、と考えてください。
そのため、関東地方の読者を対象とすることが多い、市販の参考書などの記述とは異なる部分もあることをお断りしておきます。

なお解説では、「生け垣用」という方向に的を絞って解説していますが、読み物としても楽しんでいただけるように、関連するトピック的な話題とか、作者の体験談なども随所に挟んでいます。

病害虫名の後に（*）印のあるものは、第８章「8-3 生け垣で見られるおもな病気・害虫と防除」で解説していますので、そちらも参考にしてください。

■ 9-3　生け垣用植物とその特性
■ 9-3-1　常緑広葉樹 46種

■ アベリア（abelia）

和名：ハナゾノツクバネウツギ（花園衝羽根空木）
別名：ハナツクバネウツギ
分類：スイカズラ科ツクバネウツギ属 / 常緑低木
学名：Abelia x grandiflora (Rovelli ex Andre) Rehder
見頃：葉＝周年 / 花＝6～10月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害性	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	－	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	－	－	○	－	◎	◎

日本の山野でよく見かけるツクバネウツギ（Abelia spathulata）の仲間で、花が多く長期間咲き続けることから和名が付けられたと思われます。しかし本種を「ハナゾノツクバネウツギ」なんて長ったらしい名前で呼ばれることはほとんどありません。通常は単に「アベリア」と呼ぶことが多いです。

日差しを受けてキラキラ輝く葉と、初夏から晩秋まで次々と咲き続ける白い小さな花が見所です。
日当たりの良い場所だと、冬の寒気に遭って、葉が赤みを帯びることがよくありますが、春に暖かくなると緑葉に戻ります。
また、葉に白・黄・クリームなどの斑が入る品種もあります。高さ1～1.5メートルの低い生け垣に好適です。

アベリアは生育が旺盛で、苗を植えてから比較的短期間で生け垣に仕上げられることがメリットの一つですが、反面、枝の伸びが早いだけに、刈り込みも頻繁に行う必要があります。条件の良い所だと、年間１メートル以上も伸びることがよくあります。
生長が早く枝が長く伸びるので、狭い場所には向きません。どちらかというと、広い庭園とか、公園や街路樹などの公共スペースでの植栽に適しているといえるでしょう。

強い刈り込みをしても平気ですが、花を見るためには、軽く刈り揃える程度が望ましいです。花の咲かない冬期に強く刈り込むことで、樹形を維持できます。とても丈夫で栽培しやすい植物です。

たまにミノムシ（*）に葉を食べられることもありますが、他には特に目立つ病害虫はありません。

■ アラカシ（粗樫）

別名：カシ
分類：ブナ科コナラ属 / 常緑高木
学名：Quercus glauca Thunb.
見頃：葉＝周年
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	○	－	◎	◎	○	◎	○	○	◎	－	－	－	－	◎	◎	○

アラカシは生け垣や庭木として、西日本で特に多く見られ、単にカシ（樫）と呼ぶ時は、大抵の場合アラカシを指しています。

葉は年間を通して濃い緑色を保つので、重厚で風格のある生け垣になります。きちんと手入れをされたアラカシの高い生け垣は遮蔽効果も高く、一級品の生け垣に仕上がります。

また高さ１メートル前後の低い生け垣に仕立てることも可能で、広い庭だと園路の縁取りにも使えます。京都御苑を散策すると、遊歩道に沿ってアラカシの低い生け垣が見られます。

庭に種子（ドングリ）を直接蒔いて、そのまま苗から生け垣に仕立てることも可能です。

目立つ病害虫としては、まれにカミキリムシ（*）の被害がみられます。ウドンコ病（*）や褐斑病（*）に葉を侵されると見苦しくなるので、早期の対応が肝心です。しかしこれらの病気はカミキリムシと違って、木を丸ごと枯らすようなことはありません。

■ イヌツゲ（犬黄楊）

分類：モチノキ科モチノキ属 / 常緑低木 / 雌雄異株
学名：Ilex crenata Thunb.
見頃：葉＝周年 / 花＝6～7月 / 果実＝秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
○	◎	◎	◎	◎	◎	－	◎	◎	◎	○	－	◎	－	－	◎	○

イヌツゲを単に「ツゲ」と呼ぶことがよくあるのですが、ツゲ科のツゲ（柘植：Buxus microphylla var. japonica）とは別もので、イヌツゲと区別するため、本物のツゲという意味で、「本ツゲ」と呼ぶこともあります。

イヌツゲは濃緑色の小さな葉をつけ、これがきちんと刈り込まれていると、重厚な存在感があります。しかし場所によってはやや陰気な雰囲気になることもあるので、植え込む場所の選定には注意が必要です。
また夏の乾燥にやや弱い傾向もあります。乾燥が続くと部分的に枝枯れを生じることもあります。過度に乾燥しないようにさえ気を付けていれば、丈夫で栽培しやすい植物です。

また近年、新芽の美しい「金芽ツゲ」という品種が多く出回っていて、これを生け垣として植えると、基本種よりずっと華やかな雰囲気を出すことができ、庭を明るくしてくれます。
たまにハマキムシ(*)の被害が見られることもありますが、他には特に目立つ病害虫はありません。

■ ウバメガシ（姥目樫）

別名: ウマメガシ(馬目樫)、イマメガシ(今芽樫)、バベ
分類：ブナ科コナラ属 / 常緑低木・高木
学名：Quercus phillyreoides A.Gray
見頃：葉＝周年 / 花＝4～5月 / どんぐり＝～翌年10月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	ー	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	ー	ー	ー	◎	◎	○

ウバメガシは、高級炭の代名詞となっている「備長炭」の原木としても知られています。他のカシ類とは違う、小ぶりで楕円形の葉が、独特の質感を見せます。低い生け垣から高い生け垣までオールマイティに使え、生け垣としては一級品の仕上がりが得られます。もちろん庭木としても優秀であることは周知の事実です。

ウバメガシは初期生長が遅いため、苗木の植え付けから生け垣として仕上がるまで、他のカシ類より長期間を要します。でも、刈り込むほどに枝が密になり、葉も小ぶりなので、生け垣としては、他のカシ類より遥かに上質で、美しい仕上がりになります。

成木になると、低めの生け垣でもよく結実するので、このドングリを調達してきて、庭に直接蒔いて苗を仕立て、「実生垣」を作るのがもっとも安上がりになるでしょう。他のカシ類と同様、性質が強く栽培しやすい植物です。
葉を食い荒らすミノムシ（*）と新芽に取り憑くウドンコ病（*）、それから、風通しの悪い場所では褐斑病（*）が出やすい傾向があります。他には特に目立つ病害虫はありません。

■ エリカ（erica）

分類：ツツジ科エリカ属 / 常緑低木
学名：Erica spp.
見頃：葉＝周年 / 花＝春
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	◎	－	－	－	○	◎	○	◎	－	－	－	－	◎	◎

エリカの最大の魅力は何といっても、春先に株全体が覆われるほど沢山咲く花にあるでしょう。葉が小さく枝も多いので、高さ１メートル以下の低い生け垣に好適です。広い庭だと園路の縁取りにも使えます。

ジャノメエリカ(Erica canaliculata)やヤヨイエリカ(E. carnea)など、いくつかの種類が出回っていて、それぞれに特徴の違う花が咲くので、選択の幅が広がります。

特に目立つ病害虫はなく栽培は容易です。ただ、梅雨の長雨に当たるなど、高温多湿が続くと樹冠内部が蒸れて枯れ込みを生じます。

また、冬に乾いた風が当たると、部分的に落葉することもあります。西日本での栽培はやや気難しい面がありますね。

■ オオムラサキ（大紫）

分類：ツツジ科ツツジ属 / 常緑低木
学名：Rhododendron x pulchrum 'Speciosum'
見頃：葉＝周年 / 花＝4～5月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
○	○	○	◎	◎	○	－	○	○	◎	◎	－	○	－	－	◎	◎

オオムラサキの来歴は、ケラマツツジ（Rhododendron scabrum）と、キシツツジ(R. mucronatum var. ripense）あるいはリュウキュウツツジ（R. mucronatum)の交雑種といわれています。

ツツジ類の中でも最大級の、大きく美しい花を咲かせるのが特徴です。何といっても、樹冠一杯に満開に咲く花は、豪華と呼ぶにふさわしい華麗さを誇ります。花色は大半が赤紫色ですが、白色やその中間色もたまに見られます。

日当たりの良い場所に植えると、花が樹冠を埋め尽くし、葉が見えなくなる程沢山咲きます。逆に、日陰に植えると花が少なくなってしまいます。また刈り込み時期を誤ると、花を見られなくなるので注意が必要です。刈り込みは花が咲き終わった頃から、遅くとも梅雨明け前までを目安とします。
夏にグンバイムシ（*）の被害を受けると葉が汚くなるので、早めに対応しなければなりません。

それから、これは植物ではないのですが、同じ「オオムラサキ(大紫)」という名のとても美しい蝶がいて、こちらは日本の国蝶とされています。ぜひ検索してご覧になってください。

■ カナメモチ（要黐）

別名: ベニカナメモチ、アカメモチ、ソバノキ、カナメガシ、カナメノキ
分類：バラ科カナメモチ属 / 常緑小高木
学名：Photinia glabra（Thunb.）Maxim.
見頃：葉＝周年 / 紅葉＝若葉 / 花＝5～6月 / 果実＝秋
特性：

耐病虫害	病害少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
○	◎	○	◎	◎	◎	○	○	－	◎	○	－	○	◎	◎	◎	○

生け垣では、カナメモチの白い小さな花も、真っ赤な果実も、めったに見られませんが、これらに勝る美しさを見せてくれるのが若葉の紅葉です。刈り込む度に出てくる若葉の美しさは比類がありません。

しかし、成木できつい刈り込みを繰り返していると、枝枯れを生じやすくなるので注意が必要です。生け垣としては比較的寿命が短い部類だと考えるべきでしょう。とはいっても、５年や10年で樹勢が衰えるようなことはありません。
それから、日当たりの良くない場所では、新芽が発色せず、緑葉のまま大きくなることが多いので、日当たりの良い場所に植えることが重要です。
特に目立つ病害虫もなく、栽培しやすい植物です。

近年、カナメモチとオオカナメモチの雑種である、フレーザーカナメ(Photinia x fraseri)の一品種「レッドロビン（別項目)」が生け垣用樹として、カナメモチより多く出回っています。

■ カンツバキ（寒椿）

別名：シシガシラ（獅子頭）
分類：ツバキ科ツバキ属 / 常緑低木
学名：Camellia x hiemalis Nakai
　　= Camellia sasanqua 'Shishigashira'
見頃：葉＝周年 / 花＝11～1月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	○	○	◎	○	○	－	◎	－	◎	◎	－	◎	－	－	◎	◎

カンツバキの来歴は不明ですが、サザンカ(Camellia sasanqua)とヤブツバキ(C. japonica)の雑種という説が有力です。出回っているのはこの中の「シシガシラ（獅子頭)」という品種がほとんどを占めています。

カンツバキの幹は直立せず斜上し、よく枝分かれします。冬の日差しを受けてキラキラ輝く葉と、八重咲きの真っ赤な花がひときわ目を引きます。
強く刈り込んでも平気。庭先に彩りが少なくなる冬に開花する。その上日陰でも花がたくさん咲くなど、低めの花垣として優れた特性を備えています。

病害虫もほとんどなく、丈夫で育てやすい植物です。ツバキ類で多く発生するチャドクガ(*)も、カンツバキではあまり見られません。

■ キンカン（金柑）

別名：マルキンカン(丸金柑)、マルミキンカン
分類：ミカン科キンカン属 / 常緑低木
学名：Citrus japonica Thunb.
= Fortunella japonica (Thunb.) Swingle
見頃：葉＝周年 / 花＝初夏 / 果実＝10～11月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	◎	○	－	－	○	－	◎	◎	◎	○	－	－	◎	◎

キンカンの仲間はキンカン属（Fortunella）としてまとめられていましたが、近年の研究では、ミカン属（Citrus）に含まれるという指摘もあります。
食用にされている数ある柑橘類の中で、もっとも小さな実を付けるのがキンカンです。でも柑橘類全体としてみると、果実の大きさが大豆くらいの実をつける「マメキンカン（豆金柑; Citrus hindsii)」という種類もあるのですが、これは食べられません。

キンカンの仲間には他にも、ナガミキンカン（長実金柑; C. margarita）とかネイハキンカン（寧波金柑; C. crassifolia）なども栽培されていますが、いずれも低めの生け垣として、キンカンと同じように扱えます。

キンカンは初夏に甘い香りのする白い花が咲き、初冬には丸い果実が黄色に色付きます。そのまま口に入れるも良し、キンカン漬けにしても良し、もちろん観賞用としても優等生です。

アゲハチョウの幼虫に葉をかじられることがあります。それから夏に乾燥するとハダニ（*）が多発するので、早めの対応が必要になります。その他には気にする程の病害虫もなく、育てやすい植物です。

■ キンシバイ（金糸梅）

分類：オトギリソウ科オトギリソウ属 / 半常緑低木
学名：Hypericum patulum Thunb.
見頃：葉＝周年 / 花＝5～7月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	○	◎	◎	◎	○	○	◎	○	◎	－	○	－	－	◎	◎	○	－

6月頃にキンシバイの黄金色の花が枝一面に次々に咲きます。特に陽当たりの良い場所だと花付きが良くなるので、株全体が黄金色に覆われて最高に見応えがあります。

キンシバイは暖かい地方だと冬になっても落葉せず、常緑のまま越冬します。しかし寒さがきつくなってくると、古い葉から順に落ちていきますが、新しい葉はそのまま越冬することが多いです。

茎は柔軟で株立ちになるので、整形の生け垣にはしない方が良いでしょう。どちらかと言えば、境栽風の生け垣に向いています。性質が強いので日陰でもそれなりに花が咲くので、場所を選ばず植栽できるのが良いですね。

特に目立つ病害虫もなく、栽培しやすい植物です。

■ キンモクセイ（金木犀）

別名：モクセイ(木犀)
分類：モクセイ科モクセイ属 / 常緑小高木
学名：Osmanthus fragrans var. aurantiacus Makino
見頃：葉＝周年 / 花＝9～10月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	－	◎	○	○	◎	○	○	◎	◎	◎	－	－	◎	◎	○

モクセイの仲間でもっとも多く栽培されているのがキンモクセイで、生け垣でもよく目にします。遠くまで漂うキンモクセイの花の甘い香りは、秋の風物詩となっていますね。

ところで、キンモクセイの花は、１シーズンに２回咲く、いや２回香ることをご存じでしょうか。９月下旬頃、お試しのように少しだけ香り、その後10月に入って本格的に香るのです。年によっては、さらに２週間位後に、少ないですが３回目の花が香ることもあります。

一旦根付くととても丈夫で、刈り込み以外に手が掛からず、育てやすい植物です。
生け垣では夏に乾燥すると、ハダニ(*)が付きやすくなることと、たまにミノムシ(*)の被害も見ることがあります。

■ クサツゲ（草柘植）

別名: ヒメツゲ
分類：ツゲ科ツゲ属 / 常緑小低木
学名：Buxus microphylla var. microphylla Siebold & Zucc.
見頃：葉＝周年
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
○	◎	◎	◎	○	○	－	○	◎	○	－	－	－	－	－	◎	◎

クサツゲの葉は淡緑色で細かく詰まっていて、独特の柔らかい雰囲気をかもし出します。高さを50センチメートル以下に抑えるように仕立てると、園路や芝生・花壇などの縁取りに最適です。

クサツゲは一見するとひ弱そうな感じもしますが、見かけによらず性質が強いので、栽培は比較的容易です。気を付けるのはただ一点、根が細く地表付近に浅く張るため、夏に乾燥させないように気を付けることが、栽培上最大のポイントとなります。

たまにハマキムシ（*）の被害を見ることもありますが、他には特に目立つ病害虫はありません。

■ クチナシ（梔子）

別名: センプク、サンシシ(山梔子)
分類：アカネ科クチナシ属 / 常緑低木
学名：Gardenia jasminoides Ellis
見頃：葉＝周年 / 花＝5～7月 / 果実＝10～11月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害性	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	○	○	◎	－	○	－	◎	－	◎	◎	◎	○	－	－	◎	◎

クチナシの最大の魅力は何といっても、たった一輪の花が咲いただけで、辺り一面に立ち込めるほどの濃厚な甘い香りです。同じように甘い香りで知られるキンモクセイ（別項目）の香りを嫌う人は時々いますが、ひたすら甘くただようクチナシの香りが嫌いという人はほとんどいないでしょう。
大きな八重咲きの花が咲く品種もあって、あちこちで見掛けますが、一重咲きと同様、これもよく香ります。

昔のトイレは北側の日当たりが良くない所に設置されることが多く、そういった場所でも良く育ち、臭い消しにもなることから、クチナシやジンチョウゲをトイレの近くに植えることが多かったものです。

湿気の多い日陰でも元気に育つし花も見られますが、日当たりの良い場所に植えると花付きが段違いに多くなります。ただ夏に乾燥が続くと、葉が日焼けするので、夏場の水管理には特に注意が必要です。
クチナシはそれほど枝分かれしないまま大きくなるという性質がありますから、苗のうちから剪定や刈り込みを繰り返して、なるべく枝を増やすようにすると、緻密な生け垣に仕上がり、花も沢山咲くようになります。

冬になると橙色に色付く果実も見所の一つ。この果実は漢方薬や食品の着色料にも使われます。花も実もある彩りのある生け垣、香りの良い生け垣として、もっと使いたい、使って欲しい樹種の一つです。

たまに、怪獣を思わせるような大きな芋虫（オオスカシバという蛾の幼虫）が葉を食い荒らすことがあります。この芋虫は食い尽くし系の暴食家なので、ほんの数日見逃しただけで、株全体を丸裸にされることもあります。

■ ゲッケイジュ（月桂樹）

別名: ローレル（laurel）、ローリエ（laurier）
分類：クスノキ科ゲッケイジュ属 / 常緑高木 / 雌雄異株
学名：Laurus nobilis L.
見頃：葉＝周年 / 花＝4〜5月 / 果実＝10月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	○	ー	◎	◎	◎	◎	○	ー	◎	○	◎	○	ー	◎	○	ー

陸上競技のマラソンで、優勝者を称える月桂冠は、月桂樹の若枝を編んで作られます。
また、精油成分を多量に含み、強い芳香を発するので、料理の香り付けとか薬用にも用いられます。

生育旺盛で枝が長く伸びるため、年2回は刈り込みが必要になりますね。刈り込むほどに枝葉が密生して緻密に仕上がるので、美しい生け垣が出来上がります。
その反面、枝葉が密生するとカイガラムシ（*）が発生しやすくなるので注意が必要です。
ゲッケイジュは性質がとても強いので、カイガラムシのせいで枯れるようなことはありませんが、そのままにしておくとさらに、二次的にスス病（*）が発生して枝葉がどす黒くなるため、著しく美観を損ない、非常に見苦しくなってしまいます。
冬期にマシン油乳剤を散布すると、カイガラムシの駆除ができます。

■ サザンカ（山茶花）

分類：ツバキ科ツバキ属 / 常緑小高木
学名：Camellia sasanqua Thunb.
見頃：葉＝周年 / 花＝10～12月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	○	○	◎	◎	◎	○	◎	－	◎	◎	－	◎	－	○	◎	◎

2007年に選定された「日本の歌百選」にも入っている童謡「たきび」の歌詞２番の冒頭に登場するのがサザンカの生け垣です。幼い頃この歌を歌ったことが何度もありますね。

今どき町中で落ち葉焚きなんて容易にはできませんが、作者が子供の頃には、何度も落ち葉焚きをした記憶があります。もっともその目的は火にあたることよりも、焼き芋がメインだったのですが。

庭に彩りが少なくなる初冬から真冬にかけて、生け垣一面に咲く色とりどりの花と、冬の日差しを受けて輝くつややかな照り葉が、サザンカの最大の魅力です。花形や花色の変化が大きく、数多くの品種があります。

昔も今も、生け垣用の花木としてもっとも多く用いられており、高い人気を誇っています。

刈り込むほど緻密に仕上がり、美しい生け垣になります。また刈り込みに耐えるだけでなく、日陰でも花付きが良いので、花の咲く生け垣としては最高ですね。ただ、刈り込みは遅くとも6月中には終えておかないと、翌年の花が少なくなりますから気を付けましょう。

梅雨時に発生するチャドクガ(*)の食害には特に注意が必要です。

■ サツキ（皐月）

別名: サツキツツジ（皐月躑躅）、クマノツツジ、ホヅガワツツジ
分類：ツツジ科ツツジ属 / 常緑低木
学名：Rhododendron indicum（L.）Sweet
見頃：葉＝周年 / 花＝5～7月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	○	◎	◎	◎	○	－	○	◎	◎	◎	－	○	－	－	◎	◎

言わずと知れた、初夏を代表する花木の一つです。葉が見えなくなるほど大量に咲く花は「素晴らしい」の一言に尽きます。品種が多いので、好きな花色が選べるのも良いですね。

６月中、遅くとも梅雨明けまでには刈り込みを終えておかないと、翌年の花が見られなくなるので、手入れの時期を誤らないよう注意が必要です。
なぜなら、翌年咲くための花芽は、８月後半にはすでに出来上がっているからです。だからそこから逆算して、刈り込みをしてから、新しい芽が伸びて充実し、花芽が出来上がるまで、という時間を、少なくとも１ヶ月以上見込んでおく必要があるのです。

もし刈り込みが遅れて、８月になっても新芽の生長が続いていると、その枝には花芽ができないため、時期を逃がしてしまうのです。

新芽や花にモチ病が、また夏に乾燥するとグンバイムシ(*)の被害が見られます。特にグンバイムシの吸汁被害が大きいと、葉が擦れたように白っぽくなって非常に見苦しくなり、翌年の花付きにも影響するので、早期に防除しなければいけません。

■ サンゴジュ（珊瑚樹）

別名: アワブキ(泡吹)
分類：レンプクソウ科ガマズミ属 / 常緑高木
学名：Viburnum odoratissimum var. awabuki (K. Koch) Zabel
見頃：葉＝周年 / 花＝6～7月 / 果実＝9～11月
特性：

耐病虫害	病虫害少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	○	－	◎	◎	◎	◎	◎	－	◎	◎	－	◎	○	◎	○	◎

サンゴジュの分類について、以前はスイカズラ科とされていましたが、近年の遺伝子解析による分類では、レンプクソウ科に移されています。

サンゴジュの生木を火にくべると、切り口からブクブクと泡を吹き出すことから、アワブキという別名もあります。しかし、アワブキ科のアワブキ(Meliosma myriantha）という、まったく別の植物もあります。だからサンゴジュをアワブキとは呼ばない方が良いでしょうね。

日差しを受けてキラキラ輝く大きな葉と、初夏の白い花、秋には真っ赤に色付く果実など、四季を通じて様々な表情が楽しめます。
また、サンゴジュの高生け垣は、防風・防火性能が飛び抜けて優れています。参考（2-6 防火）

春先にモンクキバチに新芽を食い荒らされたり、サンゴジュハムシに若葉を食い荒らされることがあります。放っておくと生け垣全体が悲惨な姿になってしまうので、早期に対応しなければなりません。どちらも薬剤には弱いので、大抵の殺虫剤で間に合います。

■ シマトネリコ（島梣）

別名：タイワンシオジ
分類：モクセイ科トネリコ属 / 常緑高木 / 雌雄異株
学名：Fraxinus griffithii C.B.Clarke
見頃：葉＝周年 / 花＝5～6月 / 果実＝10月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	－	－	◎	○	－	－	－	◎	◎	◎

シマトネリコは、最初は観葉植物として鉢植えで流通していたのですが、その後庭木としても優秀であることから、近年急速に普及してきました。
やや小さめで厚みのある羽状複葉が、独特の質感と優雅さを持っているので、洋風和風どちらの庭にも合うため、近年新築の庭先に好んで植えられています。

原産地が沖縄～東南アジア～インドで、本来は熱帯性の植物なのですが、ある程度耐寒性もあるため、庭木や生け垣としては関東地方以南で利用できます。
また本来は高さ10メートルを超える高木ですから、建物の近くには植えない方が良いでしょう。

芽吹きは良い方なので、苗木のうちから刈り込みを繰り返して枝を増やします。そうすると、日差しを受けて輝く分厚い羽状複葉という、生け垣では珍しい独特の雰囲気が生まれ、とても美しい仕上がりが得られます。
ただ、生け垣として刈り込みを繰り返していると、花や果実はほとんど見られなくなります。
病害虫もほとんどないし、適地であれば丈夫で手間もかからず、育てやすい植物です。

■ シラカシ（白樫）

別名：ホソバカシ、カシ、クロカシ
分類：ブナ科コナラ属 / 常緑高木
学名：Quercus myrsinifolia Blume
見頃：葉＝周年
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	－	－	－	－	◎	○	○

シラカシは、アラカシ(別項目)とは対照的に、葉が細長く色調が明るいため、全体の見た目が女性的で、優雅な雰囲気を漂わせます。
葉の裏面が白っぽいことからシラカシの名が付いています。また、クロカシという別名は、樹皮が黒いことが語源です。

従来カシ類の生け垣は、西日本ではアラカシやウバメガシ(別項目)が、東日本ではシラカシがそれぞれ主流となっていましたが、近年西日本でもシラカシを用いる例が増えてきています。

アラカシと違って褐斑病がほとんど見られず、とても丈夫なので、生け垣だけでなく庭木としても優秀な樹種の一つです。

■ セイヨウイボタ（西洋水蝋）

別名: プリベット（privet)、ヨウシュイボタ、ヨウシュイボタノキ
分類：モクセイ科イボタノキ属 / 常緑低木
学名：Ligustrum vulgare L.
見頃：葉＝周年
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	○	ー	◎	◎	○	ー	○	◎	◎	○	○	○	ー	ー	◎	◎

セイヨウイボタは枝が細く、葉も小さく淡緑色で薄いため、一見するとひ弱な印象を受けますが、意外と丈夫で、病虫害もほとんど無く、優秀な生け垣用樹です。刈り込むほどに緻密で優美な美しさに仕上がります。
西欧では生け垣としてもっとも多用されている樹種の一つです。また、葉に白や黄色の斑が入る品種もあります。

本種は乾燥にやや弱い傾向があって、干ばつに遭うと自ら葉を落として裸になってしまいます。しかしそれでも株全体が枯れるようなことはめったにありません。裸になってしまった生け垣に、水をたっぷりと与えておくと、すぐに新しい葉が出てきます。

英語の privet が、そのまま日本でも「プリベット」と呼ばれていますが、誤って「プリペット」という名で流通していることもあります。
カイガラムシ(*)以外に目立つ病害虫はありません。

■ セイヨウツゲ（西洋黄楊）

別名：ボックスウッド(boxwood)、ヨーロッパツゲ、スドウツゲ(須藤柘植)
分類：ツゲ科ツゲ属 / 常緑低木
学名：Buxus sempervirens L.
見頃：葉＝周年 / 花＝3～4月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	○	◎	－	○	－	◎	◎

本種の呼び名は国内ではセイヨウツゲという和名で呼ばれることはほとんどなく、もっぱら「ボックスウッド」という英名で広く流通しています。英語で「箱」を意味する box は本種が語源となっています。

ボックスウッドは葉の様子がクサツゲ(別項目)とよく似ていて、性質もほぼ同様です。刈り込むほどに緻密に仕上がり、一級品の美しい生け垣となります。ヨーロッパで生け垣やトピアリーとして、もっとも多く利用されているのが本種です。

夏に乾燥が続くと、枝枯れを生じることがあるので、乾燥期の水やりは季節を問わず欠かせません。

たまにハマキムシ(*)の被害がみられますが、他に目立つ病害虫もなく、育てやすい植物です。

近縁種で地中海沿岸産の「ブクサス・バレアリカ（Buxus balearica)」はボックスウッドより葉が小さく、低い生け垣に好適です。

■ ソウシジュ（相思樹）

別名：タイワンアカシア、タイワンヤナギ
分類：マメ科ネムノキ亜科アカシア属 / 常緑小高木
学名：Acacia confusa Merr.
見頃：葉＝周年 / 花＝4～5月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	ー	◎	◎	◎	◎	○	ー	◎	◎	◎	◎	ー	◎	◎	ー

初夏に樹冠を覆い尽くすほどに咲く、香り高い黄金色の花がゴージャスの一語に尽きます。それに、若木のうちから花付きが良い、という点もいいですね。

中国の戦国時代、宋での「韓憑と何氏の故事」にこの植物が登場したことから「相思樹」の名がつき、これが「相思相愛」の語源ともなっています。

アカシアの仲間としては樹高が低い方で、小ぶりで細長い葉の様子が、他の広葉樹とは異なる独特の質感と雰囲気を感じさせます。また本種を含むアカシア属の植物は、優秀な蜜源としても知られていますね。

ソウシジュの原産地は台湾やフィリピンなのですが、沖縄では野生化しているものも見られますし、九州南部でも問題なく生育して、美しい花を見せてくれます。温暖な適地であれば、丈夫で育てやすい植物です。

目立つような病害虫もありません。

■ ソヨゴ（戦；冬青；具柄冬青）

別名：フクラシバ、フクラモチ、ウチダシソヨゴ
分類：モチノキ科モチノキ属 / 常緑小高木 / 雌雄異株
学名：Ilex pedunculosa Miq.
見頃：葉＝周年 / 花＝5～7月 / 果実＝11月
特性：

耐病虫害	病害少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	－	◎	－	◎	◎	○

ソヨゴの葉は表面が硬く縁が波打っていて、細い葉柄が付いています。このため僅かな風が通り抜けるだけで葉が動き、そよそよと戦ぐ（そよぐ）ため、ソヨゴの名がつけられました。
また初夏に咲く白い小さな花や、晩秋になると真っ赤に色付く小さな果実も可愛らしい風情があることから、近年になって庭木として好んで用いられるようになっています。昔は庭先ではめったに見られなかった樹種の一つです。

木の葉が風に揺れてさわさわと鳴る音は、普段耳にすることがよくあっても、ことさら気に留めるものではありません。
しかし、季節を問わず風にそよぐソヨゴの葉擦れの音にじっと聞き入ると、耳に心地よく響いて、次第に気分が落ち着き、心が穏やかになってきます。この音はまさに「1/fのゆらぎ」そのものと言えるでしょう。

これぱかりは他の樹木では決して感じられない、ソヨゴの持つ最大の魅力と言っても過言ではありません。この良さを理解するには、ソヨゴの葉擦れを実際に聞いたことのある人でないと、難しいかも知れませんね。

強い剪定や刈り込みをしても芽吹きが良いし、もっと生け垣にも使って欲しい樹種の一つです。
たまにカイガラムシ(*)が付くことがありますが、同じモチノキ属の他の種類より、被害がずっと少ないです。その他には特に目立つ病害虫もないし、日本の気候に合っているため、丈夫で育てやすい植物です。

■ タチカンツバキ（立寒椿）

分類：ツバキ科ツバキ属 / 常緑低木
学名：Camellia sasanqua 'Tachikantsubaki'
見頃：葉＝周年 / 花＝晩秋～初冬
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	○	○	○	◎	◎	○	○	－	○	◎	－	◎	－	－	◎	◎

タチカンツバキの樹形は、サザンカ（別項目）とカンツバキ（別項目）の中間です。サザンカより枝葉が密生し、樹勢も旺盛なので、生け垣として優秀な樹種の一つです。
しかしサザンカと違って、花色が赤色に限られるのが惜しいところ。

生け垣用としては、近年サザンカより本種の方が多く出回っています。ただ、ホームセンターの園芸コーナーなどでは、本種とサザンカが混同されている事が多く、タチカンツバキにサザンカというタグを付けて販売されている場合もしばしば見られます。

梅雨時分に発生するチャドクガ(*)には注意が必要です。特に、風通しの良くない場所では、大発生して生け垣全体が丸坊主になることもありますから、日頃から見回って、発生初期のうちに対応することが大事です。

■ タチバナ（橘）

別名：ヤマトタチバナ、ニッポンタチバナ、ヤマタチバナ、ハナタチバナ
分類：ミカン科ミカン属 / 常緑低木
学名：Citrus tachibana (Makino) Tanaka
見頃：葉＝周年 / 花＝5月 / 果実＝11月
特性：

耐病虫害	病虫害少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	○	○	◎	◎	○	○	○	－	◎	◎	◎	◎	－	－	◎	○

古今和歌集に詠み人知らずとして、

五月待つ花橘の香をかげば昔の人の袖の香ぞする

という和歌が詠まれています。昔の恋人への心情がよく表されていると、後世の人々の共感を呼びました。このことからタチバナの花言葉は「追憶」となっています。

タチバナは日本では古来神聖な樹木とされてきました。京都御所の紫宸殿前庭に「左近の桜」に対する「右近の橘」として植えられているのをご存じの方も多いでしょう。また、タチバナの花は文化勲章にもデザインされています。

初夏に咲く香り高い端正な花と、初冬から色付く小ぶりな果実が、タチバナの特徴であり最大の魅力です。また花だけでなく、生け垣として刈り込み作業をすることでも、柑橘系特有の爽やかな香りを楽しめます。
丈夫で育てやすく、花も実も楽しめる優秀な植物です。ただ、果実が酸っぱくて食べられないというのが惜しいところ。

アゲハチョウの幼虫に葉をかじられたり、夏にハダニ（*）が発生することが多いので対応が必要になります。

■ チャ（茶）

分類：ツバキ科ツバキ属 / 常緑低木
学名：Camellia sinensis（L.）Kuntze
　　= Thea sinensis L.
見頃：葉＝周年 / 花＝10～12月 / 果実＝翌年9月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	－	◎	◎	－	○	－	－	◎	－

チャは緑茶や紅茶などの原料植物としてよく知られています。全国各地にある茶畑の様子を見れば、チャが生け垣に最適な樹種の一つだということが納得できるでしょう。

初夏に生け垣の若芽を摘んで、自分で緑茶を作ることができますし、実際にそうしているお宅を、作者自身がこれまでにいくつも見てきました。
また、作者の実家にも昔、茶樹が数本あって、子供の頃、母が摘み取った茶葉を煎茶に加工して自家用に使っていたことが記憶に残っています。

チャの苗木は通販でも入手できます。またご近所や知り合いにチャを栽培している方がいらしたら、そこから種子を頂いてきて、庭に直接蒔いて生け垣に育て上げることもできます。高さ１メートル以下の低い木でもよく実ります。
一旦根付くととても丈夫で育てやすい植物です。
参考「コラム１　生け垣の種」

茶摘みを行った場合は、後でもう一度軽く刈り込みをしておきます。こうしておくことで翌年の芽吹きが揃い、茶摘みがし易くなります。
茶摘みをせず、通常の生け垣として維持する場合は、６月前半頃を刈り込み時期の目安とします。
生け垣ではチャドクガ(*)の被害を受けることがありますから、早期に対応をする必要があります。

■ トキワマンサク（常磐満作）

分類：マンサク科トキワマンサク属 / 常緑高木
学名：Loropetalum chinense (R.Brown) Oliver
見頃：葉＝周年 / 花＝5月 / 果実＝9月
特性：

	耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
トキワマンサク	◎	◎	○	◎	○	○	○	○	－	◎	◎	－	－	－	－	◎	○
ベニバナトキワマンサク	◎	◎	○	◎	○	○	○	－	－	◎	◎	－	－	◎	－	◎	○

トキワマンサクの葉は小形の楕円形でやや白みを帯び、柔らかい雰囲気を醸し出します。5月の連休の頃、白い花が樹冠を覆うように咲く様子は壮観です。
陽当たりの良い場所に植えると、花が格段に多く咲きます。また枝が横に伸びる性質があり、幹もそれほど強くないので、苗のうちは支柱をして上向きに伸ばす必要があります。

近年は赤い花と葉をもつ「ベニバナトキワマンサク（紅花常磐満作）」が生け垣でしばしば見られるようになってきました。これも陽当たりの良い所だと葉がきれいな銅色に発色し、花付きも良くなります。
唯一の難点は、葉と花の色合いが同系色なので、花が満開になってもそれほど目立たないということでしょうか。

たまにミノムシ（*）の食害が見られますが、他には特に目立つ病害虫もなく、丈夫で育てやすい植物です。

■ ナギイカダ（梶筏）

分類：クサスギカズラ科スズラン亜科ナギイカダ属 / 常緑小低木 / 雌雄異株
学名：Ruscus aculeatus L.
見頃：葉＝周年 / 花＝3～5月 / 果実＝10月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	－	○	－	－	◎	◎

ナギイカダの分類について、以前はユリ科とされていたり、ナギイカダ科とかスズラン科に含めるなど、分類学上では一定しなかったのですが、近年ではクサスギカズラ科(キジカクシ科とも)に含められています。

夏に葉の中央に小さな花が咲き、冬には球形の真っ赤な果実が実ります。葉の形が「ナギ（梛)」(別項目)に似ていることと、葉の上で開花結実することが、野草の「ハナイカダ（花筏; Helwingia japonica)」に似ていることから、ナギイカダという名が付けられました。

ナギイカダは葉の先端が鋭い刺になっているため、不用意に触れると痛い目に遭います。茎も分厚い葉も共に濃緑色でとても硬く、装飾用の造り物ではないかという感じさえします。
この葉は、じつは本物の葉ではなく、茎が変化したものなのです。本来の葉は薄く小さな鱗片状で、茎に張り付いています。またナギイカダは雌雄異株なので、赤い果実を確実に見るためには、雌株を株分けして殖やす必要があります。

見た目だけでは判らない、ナギイカダの大きな特性の一つが、日陰にめっぽう強いということ。ふつう日陰に強いとされている植物でさえ育たないような薄暗い場所でも、ナギイカダは当たり前のように生育するのです。

葉も茎も全体的に一本調子な濃緑色で、やや暗い雰囲気もあるのですが、病害虫もなく、日陰にも非常に強いので、日光の当たらないような場所で、もっと使って欲しい植物の一つです。

■ ナワシログミ（苗代茱萸）

別名：タワラグミ、トキワグミ、ハルグミ、カングミ
分類：グミ科グミ属 / 常緑低木
学名：Elaeagnus pungens Thunb.
見頃：葉＝周年 / 花＝10～11月 / 果実＝翌年5～6月
特性：

耐病虫害	病害少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	○	◎	－	－	◎	－

ナワシログミの果実が熟して食べ頃になる時期と、稲の栽培で苗代の時期が重なることから、この名がついています。

グミの野生種の果実は、甘みはあるものの、果皮に含まれる渋みが強いため、そのまま食べても美味しいとは言えません。しかしこの果実を集めて上質の果実酒を造ることができます。

春先の若葉が銀緑色に輝く様は、他の植物では見られない独特の色合いと雰囲気が感じられます。

ただ、小枝の先端が鋭い刺状になっているので、茨垣に向いていますが、取り扱いには注意が必要です。

目立つ病害虫もなく、丈夫で育てやすい植物です。

■ ネズミモチ（鼠黐）

別名: タマツバキ、ネズミノフン、ネズミノコマクラ
分類：モクセイ科イボタノキ属 / 常緑小高木
学名：Ligustrum japonicum Thunb.
見頃：葉＝周年 / 花＝5～6月 / 果実＝秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	ー	○	◎	◎	◎	◎	ー	◎	◎	○	◎	ー	○	◎	○

ネズミモチは分厚い濃緑色の葉が独特の質感をもたらします。生け垣では結実することは少ないのですが、黒紫色に熟した果実は、漢方薬になり、果実酒になり、野鳥の餌にもなります。

またネズミモチとよく似たトウネズミモチ(Ligustrum lucidum)も生け垣に用いられます。

カイガラムシ(*)と、それに付随して発生するスス病（*）以外に目立つ病害虫もなく、排気ガスや潮風にも強い植物です。

■ ハクチョウゲ（白丁花）

分類：アカネ科ハクチョウゲ属 / 常緑小低木
学名：Serissa japonica (Thunb.) Thunb.
見頃：葉＝周年 / 花＝5～7月(～秋)
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	◎	－	－	－	◎	○	◎	◎	－	○	－	－	◎	◎

夏に長期間咲き続けるハクチョウゲの白い花は、小さいながら気品があって涼しげに感じられます。刈り込みを繰り返すことで、枝葉が密生して美しく整った生け垣に仕上がります。
ただ、夏に乾燥が続くと、部分的に枝枯れを生じることがあるので、乾き易い場所では水やりを欠かさないようにしましょう。

生け垣では葉に白い縁取りの入る「斑入りハクチョウゲ」を使うことが多く、明るい雰囲気が出ます。園路の縁取りなど低い生け垣には最適といえるでしょう。

たまにミノムシ（*）に取り憑かれることもありますが、他には特に目立つ病害虫もないし、日陰にも強いです。乾燥にだけ気をつけていれば、他に気を遣うこともなく、比較的栽培しやすい植物です。

■ ハマヒサカキ（浜姫榊）

別名：イソシバ、マメヒサカキ
分類：モッコク科ヒサカキ属 / 常緑小高木 / 雌雄異株
学名：Eurya emarginata（Thunb.）Makino
見頃：葉＝周年 / 花＝11～12月 / 果実＝翌年11～12月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	－	◎	◎	○	◎	－	○	◎	◎

ハマヒサカキの葉は、縁が反り返って丸みを帯び、これが日差しを受けるとキラキラ輝きます。初冬に小さく目立たない花が咲きます。香りはありますが、それほど良いとは言えず、プロパンガスの臭いだと表現する人もいます。黒紫色の果実は野鳥が好んで食べに来ます。

また、海岸で自生していることから、潮風や排気ガスに非常に強いというのも大きな特徴です。それから、一旦根付いたら乾燥にも非常に強い、というのもポイントが高いですね。

風通しが悪い場所だと、カイガラムシ(*)が発生しやすいことと、それに伴ってスス病（*）も多く出ます。このスス病で著しく美観を損なうので、カイガラムシへの対応を早めにしなければいけません。

■ ヒイラギ（柊；疼木；柊木）

分類：モクセイ科モクセイ属 / 常緑小高木 / 雌雄異株
学名：Osmanthus heterophyllus（G.Don）P.S.Green
見頃：葉＝周年 / 花＝10～12月 / 果実＝翌年6～7月
特性：

耐病虫害	病虫害少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	－	◎	◎	◎	◎	－	○	◎	◎

ヒイラギは小ぶりでとげとげしい葉をつけることが最大の特徴です。葉全体が硬いので、触れるとチクチクして痛いです。
刈り込みを繰り返すことで緻密な仕上がりになるため、一級品の生け垣が出来上がります。人や動物の侵入防止を目的とする「茨垣」に最適です。

初冬に白い小さな花が咲き、ほのかな甘い香りが漂います。雌株であれば翌年6月に楕円形で紫黒色の実が沢山ぶら下がります。
ある程度年数を経た成木になると、葉の鋸歯が少なくなったり、時には倒卵形の丸っこい葉をつけるようになります。年齢を重ねると性格が丸くなるのは、人間と同じですね。

また、若木のうちからトゲをつけない「丸葉ヒイラギ」という品種は、ヒイラギとは違う柔らかい雰囲気があります。
それから、「五色ヒイラギ」という品種は、若葉が美しく発色するので、生け垣に仕立てると、とても美しく華やかな雰囲気を出せます。

日本では古くから「ヒイラギには邪鬼を払う力がある」と信じられ、屋敷の鬼門（敷地の北東の隅）にヒイラギや、トゲのある他の樹木を植える風習があり、現代の和風の庭造りでも、当たり前のように行われています。
また節分の夜に、柊の枝と鰯の頭を玄関に飾って邪鬼払いとする風習もあります。「鰯の頭も信心から」という諺はこれに拠ります。

■ ヒイラギモクセイ（柊木犀）

分類：モクセイ科モクセイ属 / 常緑小高木
学名：Osmanthus x fortunei Carriere
見頃：葉＝周年 / 花＝9～10月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	－	◎	○	○	◎	○	○	◎	◎	◎	－	－	◎	◎	○

ヒイラギモクセイは、ギンモクセイ(Osmanthus fragrans var. fragrans)と、ヒイラギ(O. heterophyllus)(別項目)との雑種と言われています。
ただ、本種は雄木だけしか知られてないので、実が生ることはありません。

モクセイ類の生け垣としては、キンモクセイ(O. fragrans var. aurantiacus)(別項目)やヒイラギと並んで多く見られます。
楕円形の葉に鋭い鋸歯がついていて、触れるとチクチクします。キンモクセイより枝が込むので、茨垣として好適です。秋に白い小さな花が咲き、ほのかな甘い香りが漂います。

生け垣では夏に乾燥するとハダニ(*)が付きやすいことと、たまにミノムシ(*)の被害も見られます。

■ ヒサカキ（姫榊）

分類：モッコク科ヒサカキ属 / 常緑小高木 / 雌雄異株
学名：Eurya japonica Thunb.
見頃：葉＝周年 / 花＝3～4月 / 果実＝10～12月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	－	◎	◎	◎	◎	－	○	◎	◎

ヒサカキは以前はツバキ科(Theaceae)に含められていましたが、近年の分類ではモッコク科(Pentaphylacaceae)とされています。

ヒサカキの葉は、日差しを受けるとキラキラ輝きます。庭木の根締めや下木として、玉物に仕立てられることが多いのですが、0.5～１メートル程度の低い生け垣にも好適です。また、高さを２メートル程に高くしたヒサカキの生け垣は、遮蔽効果も高く美しい仕上がりが得られます。

それから、ヒサカキの種子を採取し、生け垣を作りたい場所に直接蒔いて、そのまま生け垣に育て上げることができます。参考「コラム１　生け垣の種」
また、ヒサカキの枝は、神棚に供えるサカキ(榊; Cleyera japonica)の代用としても用いられます。

春先に小さな壺型の花が無数に咲きますが、下向きに咲くので葉に隠れてほとんど目に付きません。鼻を刺すような柑橘系の芳香を発するので、この香りを感じて初めて開花を知ることが多いです。

ときにチャドクガ(*)が葉を食害することもありますから気を付けましょう。
その他には目立つ病害虫もないので、手がかからず育てやすい植物です。

■ ヒメイチゴノキ（姫苺の木）

分類：ツツジ科イチゴノキ属 / 常緑小高木
学名：Arbutus unedo 'Compacta'
見頃：葉＝周年 / 花＝11～12月 / 果実＝翌年11～12月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	－	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	○	◎	－	○	◎	○

ヒメイチゴノキは日本ではそれほど馴染みのない植物です。母種のイチゴノキ（Arbutus unedo）は、地中海沿岸を原産地とし、石灰質土壌を好むのですが、ツバキやツツジが生育する日本の酸性質土壌でも機嫌良く育ちます。
というか、酸性土壌の方が節間が詰まり、コンパクトで引き締まった樹形になるように感じます。（あくまで作者個人の感想です）

本種は母種より枝が直立するため、枝の先端から放射状に傘を広げたように花房が出ます。これはアセビ(Pieris japonica)の咲き方と同じですね。花の形もスズラン(Convallaria majalis)のような白色壺型で、これもアセビとそっくりです。

開花期は11～12月になります。果実の見た目はヤマモモ(Myrica rubra)にそっくりですが、種子が小さいため丸ごと食べられます。しかし味の程は、まあ期待しない方が良いでしょう。

開花から果実が成熟するまでに丸１年を要するため、真っ赤に熟した果実と白い花が同時に見られるのも大きな特徴です。
葉が小ぶりで萌芽力も強く、強い刈り込みをしても平気なので、優秀な生け垣用樹と言えます。

■ ヒラドツツジ（平戸躑躅）

分類：ツツジ科ツツジ属 / 常緑低木
学名：Rhododendron x pulchrum Sweet
　　= Rhododendron Hirado Azalea hybrids
見頃：葉＝周年 / 花＝4～5月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	○	○	◎	◎	○	－	○	○	◎	◎	－	○	○	－	◎	◎

　ヒラドツツジの由来は、江戸時代に今の長崎県平戸で、日本産のモチツツジ(Rhododendron macrosepalum)やキシツツジ（R. ripense）と、外来のケラマツツジ（R. scabrum)・タイワンヤマツツジ（R. simsii）などが自然交雑された多くの個体から、後に選抜されたものと考えられています。
　多彩な花色のバリエーションがあります。樹冠を埋め尽くす豪華な花が見どころです。

　栽培は容易ですが、夏にハダニ(*)やグンバイムシ(*)の被害を受けやすいので注意と早期の対策が必要になります。

■ フェイジョア（feijoa）

別名: パイナップルグァバ（pineapple guava）
分類：フトモモ科アッカ属 / 常緑低木
学名：Acca sellowiana (O.Berg) Burret
= Feijoa sellowiana (O.Berg) O.Berg
見頃：葉＝周年 / 花＝夏 / 果実＝10～12月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	食餌植物	紅葉	芳香	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	○	◎	○	○	◎	－	○	◎	◎	◎	◎	－	－	◎	○	◎	－

近年家庭果樹として、フェイジョアの人気が高まっています。葉の裏が白い綿毛に覆われているので、風で枝が揺れると葉の表裏の対比が目につきます。夏になると枝先に沢山の真っ赤な雄しべが目立つ、派手目な花が咲き、人目を引きます。ただ、花に香りがほとんど無いのが惜しいところ。

この花は花弁が分厚くて、内側が赤紫色、外側が白色で、口に入れると意外なほどの甘さを感じます。和食に添えられる食用菊などと違って、苦味や渋味などの雑味のない甘さです。派手な見た目も相まって、優れたエディブルフラワーとして、サラダやアイスクリームのトッピングなどに適しています。
晩秋に成熟する果実ももちろん美味しく頂けます。

フェイジョアは基本的に自家不和合性なので、１本だけ植えてもほとんど結実しません。それで栽培に当たっては違う品種を一緒に植える必要があります。
また近年、自家結実性のある品種も出回るようになりましたが、それでも違う品種が側にあると結実が多くなり、果実の品質もさらに向上します。

充実した枝の先端に花が咲くので、フェイジョアを生け垣に用いる場合は刈り込み時期に注意が必要です。春先の芽出し前に１回だけ刈り込みを行い、その後は樹形を乱す枝を軽く切り詰める程度にしておきます。

■ ブッソウゲ（仏桑花；仏桑華；扶桑花）

別名：ハイビスカス（hibiscus）
分類：アオイ科フヨウ属 / 常緑低木
学名：Hibiscus rosa-sinensis L.
見頃：葉＝周年 / 花＝夏～秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	○	－	－	○	－	－	◎	◎	－	－	－	－	◎	◎

園芸店などで販売されている、大輪でカラフルな花が咲くハイビスカスは、本種が親の一つとなって品種改良されたものです。

沖縄では当たり前のように、庭先や生け垣にブッソウゲが植えられているのを見かけます。

日差しを受けて真っ赤な花が咲く様子は、夏にふさわしい佇まいを見せてくれます。

ブッソウゲは特に目立つような病害虫もなく、性質も丈夫で育てやすいのですが、本質的には熱帯性の植物です。

生け垣として使えるのは、九州南部などの無霜地域に限られます。しかもこういう地域であっても、冬に冷たい季節風が強かったり、低温が続いたりすると、葉が落ちてしまったり、枝枯れを生じることもありますから、植え場所の選定には気を付ける必要があります。

■ マサキ（柾；正木）

分類：ニシキギ科ニシキギ属 / 常緑低木 / 雌雄異株
学名：Euonymus japonicus Thunb.
見頃：葉＝周年 / 花＝6～7月 / 果実＝秋～冬
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	－	◎	－	○	◎	◎

マサキは春先の新緑の時期がもっとも美しくなります。日当たりの良い場所に植えると、見栄えの良い美しい生け垣が出来上がります。西日本では生け垣としてもっとも多く見られる樹種の一つです。

しかし全体的な見かけがやや品位に乏しいことが惜しい所ですね。日陰では生育が悪く、刈り込んでも芽吹きがよくないです。また、こういう場所では下枝が枯れやすくなります。

葉に黄色や白色の斑が入る「キンマサキ」や「ギンマサキ」などの品種もよく用いられており、非常に華やかな雰囲気を出すことが出来ます。

風通しの良くない場所では、カイガラムシ(*)が付きやすくなるので、防除が必須となります。

■ マメイヌツゲ（豆犬黄楊）

別名：マメツゲ（豆黄楊）
分類：モチノキ科モチノキ属 / 常緑低木 / 雌雄異株
学名：Ilex crenata 'Convexa'
見頃：葉＝周年 / 花＝6～7月 / 果実＝秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	◎	○	○	－	○	○	◎	○	－	○	－	－	◎	◎

マメイヌツゲはイヌツゲ（別項目）の園芸品種で、基本的な性質はイヌツゲと同じです。小さな葉が反り返って半球形になり、日差しを受けるとキラキラ輝いて、独特の質感をもたらします。

低い生け垣に最適な植物の一つで、各地で普通に見られます。また、玉物に仕立てて、玄関先に植えたり、庭の点景物とすることもよく行われます。

刈り込みを繰り返すことで緻密に仕上がって、一級品の生け垣になります。しかし、葉色が濃緑色なことや緻密に過ぎることとかで、場所によっては、やや重苦しい印象になることも否めません。

夏に乾燥が続くと、衰弱して部分的に枝枯れを生じることもあるので、夏場の水管理には注意が必要です。

たまにミノムシ(*)に葉を食べられることもありますが、その他に目立つ病害虫はなく、丈夫で育てやすい植物です。

■ マルバシャリンバイ（丸葉車輪梅）

分類：バラ科シャリンバイ属 / 常緑低木
学名：Rhaphiolepis indica var. umbellata (Thunb.) H.Ohashi
= Rhaphiolepis umbellata var. integerrima (Hook. et Arn.) Masam.
見頃：葉＝周年 / 花＝4～6月 / 果実＝10～11月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	－	◎	◎	－	○	－	－	◎	－

マルバシャリンバイは、西日本では海岸の松林の下に自生していることが多く、潮風や排気ガスに非常に強いのが特徴です。初夏にウメに似た花が咲き、後に黒く丸い実になり、これが野鳥の餌となります。

大きくなっても枝がまばらな傾向があるので、苗木のうちから刈り込みを繰り返して枝数を増やすようにします。芽吹きは良いので、緻密な美しい生け垣が出来上がります。

排気ガスの多い所ではカイガラムシ(*)が発生することが多く、それに付随してスス病(*)も多発するため、美観を大きく損ないます。それでも非常に丈夫なので、枯れるようなことはめったにありません。

■ モチノキ（黐木）

別名：トリモチノキ（鳥黐木）；ホンモチ
分類：モチノキ科モチノキ属 / 常緑高木 / 雌雄異株
学名：Ilex integra Thunb.
見頃：葉＝周年 / 花＝4月 / 果実＝11月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	－	◎	◎	－	◎	－	◎	○	◎

本種の樹皮から鳥もちを作ることが名前の由来となっています。厚みのある濃緑色の葉が独特の質感を見せてくれます。生け垣として見かけることはほとんどありませんが、西日本では庭木として用いられているのをよく見かけます。

例えば、生け垣として使われることの多いアラカシ(別項目)とモチノキとを比べてみた場合、性質は同じくらい強いし、葉がアラカシより小さく、色調が明るいし、枝葉がより密生するし、さらにアラカシより防火性能が遙かに高いということもあり、生け垣用樹としてずっと優れた特性を備えています。生け垣としてもっと使って欲しい樹種の一つです。

カイガラムシ(*)が発生しやすいことと、それに伴ってスス病(*)も多発するので、早めの対応が必要です。他には特に目立つ病害虫はありません。

■ ヤコウカ（夜香花）

別名：ヤコウボク（夜香木）
分類：ナス科キチョウジ属 / 常緑低木
学名：Cestrum nocturnum L.
見頃：葉＝周年 / 花＝夏～秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	食餌植物	紅葉	芳香	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
○	◎	－	◎	○	－	○	○	－	◎	◎	◎	－	－	－	◎	◎	◎	－

ヤコウカは九州南部では、夏から秋にかけて、2～3回花が咲きます。名前通り、夕方薄暗くなる頃に咲き出す花の、むせるような甘く濃密な香りが最大の特徴です。

一株の花が咲いただけで数10メートル先まで香りが漂います。この香りの強さはキンモクセイ（別項目）をもしのぎ、あまりの濃厚な香りに辟易して嫌う人もいるほどです。

幹はしなやかで株立ちになり、茎も柔軟なため、生け垣にする場合は境栽風に使ったり、竹垣やフェンスなどで支える必要があります。寒さには弱いので無霜地域でないと屋外越冬は難しいでしょう。性質は強いのですが、寒さにさらされたり、乾燥が続いたりなど、環境が急変すると落葉します。

特に目立つ病害虫もないので、適地であればとても丈夫で栽培しやすい植物です。

■ レッドロビン（Red Robin）

分類：バラ科カナメモチ属 / 常緑小高木
学名：Photinia x fraseri 'Red Robin'
　　= Photinia 'Red Robin'
見頃：葉＝周年 / 紅葉＝刈り込み後の若葉
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
○	◎	○	◎	◎	◎	○	○	－	◎	○	○	－	◎	◎	◎	○

　レッドロビンは、フレーザーカナメ（Photinia x fraseri）の一品種です。本種は生け垣として従来多用されてきたカナメモチ(別項目)より性質が強く、若葉が鮮やかに紅葉して非常に美しくなるので、近年生け垣用として急速に普及してきました。

　しかしカナメモチと比べると、葉が大きくて枝も粗いので、紅葉していない時期は見かけがややだらしない感じになるのが惜しいところ。
　苗木のうちからしっかりと刈り込みを繰り返すと、枝数が増えて見栄えの良い生け垣に仕上がります。
　特に目立つ病害虫もなく、丈夫で育てやすい植物です。

■ ローズマリー（rosemary）

和名：マンネンロウ（迷迭香）
分類：シソ科アキギリ属 / 常緑低木
学名：Salvia rosmarinus Schleid.
　　= Rosmarinus officinalis L.
見頃：葉＝周年 / 花＝冬～春
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	－	◎	◎	◎	－	－	－	◎	◎

　ローズマリーは従来マンネンロウ属(Rosmarinus)とされてきましたが、DNA解析によって、2017年からアキギリ属(Salvia)に含められています。

　通りすがりに衣服の裾が葉に触れただけで、強い芳香を発するのが最大の特徴です。芳香性のハーブとして料理や薬用に用いられます。
　原産地は地中海沿岸で、ヨーロッパでは古くから悪魔除けの効能があると信じられていました。

　葉が小さく枝も細かく分かれるので、高さ１メートル程度までの低い生け垣に適しています。通路沿いの縁取りに植えておくと、そこを通る時、葉を軽く撫でるだけで、香りを楽しむことが出来ます。

　特に気に留めるような病害虫はありませんが、過湿を嫌うので、水はけ良く、やや乾燥気味に保つように気を付けるだけで、比較的育てやすい植物です。

■ その他の常緑広葉樹（52種）

特　性 →	耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	食餌植物	紅葉	芳香	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
アオキ♀	◎	◎	○	◎	◎	◎	－	◎	－	◎	◎	－	◎	－	－	◎	◎		
アザレア	○	◎	◎	◎	－	－	－	○	○	◎	◎	－	○	－	－	◎	◎		
アセビ	◎	◎	◎	◎	○	－	－	○	○	◎	◎	－	－	－	－	◎	○		
アセロラ	◎	◎	○	◎	－	○	○	－	－	◎	◎	◎	◎	－	－	◎	◎		
アリドオシ	◎	◎	◎	◎	－	－	○	◎	－	◎	◎	－	○	－	－	◎	○		
イスノキ	◎	○	－	◎	◎	◎	◎	○	－	◎	－	－	－	－	◎	○	◎		
ウンシュウミカン	◎	○	○	◎	◎	○	○	○	－	◎	◎	◎	◎	－	－	◎	◎		
エスカロニア	○	◎	○	◎	○	◎	◎	○	－	◎	◎	－	－	－	－	◎	◎		
オリーブ	◎	◎	○	◎	－	○	◎	－	－	◎	◎	○	○	－	○	◎	○		
カクレミノ	◎	◎	○	○	○	◎	○	◎	－	◎	○	－	○	－	◎	○	－		
カラタネオガタマ	◎	◎	○	◎	○	○	◎	○	－	◎	◎	◎	◎	－	－	◎	○		
カリステモン	◎	◎	○	○	－	○	◎	－	－	◎	◎	－	◎	－	○	◎	○		
カルミア	◎	◎	○	◎	○	－	○	○	◎	○	◎	－	－	－	－	◎	◎		
キリシマツツジ	◎	○	◎	◎	－	－	－	○	◎	○	◎	－	○	○	－	◎	◎		
ギンバイカ	◎	◎	○	○	○	○	○	－	－	◎	◎	◎	－	－	－	◎	○		
クロトン	◎	◎	◎	◎	－	－	◎	◎	－	◎	－	－	－	－	－	◎	◎		
ゲッキツ	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	－	◎	◎	◎	◎	－	○	◎	◎		
コクチナシ	○	◎	◎	◎	－	－	－	◎	－	◎	◎	◎	○	－	－	◎	◎		
コトネアスター	◎	◎	◎	○	○	○	○	－	○	◎	◎	－	○	－	－	◎	◎	○	－
サカキ	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	－	－	－	○	◎	○		
シェフレラ	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	－	◎	○	－	－	－	－	◎	◎		
ジンチョウゲ♀	○	◎	◎	◎	◎	○	－	◎	－	◎	◎	◎	－	－	－	◎	－		
スダジイ	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	－	◎	○	－	○	－	◎	－	○		
ストロベリーグアバ	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	－	◎	◎	◎	◎	－	－	◎	○		

特　性 →	耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	食餌植物	紅葉	芳香	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
セイヨウヒイラギ	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	－	◎	－	◎	○	○		
タチシャリンバイ	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	－	◎	◎	－	◎	－	○	◎	○		
タバコソウ	◎	◎	◎	◎	○	－	－	○	－	◎	◎	－	－	－	－	◎	◎	◎	－
タブノキ	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	－	○	◎	－	－	－	－	◎	－	○		
ツゲ	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	－	◎	○	－	－	－	○	◎	－		
デュランタ	◎	◎	○	◎	－	○	○	○	－	◎	◎	－	◎	－	－	◎	◎		
トウグミ	◎	◎	－	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	○	◎	－	－	◎	－		
トウネズミモチ	◎	◎	－	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	－	◎	◎	○		
トキワギョリュウ	◎	◎	－	◎	◎	◎	◎	－	－	◎	◎	－	－	－	◎	◎	○		
トベラ♀	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	－	◎	◎	－	◎	－	－	◎	－		
ナンテン	◎	◎	◎	◎	○	○	－	◎	○	◎	◎	－	◎	○	－	◎	◎		
ノボタン	◎	◎	○	○	○	－	－	－	－	◎	◎	－	－	－	○	◎	○		
ハゴロモノキ	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	－	－	◎	◎	－	◎	－	－	◎	○		
ヒイラギナンテン	◎	◎	◎	○	◎	○	－	◎	－	◎	◎	◎	○	○	－	◎	○		
ヒメノボタン	◎	◎	◎	◎	○	－	－	－	－	◎	◎	－	－	－	－	◎	◎		
ビヨウヤナギ	◎	◎	○	◎	○	○	－	◎	－	◎	◎	－	－	－	－	◎	◎	◎	－
ピラカンサ	◎	◎	－	◎	◎	○	◎	○	○	◎	◎	－	◎	－	○	◎	－		
ブッドレア	◎	◎	○	○	○	－	◎	○	◎	◎	◎	◎	－	－	－	◎	◎	◎	－
マテバシイ	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	－	－	◎	－	－	－	－	◎	－	○		
マホニア	◎	◎	◎	○	○	○	－	◎	－	◎	◎	◎	○	○	－	◎	○		
ミヤマシキミ♀	◎	◎	◎	○	○	○	－	◎	－	◎	◎	◎	－	－	－	◎	○		
メキシコハナヤナギ	◎	◎	◎	◎	○	－	○	○	－	◎	◎	－	－	－	－	◎	◎		
モッコク	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	－	◎	○	－	－	○	◎	◎	○		

特　性 →	耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	食餌植物	紅葉	芳香	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
ヤブツバキ ……◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	ー	◎	◎	ー	◎	ー	◎	○	○			
ライチー ……◎	◎	◎	○	ー	ー	○	ー	ー	◎	◎	◎	○	ー	ー	◎	ー			
ラベンダー ……◎	◎	◎	◎	ー	◎	◎	ー	◎	◎	◎	◎	ー	ー	ー	◎	◎			
ランタナ ……◎	◎	○	◎	◎	◎	○	○	ー	◎	◎	ー	ー	ー	ー	◎	◎	◎	ー	
ルリマツリ ……◎	◎	○	◎	ー	ー	○	○	ー	◎	◎	ー	ー	ー	ー	◎	◎	◎	ー	

■ 4-3-2　落葉広葉樹（25種）

■ アキグミ（秋茱萸）

分類：グミ科グミ属 / 落葉低木
学名： Elaeagnus umbellata Thunb.
見頃：葉＝春～秋 / 花＝4～6月 / 果実＝9～11月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	－	－	◎	－

秋に果実が熟すことからアキグミの名がつきました。他のグミ類が常緑で楕円形の実をつけるのに対して、アキグミは落葉性で球形の小さな実が成るのが特徴です。ただ、落葉性とはいっても、暖地だと春になるまで、緑葉が枝先に多少残っているのを時々見ます。

初夏から秋遅くまで見られる銀緑色の葉は、他の広葉樹とは違う、涼しげな風情が感じられます。

晩秋に落葉した後も、長い間果実が落ちないので、小さくて丸くて真っ赤な実が冬の日差しを受ける様は、この木の最大の魅力となっています。

アキグミの果実は良質の果実酒を造ることができます。またこの果実には、トマトの7～17倍ものリコピンが含まれているそうです。

小枝の先端が鋭いとげになっているので、「茨垣」とするのに最適です。しかしその反面、不用意に近付くと痛い目に遭うので、取り扱いには注意が必要です。乾燥には特に強い耐性があるので、一旦根付いてしまうと、海岸近くの砂地でもよく生育します。というか、元々海岸近くに自生しているので、潮風や乾燥に強いのが当然のことなのですが。

目立つ病害虫もなく、栽培は容易です。

■ ウツギ（空木）

別名：ウノハナ(卯の花)
分類：アジサイ科ウツギ属 / 落葉低木
学名：Deutzia crenata Siebold & Zucc.
見頃：葉＝春～秋 / 花＝5～7月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	○	○	－	－	◎	◎

2007年に選出された「日本の歌百選」に選ばれている唱歌「夏は来ぬ」の冒頭で歌われている「卯の花」とはウツギの花のことです。卯月（旧暦4月）に花が咲くことから、卯の花の名が付いています。また茎が竹のように中空であることから空木(うつぎ)の名が付いたとも言われます。

ウツギの純白の花が群れ咲く様子は、初夏の爽やかさを感じさせる花の代表とも言えるでしょう。
古くは、清少納言が、時鳥(ほととぎす)の鳴き声を聞きに出かけた折り、路傍に咲いている卯の花を見て、その枝を手折り、車に飾って帰路についた、という一節が「枕草子」に記されています。

ウツギは以前はユキノシタ科の植物とされていましたが、近年の分類ではアジサイ科に含められています。
北海道南部以南に広く自生していて、ありふれた植物なので、花の時期以外はほとんど気に留めることがありません。でも、分布域が広くてありふれているということは、それだけ日本の気候に合っているということであり、栽培が容易であるということをも意味しています。

日陰でもそれなりに花は咲きますが、日当たりの良い場所だと、株全体が花で覆われるほど沢山咲きます。
病虫害もほとんどないし、満開に咲いたウツギの生け垣は、非常に見応えがあります。

■ オウバイ（黄梅）

別名：迎春花［中国名］
分類：モクセイ科ソケイ属 / 半つる性落葉低木
学名：Jasminum nudiflorum Lindl.
見頃：葉＝春～秋 / 花＝早春
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	◎	◎	◎	－	○	－	－	◎	◎	◎	－

まだ寒さの残る早春、葉に先立って株全体から溢れんばかりに咲く黄金色の花、これがオウバイがもっとも輝く時期です。迎春花という名の通り、この花が満開になると、やっと春が来たことを実感します。
ただ、ジャスミンなどソケイ属の他の植物とは違って、花に香りがほとんどないのが惜しいところですね。

乾燥が続くなど、環境が急変するとすぐに落葉し、株全体が裸になってしまいます。しかし小枝が一年中緑色を保っているので、光合成や翌年の開花に影響することはなく、見た目も葉が付いている時と比べて、それほど違和感はありません。

ただ、オウバイの性質として、下枝がほとんど出ないことが多いので、樹形がややだらしなく見える場合もあります。観賞用の独立木ならこれでも構わないのですが、生け垣にする場合は苗木のうちから刈り込みを繰り返して、下枝を十分増やしておきます。
目立つ病害虫もないし、強く刈り込んでも平気なので、栽培は比較的容易な植物です。

近年、常緑性のウンナンオウバイ(Jasminum mesnyi)が、オウバイという名で流通している場合がありますから注意してください。オウバイは落葉樹です。

■ カラタチ（枳殻；枸橘）

別名：キコク(枳殻)、カラタチバナ(唐橘)
分類：ミカン科カラタチ属 / 落葉低木
学名：Poncirus trifoliata (L.) Raf.
見頃：葉＝春～秋 / 花＝4～5月 / 果実＝秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	○	ー	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	○	ー	○	◎	○

北原白秋作詞、山田耕筰作曲「からたちの花」で知られる植物です。この曲を聴いたことがある方は多いでしょうが、カラタチの花を実際に見たことがある方は少ないのではないでしょうか。

歌詞にあるとおり、初夏に芳香のある白い花が咲き、秋には黄色く丸い果実が実ります。

鋭く長い刺のあるカラタチは、「茨垣」に用いられる樹種の代表格です。大きな刺だらけの枝は人畜を問わず、侵入防止目的の生け垣として最適です。

西日本ではカラタチの生け垣を、昔はあちこちで見かけたものですが、あまりの刺の多さで手入れが大変なこととか、道行く人への危険性などもあってか、カラタチだけでなく、茨垣自体が近年めっきり少なくなっています。

その一方で、生け垣とは違う、カラタチの重要な用途として、日本では「温州みかんの矮性台木」として、カラタチの実生苗がもっとも多く使われています。

ミカン科の植物に共通する性質として、アゲハチョウの幼虫による若葉への食害と、ハダニ(*)による吸汁被害も大きいので、対応が必要になります。

■ クコ（枸杞）

分類：ナス科クコ属 / 半つる性落葉低木
学名：Lycium chinense Mill.
見頃：葉＝春～秋 / 花＝7～11月 / 果実＝晩秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	○	◎	－	－	◎	○	－	◎	◎	○	◎	－	－	◎	◎	◎	－

クコの葉や果実は食用・茶・果実酒・薬用などに古くから利用されてきました。特にクコ茶はよく知られていますね。
夏に薄紫の5弁花が咲き、秋遅くには楕円形の赤い果実が沢山ぶら下がって目を引きます。この真っ赤なクコの実から、上質な果実酒を造ることもできます。

茎は株立ちになります。半つる性で直立せず、長く伸びるので、フェンスや竹垣などに絡ませるのが良いでしょう。
夏場に乾燥が続くなど、環境が急変すると落葉することもありますが、とても丈夫なので枯れるようなことはまずありません。葉の付け根に刺状の小枝が付いているので、不用意に触れると痛い目に遭います。

たまにミノムシ(*)に葉を食べられることがありますが、他には特に目立つ病害虫もなく、丈夫で育てやすい植物です。

■ コデマリ（小手毬）

別名: テマリバナ、スズカケ
分類：バラ科シモツケ属 / 落葉低木
学名：Spiraea cantoniensis Lour.
見頃：花＝4～5月 / 葉＝春～秋 / 紅葉＝晩秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	◎	○	○	○	○	◎	◎	◎	－	－	○	－	◎	◎

コデマリの幹は株立ちになります。春の開花期に、アーチ状にカーブした細い枝に、無数の白い手まりが並んでいる様子がじつに可愛らしいです。晩秋、落葉する前に葉が橙色に色付くのも、秋らしい風情を感じます。

刈り込みは通常花が咲き終わった直後に行います。夏以降に刈り込みをすると、翌年咲くための花芽がなくなってしまうので、刈り込みは遅くとも6月中には終えるようにします。

コデマリは幹が細くて株立ちになるため、風当たりの強い場所に植えた場合、台風の時などに、強風で幹がシャッフルされて、整形の生け垣がデコボコになってしまうこともあります。これは同じシモツケ属の、シジミバナ、シモツケ、ユキヤナギ(それぞれ別項目)についても同じことが言えます。

たまにカイガラムシが付くことがありますが、他に目立つ病害虫もなく、育てやすい植物です。

■ コムラサキ(小紫)

別名：コシキブ(小式部)、ムラサキシキブ
分類：シソ科ムラサキシキブ属 / 落葉低木
学名：Callicarpa dichotoma (Lour.) K.Koch
見頃：花＝6～8月 / 果実＝夏～秋 / 葉＝春～秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	◎	○	－	○	○	◎	◎	◎	－	○	○	－	◎	◎

ムラサキシキブという名で市販されている植物は、そのほとんどがコムラサキであると言われています。ムラサキシキブ(Callicarpa japonica)はコムラサキとはまったく別の種類で、樹形も異なります。

春先に出た枝が伸びて充実してくる６月頃から、葉の脇から次々と、薄紫の小さな花が咲き出します。枝が伸びるにつれて花も次々と咲き上がっていき、始めに咲いた所から順に、小さな果実が次第に大きくなってきます。
やがて果実が紫色に熟してくる頃には、枝が果実の重みで枝垂れるように、優美なカーブを描いてきて、名前に恥じない美しさを見せてくれます。

コムラサキは丈が低く、高さ１メートル以下の低い生け垣に適しています。しかし、本来の美しさを見るためには、自然の樹形を生かして境栽風に植えるのが良いでしょうね。きっちりと刈り込む整形の生け垣には向きません。

たまにミノムシ(*)に葉を食われることがある位で、他に目立つ病害虫はありません。日本の気候に合っていて、育てやすい植物です。

■ シジミバナ（蜆花）

別名：コゴメバナ、ハゼバナ、エクボバナ
分類：バラ科シモツケ属 / 落葉低木
学名：Spiraea prunifolia Sieb. et Zucc.
見頃：花＝4月 / 葉＝春～秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	－	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	－	－	－	－	◎	◎

シジミバナの樹形は株立ちになり、コデマリ(別項目)とよく似ていますが、コデマリより全体的にやや大ぶりで幹立ちも粗いです。

花は白色で直径１センチメートルほどあり、シモツケ属の中でも最大級になります。花に近寄ってみると八重咲きの白バラを思わせるような美しい形をしています。

生け垣としては、狭い庭には向かないです。むしろ公園のような広い場所で使って欲しい樹種と言えるでしょう。
特に境栽風に枝を自由に伸ばしてやると、花も沢山咲いて、この木の良さが最大限に発揮出来ます。

■ シナレンギョウ（支那連翹）

分類：モクセイ科レンギョウ属 / 落葉低木
学名：Forsythia viridissima Lindl.
見頃：花＝3～4月 / 葉＝春～秋 / 黄葉＝秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	－	◎	◎	○	○	○	◎	◎	◎	－	－	○	－	◎	◎	◎	○

日本で庭園や公園に植えられ、一般に「レンギョウ」と呼ばれている植物は、そのほとんどがシナレンギョウだといわれています。シナレンギョウの他にもレンギョウ(Forsythia suspensa)やチョウセンレンギョウ(F. viridissima var. koreana)なども見かけることがあるのですが、これらが混同されて一括りに「レンギョウ」と呼んでいる場合がほとんどです。

早春にシナレンギョウの黄金色の花が満開になると、庭がひときわ明るく輝いて見えます。日当たりの良い場所では花着きがとても良く、樹冠が花で埋まるほど沢山咲きます。ただし香りがないというのが惜しいところ。

レンギョウの仲間は、挿し木や株分けで簡単に増やすことができます。幹が比較的柔らかくしなやかなので、風に煽られると乱れやすいため、整形で高めの生け垣には向きません。整形にしたい場合は花が咲き終わる頃に、一度だけバッサリと刈り込みを行います。その後新しく伸びる枝に来年花が咲くので、よほど乱れた場合のみ、軽く切り揃える程度にとどめておきましょう。

本種はどちらかといえば湿気を好む植物です。夏に乾燥すると葉が傷むので、この点だけは気をつける必要があります。
他には特に目立つ病害虫もなく、育てやすい植物です。

■ シモツケ（下野）

別名：キシモツケ（木下野）
分類：バラ科シモツケ属 / 落葉低木
学名：Spiraea japonica L. f.
見頃：花＝5～8月 / 葉＝春～秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	○	◎	◎	○	○	－	◎	◎	○	◎	○	－	－	－	◎	◎

関東の下野国(今の栃木県)で最初に発見されたことからこの名がつけられました。全体的に繊細な感じがありますが、ピンクの小さな花が集まって咲く様子が、女性的な優美さをもっとも際立たせています。

シモツケは春から伸びた枝の先端に花が咲くので、刈り込みは春の芽吹き前に行います。

一見ひ弱そうな見かけによらず性質は丈夫で、栽培しやすい植物です。日陰でも花は咲きますが、花房にウドンコ病(*)が発生しやすくなるので注意が必要です。特に風通しの悪い場所で多発します。

また夏に乾燥が続くと葉が日焼けするので、夏期の水管理には気を付けなければいけません。

■ トウカエデ（唐楓）

別名: サンカクカエデ、ツウテンカエデ（通天楓）
分類：ムクロジ科カエデ属 / 落葉高木
学名：Acer buergerianum Miq.
見頃：葉＝春～秋 / 紅葉＝秋 / 花＝4～5月 / 果実＝秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	○	－	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	○	－	－	◎	◎	○	◎

光沢のあるトウカエデの葉が日差しを受けて輝くと、独特の質感を持った美しさを感じます。また秋の落葉前には美しく紅葉するのもいいですね。街路樹に植えられているのをよく見かけます。

性質が非常に強く、枝がよく伸びて樹形が乱れやすいため、頻繁に刈り込みをする必要があります。

目立つ病害虫はほとんどありませんが、夏を中心に毛虫の被害がみられることがあります。また、まれにカミキリムシ(*)が幹の根元を食害する場合もあります。

■ ドウダンツツジ（灯台躑躅；満天星）

分類：ツツジ科ドウダンツツジ属 / 落葉低木
学名：Enkianthus perulatus (Miq.) C.K.Schneid.
見頃：葉＝春～秋 / 紅葉＝秋～初冬 / 花＝4～5月 / 果実＝秋
特性：

耐病虫害	病虫害少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
○	◎	◎	◎	－	－	－	◎	◎	◎	◎	－	－	◎	－	◎	◎

春先に開くスズラン(Convallaria majalis)のようなドウダンツツジの白い花は、若葉と共に清楚な美しさを感じます。また秋に燃え立つように真っ赤に紅葉するのもとても美しいです。

ただ、夏に乾燥して葉が傷むと、この美しい紅葉が見られなくなるので、夏の水やりは欠かせない作業となります。また夏にグンバイムシ(*)の被害を受けた場合も、紅葉しないまま落葉することが多いので、気を付けなければいけません。

ドウダンツツジは古くから有毒植物だと信じられていました。本作者も子供の頃に「毒があるから気を付けるように」と教えられた記憶があります。しかし、人や動物での中毒例はこれまで皆無で、有毒成分も見つかっておらず、現在では無毒であるという結論が出ています。

ただ、本種を含むツツジ科全体として見た場合、アセビ(Pieris japonica)やレンゲツツジ(Rhododendron japonicum)、ネジキ(Lyonia ovalifolia subsp. neziki)などの強い毒性を持つ植物もあるので注意が必要です。

■ ナツハゼ（夏櫨）

分類：ツツジ科スノキ属 / 落葉低木
学名：Vaccinium oldhamii Miq.
見頃：葉＝春～秋 / 紅葉＝(夏～)秋 / 花＝5～6月 / 果実＝秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	○	－	－	－	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	－	◎	◎

夏でも紅葉した葉を見ることがあるためナツハゼの名が付いていますが、古くなった葉が落葉直前に紅葉するだけなので、夏に株全体が丸ごと紅葉するのではありません。ただし、秋に落葉する前には株全体が美しく紅葉します。

また、本種はウルシ科のハゼ(Rhus succedanea)とは関係なく、かぶれることもありません。

ナツハゼは小果樹のブルーベリー(別項目)と同じ仲間で、性質もよく似ています。果実は黒く球形で、ブルーベリーより小さいですが、甘酸っぱくて食べられ、ジャムや果実酒にもできます。

日陰に強いので、日当たりの良くない場所で、低い生け垣に適しています。夏場は根が乾かないように気を付ければ、機嫌良く育ちます。

■ ニシキギ（錦木）

別名：ヤハズニシキギ
分類：ニシキギ科ニシキギ属 / 落葉低木 / 雌雄異株
学名：Euonymus alatus（Thunb.）Siebold
見頃：葉＝春～秋 / 紅葉＝秋 / 枝＝冬 / 花＝4～5月 / 果実＝秋～初冬
特性：

耐病虫害	病虫害少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	－	◎	○	○	○	◎	◎	◎	◎	－	○	◎	－	◎	◎

ニシキギはミズキ科のヌマミズキ(Nyssa sylvatica)、ツツジ科のスズランノキ(Oxydendrum arboreum)と並んで、世界三大紅葉樹の一つに数えられています。

暖地では、カエデ類の葉が夏に傷むと、紅葉しないまま枯れ落ちてしまうことがよくあるのですが、そういう所でもニシキギは鮮やかに色付き、名前に恥じない美しさを見せてくれます。落葉後は小さい真っ赤な果実と、枝にできるコルク質の翼(よく)が目を引きます。

刈り込みを繰り返すと枝が増えるので遮蔽効果も高く、落葉樹でありながら内垣だけでなく、外垣にも向いているという、珍しい樹種の一つです。
病虫害もほとんどなく、栽培がしやすいので、庭内で目に付きやすい場所に植える、低めの生け垣に最適です。

■ ニワウメ（庭梅）

分類：バラ科サクラ属 / 落葉低木
学名：Prunus japonica Thunb.
= Microcerasus japonica (Thunb.) M.Roem.
見頃：花＝4月 / 果実＝夏 / 葉＝春～秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	○	○	ー	ー	○	◎	○	◎	◎	◎	ー	ー	◎	◎

春に咲く薄いピンクの可愛らしい花と、サクランボのような真っ赤な果実が目を引きます。この果実は酸っぱくて生食には向きませんが、ジャムなどに加工することができます。

株立ちで大きくはならないので、低めの生け垣に好適です。日当たりの良い場所だと、花付きが良くなります。
見た目がややひ弱そうな印象もありますが、丈夫で栽培は容易です。

■ バイカウツギ（梅花空木）

別名：サツマウツギ(薩摩空木)
分類：アジサイ科バイカウツギ属 / 落葉低木
学名：Philadelphus satsumi Siebold ex Lindl. et Paxton
見頃：花＝5～6月 / 果実＝9～10月 / 葉＝春～秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	○	○	－	○	－	○	◎	◎	◎	－	－	－	◎	◎

清楚な雰囲気のある純白の4弁花と、その甘い香りがバイカウツギの最大の魅力です。日当たりの良い場所に植えると花付きが良くなります。

ただ、この花は花粉症の原因になるという研究もあるそうなので、アレルギー持ちの方は庭に植えない方が良いでしょう。

日本の気候に合っているので栽培しやすい植物です。高さ１～1.5メートルの生け垣に向いています。

目立つ病害虫はありませんが、夏に乾燥が続くと、葉が傷んで落ちることがあります。

■ ハナカイドウ（花海棠）

別名：スイシカイドウ(垂絲海棠)、ナンキンカイドウ
分類：バラ科リンゴ属 / 落葉小高木
学名：Malus halliana Koehne
見頃：花＝4月 / 葉＝春～秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	○	○	－	－	○	◎	○	◎	○	○	－	－	◎	◎

ハナカイドウは高さ1メートルほどの苗木でも、枝一面に花を咲かせるので、花の咲く生け垣として最適な樹種の一つといえます。

夏以降に刈り込みをすると、翌年咲く花が少なくなってしまいますから、刈り込み時期には注意が必要です。通常は花が咲き終わった頃に刈ります。遅くとも6月中には刈り終えるようにしなければいけません。

翌年咲くための花芽は、8月にはすでに出来上がっています。そこから逆算すると、刈り込んでから新しい芽が出て、それが伸びて充実し、花芽が出来上がるまで、という期間が必要になるからです。

もう一点、夏に高温乾燥が続くと葉が傷むので、夏の水管理だけは気を付けなければなりません。

他には特に気を付けるようなこともなく、性質も丈夫で、通常の管理だけで栽培しやすい植物です。

■ ヒメウコギ（姫五加木）

別名：ウコギ
分類：ウコギ科ウコギ属 / 落葉低木 / 雌雄異株
学名：Eleutherococcus sieboldianus (Makino) Koidz.
= Acanthopanax sieboldianus Makino
見頃：葉＝春～秋 / 花＝5～6月 / 果実＝秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	○	－	○	－	－	◎	○	◎	－

ヒメウコギは細長い葉を5枚つけた掌状複葉が特徴です。この葉の様子は一般的な生け垣とは違う、独特の雰囲気があります。幹にはトゲもあるので、不用意に手を出すと痛い目に遭います。
幹は比較的柔軟でしなるため風に弱く、整形の生け垣には向きません。特に若木のうちは、フェンスや竹垣などに縛り付けて固定するのが良いでしょう。

生け垣としては東北地方で多く見られ、古くから若葉をウコギ飯などの食用に用いてきました。原産地は中国で、根皮が五加皮という漢方薬にされていて、チョウセンニンジン(Panax ginseng)と同じ薬効があるといわれます。

日本では谷川沿いなど、湿り気の多い所に古くから野生化しているため、全国的に山菜として利用されています。
日陰でも機嫌良く育つし、目立つ病害虫もなく、丈夫で育てやすい植物です。

■ ヒメウツギ（姫卯木）

分類：アジサイ科ウツギ属 / 落葉低木
学名：Deutzia gracilis Sieb. & Zucc.
見頃：葉＝春～秋 / 花＝5～6月 / 果実＝10月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	○	○	－	◎	◎	－	◎	◎	－	－	－	－	◎	◎

ヒメウツギは関東以西の山野でよく見かける植物ですが、花の時期以外はほとんど気に留めることはありません。日当たりの良い場所に植えると、花がたくさん咲きます。やや下向きの花房に純白の花が群れ咲く様子を見ると、梅雨期に差しかかる蒸し暑さを忘れさせるような、爽やかさな雰囲気が漂います。

日本の気候に合っているし、土質も選ばないので、栽培しやすい植物です。ウツギ(別項目)ほどには大きくならないので、高さ1メートル以下の低い生け垣とか、園路の縁取りなどに向いています。もっと使って欲しいと思っている樹種の一つです。

■ ブルーベリー（blueberry）

和名：ヌマスノキ(沼酸の木)
別名：ヌマスグリ(沼酸槐)、ハイブッシュブルーベリー(highbush blueberry)
分類：ツツジ科スノキ属 / 落葉低木
学名：Vaccinium corymbosum L.
見頃：葉＝春～秋 / 花＝4～5月 / 果実＝夏～秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
○	◎	○	◎	－	－	－	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	－	◎	◎

ブルーベリーは家庭用の小果樹として人気が高く、近年あちこちの庭先で見かけるようになってきました。

根が地表近くに広がるため、夏に乾燥すると弱ってしまったり、葉が傷んでしまうので、その点だけは気を付けておきたいですね。根元に敷き藁をするなどの、乾かない工夫が必要になるでしょう。

特に目立つ病害虫もなく、実生りも良く、育てやすい植物です。高さ1メートル以下の低い生け垣に適しています。

■ ヘーゼルナッツ（hazelnut）

和名：セイヨウハシバミ（西洋榛）
分類：カバノキ科ハシバミ属 / 落葉低木 / 雌雄異花
学名：Corylus avellana L.
見頃：花＝早春 / 果実＝秋 / 葉＝春～秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	○	○	－	－	◎	○	◎	◎	◎	◎	－	○	－	◎	○	◎	－

セイヨウハシバミという和名に馴染みのない方でも、ヘーゼルナッツという名前はよくご存じでしょう。日本で栽培しているのはめったに見かけませんが、ナッツ類としては、中央アジアからヨーロッパにかけて、アーモンド（Prunus dulcis)と並んで、もっとも多く栽培されている種類です。

どんぐりを大きくしたような種子は、煎ると独特の香ばしさがあってとても美味しいです。しかし、営利栽培されるヘーゼルナッツのほとんどが製菓材料として消費されています。

樹形が株立ちになって横に広がるので、生け垣としては使い辛い面もありますが、広い庭で境栽風に用いると見応えがあります。ここではナッツが利用できる珍しい樹種として取り上げました。苗はネット通販を利用すれば入手できます。

また本種と同じ仲間で日本に自生しているハシバミ(Corylus heterophylla var. thunbergii)やツノハシバミ(C. sieboldiana)も同じように栽培できます。病虫害もほとんどなく、いずれも比較的栽培しやすい植物です。

■ ムクゲ（木槿）

分類：アオイ科フヨウ属 / 落葉低木
学名：Hibiscus syriacus L.
見頃：葉＝春～秋 / 花＝夏～秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	○	○	◎	◎	○	○	－	◎	◎	◎	－	○	－	◎	◎	◎

ムクゲは自然樹形が箒状になり、枝が上向きにしか伸びないため、樹形がやや品位に欠けるのが惜しい所です。木の勢いが上方向に集中するので、生長は早いのですが、その分下枝が上がりやすい傾向もあります。
さらに、上向きに伸びる割に根が深くは張らないので、強風で傾くこともあります。

こういう点から見ると、ムクゲは生け垣にはそれほど向いてないようにも思えます。しかし生け垣として苗木のうちから刈り込みを繰り返して枝を増やすことで、この欠点もある程度はカバーできます。

ムクゲには多くの品種があるため、花のバリエーションが豊富であるとか、夏から秋まで花が長期間咲き続けるなどのメリットも大きいですね。このメリットを生かすためには、樹形が多少乱れても、開花時期の刈り込みはしないことが重要です。

ムクゲの原産地は中国なのですが、現在韓国の国花とされており、国章にもデザインされ、さらに国歌にもムクゲが登場しています。

■ ヤマツツジ（山躑躅）

分類：ツツジ科ツツジ属 / 半落葉低木
学名：Rhododendron kaempferi Planch.
見頃：葉＝春～秋 / 花＝4～6月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
○	◎	○	◎	－	○	○	○	◎	◎	◎	○	○	－	－	◎	◎

ヤマツツジは北海道南部から九州までと、日本に自生するツツジ類のうち、もっとも広範囲に分布しています。陽当たりの良い低山で普通に見られるツツジです。暖地では常緑で、冬になっても緑葉が残っていますが、北へ行くほど落葉性が強くなります。

陽当たりの良い場所に植えて適切に管理すると、葉が見えなくなるほど沢山の花が咲き、それはもう見事の一言に尽きます。
日本の気候に合っているため栽培も容易で、花の咲く低い生け垣、あるいは縁取り垣として、最適な樹種の一つです。

山地で自生している株ではほとんど見られませんが、庭先だとグンバイムシ(*)の被害がしばしば見られますから、夏場は気を付けて対応する必要があります。

■ ヤマブキ（山吹）

分類：バラ科ヤマブキ属 / 落葉低木
学名：Kerria japonica（L.）DC.
見頃：葉＝春～秋 / 花＝4～5月 / 黄葉＝秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	◎	○	○	－	○	◎	◎	◎	○	－	◎	－	◎	◎

七重八重花は咲けども山吹の実の一つだになきぞ悲しき

太田道灌の蓑と山吹の故事で知られるこの和歌は、醍醐天皇の第十一皇子である兼明親王が詠まれ「後拾遺和歌集」に収録されたものです。

ヤマブキの茎は株立ちになります。また茎が一年中緑色を保つことも大きな特徴です。春に山吹色の花が一斉に開くと、庭が一気に華やいで見えます。花は八重咲きが普通ですが、たまに一重咲きの5弁花をつける株も見られます。八重咲きでは種はできませんが、一重咲きだと結実します。

目立つ病害虫もなく、丈夫で栽培しやすい植物です。夏場以降に刈り込みを行うと、翌年の花を切り落とすこととなりますから、気を付けましょう。

■ ユキヤナギ（雪柳）

別名：コゴメバナ、イワヤナギ
分類：バラ科シモツケ属 / 落葉低木
学名：Spiraea thunbergii Sieb. ex Blume
見頃：花＝3～4月 / 葉＝春～秋 / 紅葉＝秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	－	－	○	－	◎	◎

ユキヤナギは株立ちになり、それほど大きくはならない落葉性の低木です。その魅力は何といっても、優美にカーブした細い枝から、滝のように咲きこぼれる、無数の真っ白な花が見事です。

花木を使った生け垣は、その花の魅力が最大限に発揮されるような手入れをしなけれないけない、というのがセオリーです。
ユキヤナギの場合でいえば、生け垣として整形にきっちり維持していると、ある程度の花は咲くとしても、その最大の魅力が失われてしまいます。
なので、花が咲き終わった直後に１回だけ刈り込むこととし、その後は多少枝が乱れても放任するのがベストだと考えます。

丈夫で育てやすい植物ですが、日当たりの良い場所に植えると沢山の花が見られます。ただ、風通しの良くない場所だと、カイガラムシ(*)が付きやすくなる傾向があります。

■ ユスラウメ（梅桃、梅桜、桜桃、山桜桃梅）

別名：ユスラゴ
分類：バラ科サクラ属 / 落葉低木
学名：Prunus tomentosa Thunb.
見頃：葉＝春～秋 / 花＝4月 / 果実＝6月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	◎	○	○	○	－	◎	◎	◎	○	◎	－	－	◎	◎

桜(旧字体で櫻)という漢字は、本来はユスラウメを表す字だったそうです。ユスラウメの実がなっている様子を、首飾りをつけた女性に見立ててこの字が生まれたそうな。

ユスラウメの原産地は中国北西部やモンゴルなので、寒さにはとても強いのですが、意外と夏の暑さにも耐えて九州でも良く育ち、開花結実も良好です。
作者が子供の頃、友人宅の庭先でユスラウメの真っ赤な実が沢山成っているのを見つけ、友人に見つからないように、いくつかをそっと口に入れた記憶があります。

ユスラウメは病害虫もなく育てやすい植物ですが、衣服の裾が軽く触れただけでも、小枝がポキポキ折れてしまう程細くもろいので、通路沿いには植えない方が良いでしょう。

■ その他の落葉広葉樹 66種

特　性 →	耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
アキニレ ……	◎	◎	ー	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	ー	ー	ー	○	◎	○	○		
アジサイ ……	◎	◎	○	○	○	ー	ー	○	◎	◎	◎	ー	ー	ー	ー	◎	◎		
アメリカハナノキ	◎	◎	ー	○	○	ー	◎	○	◎	○	◎	ー	ー	◎	◎	ー	○		
アメリカハリグワ	◎	◎	ー	◎	○	ー	◎	ー	○	◎	◎	ー	ー	◎	◎	○	○		
イボタノキ ……◎	○	ー	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	ー	◎	ー	○	◎	◎			
イロハカエデ …◎	○	○	◎	○	ー	ー	○	◎	◎	○	ー	ー	◎	○	◎	◎			
ウグイスカグラ	◎	◎	○	◎	○	○	ー	○	◎	○	◎	○	◎	ー	ー	◎	◎	◎	ー
ウメモドキ♀ …○	◎	◎	◎	○	○	ー	○	◎	○	◎	ー	◎	ー	ー	◎	◎			
エゴノキ ……◎	◎	○	○	○	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	ー	ー	○	◎	◎			
エニシダ ……◎	◎	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	○	ー	ー	◎	ー			
オオデマリ ……◎	◎	○	○	○	ー	ー	○	○	◎	◎	ー	ー	ー	○	◎	◎			
カイドウ ……◎	◎	○	○	○	ー	ー	○	◎	◎	◎	○	○	ー	○	◎	○			
ガクアジサイ …◎	◎	○	◎	◎	ー	ー	◎	○	◎	◎	ー	ー	ー	ー	◎	◎			
ガマズミ ……◎	◎	○	○	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	ー	◎	○	○	◎	◎			
カラコギカエデ	◎	◎	○	○	◎	ー	◎	○	◎	○	◎	ー	ー	◎	○	◎	◎		
カンボク ……◎	◎	○	○	◎	ー	○	◎	◎	◎	◎	ー	◎	ー	○	◎	○			
キブシ♀ ……◎	◎	○	○	○	○	ー	◎	◎	◎	◎	○	ー	○	ー	◎	◎			
ギョリュウ ……◎	◎	ー	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	ー	ー	ー	○	◎	○			
キングサリ ……◎	◎	ー	○	ー	ー	○	ー	◎	◎	◎	ー	○	○	◎	○	◎			
クサボケ ……◎	◎	○	○	○	ー	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ー	ー	◎	◎			
クロスグリ ……◎	◎	◎	ー	ー	ー	ー	◎	◎	○	◎	◎	◎	ー	ー	◎	◎	◎	ー	
クワ♀ ……◎	◎	ー	○	○	ー	◎	○	ー	◎	◎	◎	◎	ー	ー	◎	◎			
コブカエデ ……◎	◎	○	◎	◎	ー	◎	○	◎	○	ー	ー	ー	◎	○	◎	◎			
コルクウィッチア	◎	◎	○	◎	ー	ー	◎	○	◎	○	◎	ー	ー	ー	ー	◎	◎		

特　性 →	耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
ザイフリボク …	◎	◎	○	○	ー	ー	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎		
ザクロ ……	◎	◎	○	◎	○	ー	◎	ー	○	◎	◎	◎	◎	ー	○	◎	ー		
サジー♀ ……	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	ー	◎	◎	◎	◎	◎	ー	ー	◎	ー	○	ー
サラサドウダン	◎	◎	◎	◎	○	ー	ー	○	◎	◎	◎	ー	ー	◎	ー	◎	◎		
サンザシ ……	◎	◎	○	○	ー	ー	○	ー	◎	○	◎	◎	◎	ー	○	◎	○		
サンシュユ ……	◎	◎	○	○	ー	ー	ー	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	○		
サンショウ♀ …	◎	◎	○	◎	○	ー	○	◎	ー	◎	◎	◎	ー	ー	ー	◎	ー		
ショウキウツギ	◎	◎	○	◎	ー	ー	◎	○	◎	○	◎	ー	ー	ー	ー	◎	◎		
シロヤマブキ …	◎	◎	◎	○	ー	ー	ー	○	○	◎	◎	ー	ー	ー	ー	◎	◎		
ズミ ……	◎	◎	○	○	ー	ー	ー	○	◎	○	◎	○	◎	○	○	◎	◎		
スモークツリー	◎	◎	○	○	ー	ー	○	ー	◎	◎	◎	ー	ー	◎	ー	◎	◎		
セアノサス ……	◎	◎	○	◎	○	ー	◎	○	◎	◎	◎	ー	ー	ー	ー	◎	◎		
セイヨウ																			
ニンジンボク	◎	◎	○	○	ー	ー	◎	○	◎	◎	◎	◎	ー	ー	○	◎	◎		
ツタカエデ ……	◎	◎	○	◎	◎	○	○	◎	◎	○	◎	ー	ー	◎	ー	◎	◎		
テマリカンボク	◎	◎	○	○	◎	ー	○	◎	◎	○	◎	ー	◎	ー	○	◎	○		
トサミズキ ……	◎	◎	○	○	○	○	○	○	ー	◎	◎	ー	ー	○	ー	◎	◎	○	ー
ナツグミ ……	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	○	◎	ー	○	◎	ー		
ナツメ ……	◎	○	○	○	○	ー	◎	ー	◎	○	◎	○	◎	ー	○	◎	ー		
ニワザクラ ……	◎	◎	○	○	○	ー	ー	○	○	○	◎	ー	ー	◎	ー	◎	◎		
ネグンドカエデ	◎	◎	○	◎	○	ー	◎	○	◎	○	◎	ー	ー	◎	○	◎	◎		
ノニレ ……	◎	◎	ー	◎	○	ー	◎	○	◎	○	ー	ー	ー	○	◎	○	○		
ノムラ ……	◎	○	○	○	○	ー	○	ー	◎	○	○	ー	ー	◎	○	◎	◎		
ノリウツギ ……	◎	◎	○	ー	ー	ー	ー	◎	◎	◎	◎	ー	ー	ー	ー	◎	◎		
ハコネウツギ …	◎	◎	○	◎	ー	ー	ー	○	◎	◎	◎	ー	○	ー	ー	◎	◎		
ハシバミ ……	◎	◎	○	○	○	ー	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	○	ー	◎	○	◎	ー
ハスカップ ……	◎	◎	◎	○	ー	ー	ー	◎	◎	○	◎	◎	◎	ー	ー	◎	◎		
ハナズオウ ……	◎	◎	○	○	◎	ー	◎	○	ー	◎	◎	ー	ー	ー	ー	◎	○		
ハナモモ ……	○	○	○	ー	ー	ー	○	ー	◎	○	◎	○	○	ー	○	◎	◎		
ハマナス ……	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	ー	◎	○	◎	◎	◎	ー	ー	◎	○	◎	ー

特　性 →	耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
ハマボウ ……	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	ー	ー	◎	◎	ー	ー	◎	ー	◎	○		
ヒメリンゴ ……	◎	○	○	○	ー	ー	○	ー	◎	○	◎	○	◎	ー	ー	◎	○		
ヒュウガミズキ	◎	◎	○	○	○	○	○	○	ー	◎	◎	ー	ー	○	ー	◎	◎	◎	ー
ブラックベリー	◎	◎	○	○	○	ー	ー	○	◎	○	◎	○	◎	ー	ー	◎	◎	◎	ー
ボケ ……	◎	○	○	◎	◎	○	○	○	◎	◎	◎	○	○	ー	ー	◎	○		
マルバノキ ……	◎	◎	○	○	ー	ー	◎	○	○	◎	○	ー	ー	◎	ー	◎	○		
ミツバツツジ …	○	◎	○	◎	ー	ー	ー	◎	○	◎	◎	ー	ー	○	ー	◎	◎		
ミヤギノハギ …	◎	◎	ー	◎	○	○	◎	○	◎	○	◎	ー	ー	○	ー	◎	◎	◎	ー
メギ ……	◎	◎	○	◎	◎	○	○	○	◎	○	◎	ー	○	◎	ー	◎	◎	◎	ー
モクマオウ ……	◎	◎	ー	◎	◎	◎	◎	ー	ー	◎	○	ー	ー	ー	◎	◎	○		
ヤマハギ ……	◎	◎	ー	◎	○	ー	◎	○	◎	◎	◎	ー	ー	○	ー	◎	◎	◎	ー
ラズベリー ……	○	◎	○	○	ー	ー	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	ー	ー	◎	◎	◎	ー
ロウバイ ……	◎	◎	○	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	ー	○	○	◎	◎		

■ 9-4-3　常緑針葉樹 13種

■ アスナロ（翌檜；明檜）

別名：アスヒ(翌日檜)、ヒバ、アテ(貴、阿天)
分類：ヒノキ科アスナロ属 / 常緑針葉高木
学名：Thujopsis dolabrata (L. f.) Siebold & Zucc.
見頃：葉＝周年
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	－	◎	－	－	◎	◎	○

アスナロはヒノキ(別項目)に似ているのに、木材がヒノキよりやや劣るため「明日はヒノキになろう」が由来とされています。これは古くは清少納言の「枕草子」から、松尾芭蕉の「笈日記」などにも記載されています。

しかしこの説は誤りで､他にもあるいくつかの説の一つに過ぎないとも言われます。材もヒノキに劣ることはないそうです。

アスナロの小枝はヒノキより幅広で、これが重なり合うことで遮蔽効果が高く、ヒノキよりずっと生け垣に適しています。

ただ､市場での流通がほとんどないので､現物を見て購入することが難しいというのが難点ですね｡通販サイトなら時々見かけるので､そちらから入手するのが良いでしょう。

栽培自体は楽で、病虫害もなく、ヒノキと同じように扱えます。

■ イヌガヤ（犬榧）

別名：ヘボガヤ、ヘダマ(屁玉)、ヒノキダマ(檜玉)
分類：イチイ科イヌガヤ属 / 常緑針葉小高木 / 雌雄異株
学名：Cephalotaxus harringtonia (Knight ex J.Forbes) K.Koch
見頃：葉＝周年 / 花＝3～4月 / 果実＝～翌年10月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	◎	－	○	○	◎	◎	◎	○	－	－	－	◎	○	○

イヌガヤは、最高級碁盤材にされるカヤ(榧: Torreya nucifera)に見かけがよく似ています。イヌガヤという名は、カヤと違って葉が柔らかいこととか、種子に苦味があって食べられない、などの違いから、この名がつけられたと言われています。

まれに庭木としているのを見ますが、切り込んでも芽吹きが良く、枝葉も密生するし、目立つ病害虫もないので、比較的栽培しやすい植物です。また、毎年剪定を繰り返している庭木でも、結実しているのを見掛けます。

生け垣や庭木としてもっと使って欲しい樹種の一つだと作者は考えています。しかし市場に出回ることがほとんどないので、現物を見る機会がないのが残念です。通販サイトでは時々見掛けるので、興味のある方は検索してみてください。

■ イヌマキ（犬槇）

別名: マキ、クサマキ(草槇)、ホンマキ(本槇)
分類：マキ科マキ属 / 常緑針葉高木 / 雌雄異株
学名：Podocarpus macrophyllus f. angustifolius (Blume) Pilg.
見頃：葉＝周年 / 花＝4～6月 / 果実＝8～12月
特性：

耐病虫害	病害少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	－	◎	◎	－	◎	－	◎	◎	◎

艶のある細長い葉が重なり合って独特の雰囲気を醸し出します。生け垣でも容易に実る果実の形が面白いです。果実は花托の部分が真っ赤を通り越して赤黒くなる頃には、甘さが増して美味しく食べられます。

イヌマキの生け垣を刈り込んだ後、芽が出て若葉が広がると、生け垣全体が淡緑色の葉に覆われて、ひときわ輝いて見えるので、年間を通じてもっとも美しい時期となります。
西日本では庭木や生け垣として、もっとも多く目にする樹種の一つです。

イヌマキの変種である「ラカンマキ(羅漢槇: Podocarpus macrophyllus f. macrophyllus)(別項目)」は、イヌマキより葉が小さくて緻密に仕上ることから、生け垣としてはイヌマキよりずっと優れています。

ミノムシ(*)に葉をかじられることがたまにありますが、その他には目立つ病害虫はありません。温帯照葉樹林を構成する主要樹種の一つなので、日本の気候に合っているため、関東以西なら栽培は容易です。

■ イブキ（伊吹）

別名：ビャクシン、イブキビャクシン、カマクライブキ
分類：ヒノキ科ビャクシン属 / 常緑針葉低木
学名：Juniperus chinensis var. chinensis L.
見頃：葉＝周年 / 花＝2～4月 / 果実＝～翌年10月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	ー	ー	ー	◎	◎

イブキの母種（Juniperus chinensis）は多型的で、高さが20メートルに達する高木から地を這う低木まで、葉も細かい鱗片葉から鋭いトゲ状の針葉までと、様々なタイプの変種があります。
ここでは庭木としてもっとも多く見られる、高さ数メートルで鱗片葉をつける低木を、生け垣に適する[狭義のイブキ]として説明します。

イブキはそれほど大きくはなりませんが、青緑色の細かい葉が密生した様子には、広葉樹とはまったく違う色あいや質感があり、独特の雰囲気が感じられます。

次項のカイヅカイブキでも同じことが言えるのですが、イブキ類では強く刈り込んだり枝を切り詰めたりすると、新しく出る葉が鋭い針状の針葉になることがよくあるので注意が必要です。
この針葉が出た枝は放置していても元の鱗片葉には戻らず、いつまでも針葉ばかり出続けるので、早めに枝の付け根から切除する必要があります。

この針葉を出さない手入れ法もありますが、刈り込むより数倍もの時間を必要とします。「6-2　鋏を使わない生け垣」で詳しく説明していますので、そちらも読んでみてください。

特に目につく病害虫はほとんどないし、寒さにも強く、刈り込み以外に手が掛からないので、栽培は容易です。

■ カイヅカイブキ（貝塚伊吹）

分類：ヒノキ科ビャクシン属 / 常緑針葉高木
学名：Juniperus chinensis 'Kaizuka'
見頃：葉＝周年 / 花＝2～4月 / 果実＝～翌年10月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	－	－	◎	○	◎

カイヅカイブキの葉は濃緑色で、独特の重厚な質感があります。特に西日本で生け垣に多く使われている樹種の一つです。生け垣に用いる場合、整形に刈り込むことは少なく、本来の性質を生かしてモコモコと起伏のある波形にすると美しく仕上がります。
特に目立つ病害虫もなく、丈夫で育てやすい植物です。

ただ、本種を含むイブキ類は、果物の「梨」に大きな被害をもたらす、赤星病菌の冬季中間宿主になるため、梨の産地では、イブキ類の植栽が条例で規制されている地域もあります。
冬に、ゼリー状でオレンジ色の物体が、カイヅカイブキの枝に付着しているのを見ることがありますが、その正体がこの赤星病菌なのです。見た目がやや気持ち良くないという以外に、本種への悪影響はありません。

ちなみに、作者の住んでいる所でも、カイヅカイブキが多く植えられているのですが、一部の梨の産地となっている地区では、本種の植栽を控えるようにと、役所から毎年、市報で注意喚起しています。

■ カマクラヒバ（鎌倉檜葉）

別名: チャボヒバ
分類：ヒノキ科ヒノキ属 / 常緑針葉小高木
学名：Chamaecyparis obtusa 'Breviramea'
見頃：葉＝周年
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	ー	○	ー	ー	○	◎	○

カマクラヒバはヒノキ(別項目)の園芸品種です。細かく扇状に分かれた小枝が緻密に重なり合う様子は、独特の質感と雰囲気を持っています。

ヒノキより枝葉が密生するので、生け垣としては遥かに上質の仕上がりが期待できます。

しかし生長が非常に遅いため、苗が高価であることとか、苗から生け垣に仕上がるまでの年月が長くかかることなどが最大の欠点です。

カマクラヒバには、葉に白や黄色の斑が入る品種もあります。これらを植えて庭の雰囲気を明るくすることもできます。

生長が遅いということを除けば、性質は丈夫で、目立つ病害虫もなく、栽培しやすい植物です。

■ コノテガシワ（児手柏）

別名：ワビャクダン
分類：ヒノキ科コノテガシワ属 / 常緑針葉小高木
学名：Platycladus orientalis（L.）Franco
見頃：葉＝周年 / 球果＝～秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	◎	○	○	－	○	◎	◎	○	○	－	○	－	◎	○

コノテガシワに見られる、あの独特の樹形は、垂直の平板状に小枝が重なり合って伸びることで生まれます。この樹形が好まれて、庭先の点景樹として植えられているのをよく見かけますね。

でも、この木は本来、高さ20メートルにも達する高木だということをご存じの方は少ないでしょう。本作者が実際に目にしたもっとも大きな自然樹形のコノテガシワは、二階建て住宅の大屋根に届くほど大きくなったものでした。

コノテガシワを生け垣に仕立てる場合、苗木のうちから刈り込みを繰り返すことで、将来的に美しい生け垣が出来上がります。
ただ、ヒノキ科の樹木としては萌芽力が強い方ではあるのですが、鋏を入れる位置は極力緑の部分を残すようにします。
参考「5-4-2　刈り込みの深さ」

もう一点。刈り込みを行うと、その後に出る芽の向きがてんでんばらばらになってしまうため、コノテガシワ特有の平板を重ねた樹形が失われてしまうこととなります。端正な樹形と刈り込みは両立出来ないという、二律背反の関係になるのです。

目立つ病害虫もなく育てやすい植物ですが、枝葉が密生すると内部が蒸れて、小枝や葉が枯れてしまいます。刈り込みをした後は、この枯れ枝を丁寧に取り除くと生け垣全体がすっきりします。

■ コメツガ（米栂）

別名：ヒメツガ、クロツガ
分類：マツ科ツガ属 / 常緑針葉高木
学名：Tsuga diversifolia (Maxim.) Mast.
見頃：葉＝周年
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	◎	○	－	○	○	◎	◎	－	－	－	－	◎	○	○

コメツガは葉が細かく萠芽力も強いので、刈り込むほどに枝葉が密生してきます。庭木としても生け垣としても一級品で、格調の高い仕上がりが得られます。土壌や気候への適応性が高いし、目立つ病害虫も特になく、栽培しやすい植物です。

唯一の難点は、市場へ出回ることがほとんどないので、苗の入手が困難なこと。そのため庭木としてはたまに見かけるのですが、生け垣に使われている例を、これまで見たことがありません。しかし作者としてはもっと生け垣としても使いたい、使って欲しい樹種の一つです。

■ ゴールドクレスト（goldcrest）

分類：ヒノキ科イトスギ属 / 常緑針葉高木
学名：Hesperocyparis macrocarpa 'Goldcrest'
　　= Cupressus macrocarpa 'Goldcrest'
見頃：葉＝周年
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	◎	○	◎	－	○	◎	◎	－	◎	－	－	◎	◎	◎

　ゴールドクレストは、カリフォルニア州沿岸を現産地とする、高さ40メートルにも達するモントレーイトスギ(Hesperocyparis macrocarpa)の、園芸品種の一つです。ゴールドクレストも独立木として植えると、それなりに大きくなります。コニファーの一種として、比較的早期に日本に導入されました。

　新芽が黄緑色になって美しいことや、樹形も端正な円錐形なので人気が高く、新築の庭でよく見かけます。
　ゴールドクレストを生け垣に仕立てると、黄緑色の葉が刈り込むほどにさらに緻密になって、とても美しく仕上がります。

　ゴールドクレストを含むコニファー類で共通することですが、養水分を吸収する細根が地表近くに張ることが多いので、夏場の高温乾燥に弱い傾向があります。特に苗木のうちは乾燥には特に弱いので、季節を問わず乾かさないことが重要です。
　この対策として、根元にバークチップを敷いたり、敷き藁をしたりして、夏には水やりも欠かさないようにしましょう。

　ただ、停滞水があるとすぐに根腐れをしてしまうので、基本的に排水よく植えて十分に水を与えることが重要です。
　目立つ病害虫もないし、一旦根付いてしまえば、とても丈夫で育てやすい植物です。

■ サワラ（椹）

分類：ヒノキ科ヒノキ属 / 常緑針葉高木
学名：Chamaecyparis pisifera (Siebold & Zucc.) Endl.
見頃：葉＝周年
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	○	○	○	◎	－	◎	○	－	○	－	－	◎	－	○

サワラの見た目はヒノキ(別項目)とよく似ているのですが､ヒノキより枝付きがやや粗く、鱗片葉の先端が尖っているため、触れるとチクチクします。移植にやや弱いので、植え付けにはポット苗を用います。

サワラは西日本ではほとんど見られません｡生け垣としてはむしろ東日本で多く使われている樹種です。

また、サワラの変種である「シノブヒバ」や斑入りの「黄金シノブヒバ」などが、サワラより生け垣に適しているでしょう。

■ スカイロケット（skyrocket）

分類：ヒノキ科ビャクシン属 / 常緑針葉小高木
学名：Juniperus virginiana 'Skyrocket'
見頃：葉＝周年
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	◎	○	○	－	○	◎	◎	－	◎	－	－	○	◎	◎

スカイロケットの母種は、鉛筆の原材料として知られている、北米原産のエンピツビャクシン(Juniperus virginiana)で、スカイロケットはその園芸品種の一つです。

ロケットが空高く突き進むように、幹や枝がすべて、垂直に上へ向かって伸びていくのが特徴です。その特異な樹形だけでなく、青白色の葉に覆われた様子も、広葉樹では見られない、独特の雰囲気を醸し出します。

苗を植えて、規定の高さに達したら、以後はその高さを一定に保つように切り揃えます。この時、刈り込み鋏で刈り揃えることはせず、剪定鋏で枝を切り、小さな穂先を残すようにすると、自然観が出て見栄えが良くなります。側面は原則的に、手入れをする必要はほとんどありません。

参考「6-1　剪定して仕立てる生け垣」

若木のうちは強風や積雪などで、枝が開いてしまうことがよくあるので、こういう場合は紐で枝を幹に引き寄せるようにします。

根が比較的浅く張るので、若木のうちは特に、しっかりした支柱が必須で、夏場の乾燥にも注意が必要です。他には特に目立つ病害虫もなく、育てやすい植物です。

■ スギ（杉）

分類：ヒノキ科スギ属 / 常緑針葉高木
学名：Cryptomeria japonica（L. f.）D.Don
見頃：葉＝周年 / 紅葉＝冬 / 花＝春
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	○	○	ー	○	◎	◎	◎

スギは元々日本原産なので、日本の気候に合っています。枝葉が細かく密生するため、遮蔽効果の高い、優秀な生け垣になります。
冬になると直射日光の当たる部分だけ、葉が焼けたように赤みを帯びてきますが、春に暖かくなると緑色に戻ります。

スギは春先の花粉症の元凶として、アレルギー持ちの方に嫌われていますが、毎年刈り込みをしていれば、スギの生け垣から花粉が飛ぶことはまずありません。
もしスギを植えたいけど、どうしても花粉が気になるという場合は、成木になっても花粉がほとんど出ない「北山杉」の系統を植えることをお勧めします。

害虫としては、夏にハダニ（*）の被害が多く見られます。他には気にする程の病害虫もなく、とても丈夫で育てやすい植物です。

■ ナギ（梛）

分類：マキ科ナギ属 / 常緑高木 / 雌雄異株
学名：Nageia nagi (Thunb.) Kuntze
　　= Podocarpus nagi (Thunb.) Makino
見頃：葉＝周年 / 花＝3～6月 / 果実＝～秋
特性：

耐病虫害	病虫害少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	－	◎	○	－	－	－	◎	○	◎

　ナギは植物学的には裸子植物のマキ科に属し、イヌマキ（別項目）に近い仲間で、以前はイヌマキと同じマキ属に含められていました。園芸的にはイヌマキと共に「コニファー」というグループに入ります。ただ、長楕円形の葉が着いているため、広葉樹だと勘違いする方もいますね。葉は濃緑色で厚みと光沢があり、独特の質感を持っています。

　ナギの性質はイヌマキとほぼ同様なので、イヌマキと同じように扱えます。庭木としてたまに見かけますが、刈り込みにも耐えるし、萌芽力もあるので、生け垣にも向いています。ただ市場流通量が少ないので、入手がやや難しいというのが難点でしょう。

　日本では神社のご神木として植えられていることが多く、天然記念物になるほどの大木も見られます。
　またナギには魔除けの効果があると、古くから信じられてきました。葉が縦には裂けても引きちぎれないほど丈夫なことから、縁結びや夫婦和合の御利益があるともいわれ、この葉を財布に入れてお守りとする風習もあります。

■ ヒノキ（檜；桧）

分類：ヒノキ科ヒノキ属 / 常緑針葉高木
学名：Chamaecyparis obtusa（Siebold & Zucc.）Endl.
見頃：葉＝周年
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	－	◎	－	－	◎	◎	○

ヒノキの仲間は細かい葉が重なり合うことで、独特の質感を見せてくれます。葉が細かいこともあり、刈り込みを繰り返すほどに、緻密で美しい一級品の生け垣に仕上がります。

ただこの仲間は、数年放置した後深く切り戻すと、その枝は二度と芽吹くことがなく、そのまま付け根まで枯れてしまいます。枯れた枝は腐れ落ちることがなく、長期間そのまま残ります。だから最低でも一年に一度は刈り込みをする必要があります。そして刈り込む時は、必ず緑の部分を残すようにしなければなりません。
ヒノキは日本の気候に合っていて、病害虫もほとんどなく、栽培しやすい植物です。

ヒノキは建築材として非常に優れています。とても丈夫で耐久性が高く、特有の芳香を発します。数百年も風雨にさらされた寺院の修理で、切り取った端材からもちゃんと香りが出ると言われます。

ヒノキ科の樹木はスギに次いで春先の花粉症の元凶となっています。しかし、生け垣としてきちんと手入れをしている限り、花が咲いて花粉が飛ぶようなことはほとんどありません。

■ ヒマラヤスギ

別名：ヒマラヤシーダ(Himalayan cedar)
分類：マツ科ヒマラヤスギ属 / 常緑針葉高木
学名：Cedrus deodara (Roxb. ex D.Don) G.Don
見頃：葉＝周年
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	○	－	◎	○	○	◎	○	◎	◎	－	◎	－	－	◎	○	◎

ヒマラヤスギは本来円錐形の端正な樹形で、高さが50メートルにも達する大木になるので、公園や広い庭園などに植えられる樹木です。この木は「世界三大庭園樹」の一つとされています。ちなみに他の2種はナンヨウスギ(Araucaria cunninghamii)とコウヤマキ(Sciadopitys verticillata)です。

このヒマラヤスギを生け垣として作り込むと、遠くから見ると風格のある格調高さを感じ、近寄ると緑白色の細い葉を密生した小枝が垂れて、柔らかな優美さを醸し出します。

作者はこれまでにヒマラヤスギの生け垣は、片手で数えるほどしか扱ったことがありませんが、生け垣としては一級品の仕上がりが得られます。刈り込みをした後、新芽が数センチメートル伸びた頃が、ヒマラヤスギの生け垣がもっとも美しく輝かしい時期となります。

ただ、ヒマラヤスギは枝や葉が傷付くと大量のヤニ(樹脂)が出るため、刈り込み直後から新しい芽が出て伸び出すまでの間、切り口が茶色に変色して見苦しくなるという欠点もあります。
またこのヤニが刈り込み鋏に粘着するため、すぐに切れ味が落ちてしまうことか、鋭い葉先でチクチク刺されることも相まって、植木屋泣かせの生け垣でもあります。

■ ラカンマキ（羅漢槇）

別名：マキ、クサマキ
分類：マキ科マキ属 / 常緑小高木 / 雌雄異株
学名：Podocarpus macrophyllus f. macrophyllus (Thunb.) Sweet
= Podocarpus macrophyllus var. maki Endl.
見頃：葉＝周年 / 花＝4～6月 / 果実＝8～12月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	－	◎	◎	－	◎	－	○	◎	◎

ラカンマキはイヌマキ(別項目)より、葉が小さくて密生するため、緻密に仕上ることから、生け垣としてはイヌマキよりずっと優れています。また、生け垣でもイヌマキと同じように、容易に果実が実るので、赤黒くなるまで措いておくと美味しく食べられます。

ラカンマキの生け垣を刈り込んだ後、芽が出て若葉が広がると、生け垣全体が白緑色の葉で覆われ、ひときわ輝いて見えるので、年間を通じてもっとも美しい時期となります。
西日本では近年生け垣として、需要が伸びている樹種の一つです。

一方で、ラカンマキはイヌマキより初期生長が遅いことから、苗の価格が高くつくとか、苗から生け垣に仕上がるまで長期間を要するというのが欠点と言えるでしょう。

ミノムシ(*)に葉をかじられることがたまにありますが、その他には目立つ病害虫はありません。日本の気候に合っているため栽培は容易です。

■ その他の常緑針葉樹 13種

特　性 →	耐病虫害 1	病害虫少 2	刈込み少 3	枝葉密生 4	耐公害 5	耐潮性 6	耐乾性 7	耐陰性 8	耐寒性 9	暖地向 10	花果実 11	芳香 12	食餌植物 13	紅葉 14	高生垣 15	低生垣 16	移植容易 17
アカマツ ……	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	◎	◎	○	○	ー	ー	◎	◎	◎
イチイ♀ ……	◎	◎	◎	○	ー	○	○	◎	◎	○	○	ー	◎	ー	◎	ー	ー
カヤ♀ ……	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	○	○	ー	ー	ー	◎	ー	ー
クロマツ ……	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	ー	◎	◎	○	○	ー	ー	◎	ー	○
コウヤマキ ……	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	ー	ー	ー	ー	◎	○	ー
シノブヒバ ……	◎	◎	○	○	○	○	◎	○	◎	◎	ー	○	ー	ー	○	◎	◎
タギョウショウ	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	ー	○	ー	ー	ー	◎	◎
チョウセンマキ	◎	◎	◎	○	○	ー	○	◎	○	◎	ー	ー	ー	ー	ー	◎	◎
ツガ ……	◎	◎	○	◎	ー	ー	○	◎	◎	○	ー	ー	ー	ー	◎	○	○
ニオイヒバ ……	◎	◎	○	◎	◎	ー	ー	○	◎	◎	ー	◎	ー	ー	◎	◎	◎
ヒムロ ……	◎	◎	○	◎	○	○	ー	○	◎	◎	ー	○	ー	ー	◎	○	◎
ヒメアスナロ …	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	ー	◎	ー	ー	ー	◎	◎
ビャクシン ……	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	ー	○	ー	ー	◎	○	○

★★★

★　しかし欧米の園芸界では、コニファーの範囲はもっと広くとらえられてい
★ るのです。針葉樹全体はもとより、その針葉樹より上位のカテゴリーとなる
★ 「裸子植物」の大部分をコニファーと呼んでいるのです。このため、日本で
★ はふつうコニファーとは呼ばないイヌマキとかイチョウなども、欧米ではコ
★ ニファーの仲間とされています。
★　実際に欧米で出版されているコニファーの専門書を見ると、イヌマキやイ
★ チョウはコニファーの重要な仲間として必ず収録されているのです。
★
★　ただ、同じ裸子植物でも、ソテツの仲間だけはコニファーとは別扱いとさ
★ れています。裸子植物とは植物学的には縁遠い、単子葉植物の「ヤシ類」と
★ 「ソテツ類」を併せて、「ヤシ・ソテツ類（Palms and Cycads)」という一つ
★ のグループにまとめているのです。
★　これはもちろん学術的な分類ではありません。「ヤシとソテツは形態や生態
★ が似ているので、栽培法や使用場面について同じように扱える」という園芸
★ 上の理由によって、実用的な分け方をしているということなのです。
★
★　コニファー（針葉樹）と広葉樹の見た目が異なる大きな特徴は、針葉と広
★ 葉という葉の違いだけではありません。広葉樹では常緑樹と落葉樹という二
★ つのグループに分けられ、それぞれに数多くの植物が存在します。本稿では
★ 常緑広葉樹が102種、落葉広葉樹も92種を収録しています。
★
★　しかしこれが針葉樹となると、ほとんどの種類が常緑性で、落葉性の針葉
★ 樹は例外的と言えるほど少ないのです。例えば本稿では、常緑針葉樹を27種
★ 取り上げています。でも落葉針葉樹といえば、たった3種しかないのです
★ (後述)。これら以外で作者が知っている落葉針葉樹といえば、ラクウショウ
★ (落羽松;Taxodium distichum)くらいしかありません。
★
★★★

■ 9-3-4　落葉針葉樹1種

■ カラマツ（唐松、落葉松）

別名：ニホンカラマツ、シンシュウカラマツ、フジマツ
分類：マツ科カラマツ属 / 落葉性針葉高木
学名：Larix kaempferi (Lamb.) Carriere
見頃：葉＝周年 / 黄葉＝秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害性	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	◎	－	◎	◎	－	◎	◎	－	○	－	◎	◎	◎	○

カラマツと言えば北海道と連想する方も多いでしょう。実はカラマツの自然分布は本州に限られているのです。北海道にあるカラマツはすべて明治以降に植林されたものなのです。

日本産の針葉樹の中では、カラマツが唯一の落葉樹です。春の瑞々しい新緑と落葉前の明るい黄葉が特に美しいです。淡緑色の細かな葉には特有の明るさと、優しく柔らかな雰囲気が感じられます。

一般的には寒冷地向きの樹木だと思われているでしょう。九州での栽培例を見聞きしたこともないのですが、作者が関西で扱った経験からいうと、九州でも十分栽培できると思われます。その他の地域でも、もっと生け垣や庭木に使って欲しい樹種の一つです。

落葉樹と常緑樹という違いがあり、全体の雰囲気も大きく異なりますが、栽培上はヒマラヤスギ(別項目)と同じように扱えるでしょう。

たまに毛虫による食害が見られますが、他に目立つ病害虫はありません。

■ その他の落葉針葉樹 2種

特　性 →	耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
イチョウ♀ ……◎	◎	ー	○	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	ー	○	◎	◎	○	◎
メタセコイア …◎	◎	ー	◎	◎	ー	○	ー	◎	◎	ー	ー	ー	◎	◎	ー	◎

★★★

■ 4-3-5　単子葉植物 2種

■ オカメザサ（阿亀笹）

別名: ブンゴザサ(豊後笹)、ゴマイザサ(五枚笹)、カグラザサ(神楽笹)
分類：イネ科タケ亜科オカメザサ属
学名：Shibataea kumasaca (Zoll. ex Steud.) Makino
見頃：葉＝周年 / たけのこ＝春
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	◎	○	－	－	◎	－	◎	－	－	－	－	－	◎	◎

オカメザサは名前通り見た目も笹のように見えますが、じつは笹でなく竹の仲間なのです。日本産ではもっとも小さな竹です。
一節ごとに5枚の葉が扇状に広がって、独特の雰囲気を漂わせます。高さは最大でも１メートル程度まで。和風・洋風どちらの庭にもよくマッチし、きちんと行き届いた手入れを行うと、端正で気品のある風情が出ます。

オカメザサは地下茎で拡がるため、栽培する場合は根域を制限する必要があります。そのため、植栽前にあらかじめコンクリートやブロックなどで枠を用意しておき、その中に植え込むこととなります。

新芽（たけのこ）が伸びきった頃を見計らって、一定の高さに刈り揃えることで、その後開く葉が切れることもなく、全体が美しく揃います。
夏に乾燥すると、葉先が枯れてしまうことがよくあるので、水管理には注意が必要です。
その他には、特に目立つ病害虫もなく、比較的栽培しやすい植物です。

■ ホウオウチク（鳳凰竹）

別名: ホウビチク（鳳尾竹））
分類：イネ科タケ亜科ホウライチク属
学名：Bambusa multiplex var. elegans (Koidz.) Muroi
見頃：葉＝周年 / たけのこ＝初夏～秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	○	◎	○	－	○	◎	－	◎	－	－	－	－	○	◎	◎

ホウオウチクは、ホウライチク(蓬莱竹; Bambusa multiplex)の変種で、枝葉が母種より小形になるタイプです。母種のホウライチクと同じように、地下茎が伸びず株立ちになるのが特徴で、竹の仲間ではバンブー(bamboo)と呼ばれるグループに属しています。葉が細かいため、生け垣にすると女性的というか、柔らかく優美な感じに仕上がります。

また本種は大きな特徴として、「強い刈り込みに耐える」という、竹類では珍しい性質があるため、美しい生け垣が出来上がる、というのが最大のウリです。
夏以降に出るタケノコが伸びきった頃に、一定の高さで切り詰めることによって、葉を傷つけることなく高さを揃えることができます。

夏に乾燥が続くと、葉先が白く枯れることがありますから、夏場の水管理には気を付けなければいけません。
また本種の母種であるホウライチクは、本来熱帯性の植物なので、寒さにも弱い傾向があって、冬に０℃前後の低温と乾燥が続くと、やはり葉先から枯れが進行し美観を損ないます。
この低温と乾燥さえ避けられれば、とても丈夫で育てやすい植物です。

たまにミノムシ(*)に葉を食べられることもありますが、その他には目立つ病害虫もなく、関東以西なら手もかからず栽培し易いです。

■ その他の単子葉植物 13種

特　性 →	耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
アスパラガス♀	◎	◎	○	◎	○	ー	◎	○	◎	◎	○	○	○	ー	ー	◎	○	◎	ー
カンチク ……◎	◎	○	○	○	ー	ー	◎	◎	◎	ー	ー	ー	ー	ー	◎	◎			
クマザサ ……◎	◎	○	◎	◎	◎	ー	◎	◎	◎	ー	ー	ー	ー	ー	◎	○			
クロチク ……◎	◎	◎	○	○	○	ー	○	○	○	◎	ー	ー	ー	ー	○	◎	◎		
クロツグ ……◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ー	◎	◎	◎	◎	ー	○	◎	○		
コクマザサ ……◎	◎	◎	◎	◎	○	○	ー	◎	◎	◎	ー	ー	ー	ー	ー	◎	○		
シホウチク ……◎	◎	◎	○	○	○	ー	○	ー	○	◎	ー	ー	ー	ー	○	◎	◎		
シュロチク ……◎	◎	◎	○	○	○	ー	○	◎	ー	◎	ー	ー	ー	ー	ー	◎	◎		
チゴザサ ……◎	◎	◎	◎	◎	○	○	ー	◎	◎	◎	ー	ー	ー	ー	ー	◎	○		
ナリヒラダケ …◎	◎	○	◎	○	○	○	ー	◎	○	◎	ー	ー	ー	ー	◎	◎	◎		
ハチク ……◎	◎	○	ー	○	○	○	○	ー	○	◎	ー	ー	ー	ー	◎	ー	○		
ホウライチク …◎	◎	ー	◎	○	○	○	○	◎	ー	◎	ー	ー	ー	ー	◎	○	◎		
ミヤコザサ ……◎	◎	◎	◎	◎	○	○	ー	○	○	◎	ー	ー	ー	ー	ー	◎	○		

■ 9-3-6　常緑つる植物10種

「つる垣」や「壁面緑化」で使うのに適しているつる植物を、次節「9-3-7　落葉つる植物」と併せて、ここにご紹介します。

■ アイビー（ivy）

和名: セイヨウキヅタ(西洋木蔦)
分類：ウコギ科キヅタ属 / 常緑木質つる植物 / 雌雄異株
学名：Hedera helix L.
見頃：葉＝周年 / 花＝晩夏～晩秋 / 果実＝晩冬
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	－	◎	○	－	－	◎	◎	◎

アイビーは洋風庭園には欠かせないアイテムとなっているつる植物です。葉の大きさ・形状・斑入りなどによって、数多くの品種があります。

アイビーはつるをフェンスに絡ませるのに適していますが、気根の出やすい品種であれば、垂直面を自力で這い登れるので、壁面や石垣を覆うのにも向いています。

暑さ寒さに強く、病害虫もほとんどないので、丈夫で育てやすい植物です。

■ オオイタビ（大木蓮子、大崖石榴）

別名: フィカス・プミラ
分類：クワ科イチジク属 / 常緑木質つる植物 / 雌雄異株
学名：Ficus pumila L.
見頃：葉＝周年 / 花＝晩夏～秋 / 果実＝晩冬
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害性	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	－	◎	○	－	－	○	－	－	◎	○	◎

オオイタビという耳慣れない名前のこの植物、じつは観葉植物としてヘゴ付けの鉢植えで販売されている、「フィカス・プミラ」そのものなのです。学名を見ればお分かりいただけるでしょう。

つるから気根を出すので、石垣や壁面を這い登らせることができます。九州南部では岩壁や大木の幹を覆うようによじ登っているのを見かけたりもします。
観葉植物としては小さな縮れた葉しか見られませんが、生長してつるが太くなってくると、大きな葉が出てきます。

雌株には緑紫色で鶏卵大の果実がつきますが、遠目だと葉に紛れてしまうため、その気になって探さないと見分けがつきません。作者はブロック塀を覆っている株で結実しているのを見たことがあります。

栽培は容易です。伸び過ぎたつるを切り詰めたり、枯れ落ちた葉を掃除する程度で、管理の手間がほとんどいらず、目立つ病害虫もありません。

■ キヅタ（木蔦）

別名: フユヅタ(冬蔦)、オニヅタ(鬼蔦)
分類：ウコギ科キヅタ属 / 常緑木質つる植物 / 雌雄異株
学名：Hedera rhombea (Miq.) Bean
見頃：葉＝周年 / 花＝10～11月 / 果実＝春
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	－	○	－	－	－	◎	○	◎

キヅタはアイビー(別項目)と近縁で、兄弟と言えるほどの近い関係です。落葉性のツタ(別項目)と違って常緑なので、冬でも緑色を保ちます。

気根を出して他物によじ登るので、西日本では大木の幹を覆うように絡み付いているのをあちこちで見掛けます。

濃緑色の葉が壁面を覆うと重厚な雰囲気が出ます。

目立つ病害虫もなく、日本の気候に合っているので、栽培しやすい植物です。

■ サネカズラ（実葛）

別名:ビナンカズラ（美男葛）
分類：マツブサ科サネカズラ属 / 半常緑木質つる植物 / 雌雄異株
学名：Kadsura japonica（L.）Dunal
見頃：葉＝周年 / 花＝7～8月 / 果実＝秋～晩秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	－	◎	◎	－	○	－	－	－	◎	◎	－

サネカズラの枝葉から出る粘液を整髪料として用いたことから「美男葛」という別名がついています。また、茎葉や果実は生薬として利用されることもあります。

サネカズラの一番の見どころは、なんといっても奇妙な形の果実でしょう。この真っ赤な果実が秋の日を受けてつるからぶら下がっている様子は、道行く人の目を引くこと間違いなし。

それから、やや多肉質で大きく柔らかい葉も、日光を受けて一年中輝いています。ただし寒さに遭うと落葉することもあります。

つる植物なのに巻き付き性が弱いので、フェンスなどに絡ませたり縛り付けたりなどの手間が必要となります。

適地であれば病害虫もなく栽培しやすい植物です。しかしサネカズラは雌雄異株なので、果実を見るためには、雄株と雌株の両方を植える必要があります。

■ スイカズラ（吸い葛、吸葛）

別名；ニンドウ(忍冬)、キンギンカ(金銀花)
分類：スイカズラ科スイカズラ属 / 半常緑木質つる植物
学名：Lonicera japonica Thunb.
見頃：葉＝周年 / 花＝初夏
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	◎	◎	◎	◎	ー	○	◎	◎	◎	◎	○	ー	ー	ー	◎	◎	ー

幼い頃､スイカズラの花を採って蜜を吸ったことのある方も多いのではないでしょうか。このことから「吸い葛」という名がつけられたといわれています。
花が咲くと次第に白から黄色へと変化することから｢金銀花｣という別名もついています。

キンモクセイ(別項目)の強い香りを嫌う人はたまにいらっしゃいますが､ひたすら甘く癖のないスイカズラの香りを嫌う人はほとんどいないでしょう。

スイカズラはつる性ですが、巻き付き性が弱いため、他の低木に覆い被さるように生長する、いわゆるマント群落を形成するのが特徴です。

日本の風土に合っているため、とても作りやすい植物です。しかし上にも書いたように巻き付き性が弱いので、栽培に当たっては、フェンスに潜らせたり縛り付けたりする手間が必要になります。

■ テイカカズラ（定家葛）

別名：マサキノカズラ(真拆の葛)
分類：キョウチクトウ科テイカカズラ属 / 常緑木質つる植物 / 有毒植物
学名：Trachelospermum asiaticum (Siebold et Zucc.) Nakai
見頃：葉＝周年 / 花＝5～6月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	－	○	－	－	◎	◎	◎

藤原定家が愛していた式子内親王、二人の死後も彼女を忘れられず、定家葛に生まれ変わって彼女の墓に絡みついた、という伝説から名付けられました。

濃緑色の葉が日差しを受けるとキラキラ輝いて、特有の風合いが感じられます。また、初夏に５弁で香りの良い花が咲く様子も可愛らしいですね。

茎は気根を出しながら他物によじ登っていくので、壁面緑化にも向いています。目立つ病害虫もなく、手入れも伸び過ぎた枝を切り詰める程度なので、とても栽培しやすい植物です。

ただ、葉や茎を傷付けると出てくる白い乳液は有毒で、肌の弱い人はかぶれることもあります。手入れをする時は樹液が肌や衣服に付かないよう気を付けましょう。
葉に白い斑が入る「ハツユキカズラ」という品種もあり、これを用いるとテイカカズラより明るく華やかな雰囲気を出せます。

■ トケイソウ（時計草）

別名：パッションフラワー(passion flower)
分類：トケイソウ科トケイソウ属 / 常緑木質つる植物
学名：Passiflora caerulea L.
見頃：葉＝周年 / 花＝夏～初秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	○	◎	○	－	○	○	－	◎	◎	○	◎	－	－	－	◎	◎	－

パッションフラワーという名称やエキゾチックな花形などから、一般的に「情熱の花」として知られていますが、じつはこれは誤解で、passion のもう一つの意味である「キリストの受難」が名前の由来となっているのです。
南米に渡ったカトリック宣教師が現地の人々を教化する際に、トケイソウの花や葉を例に挙げて、キリストが人々の罪を自ら負って十字架に架かったことを説明したことが始まりとされています。

トケイソウの仲間は500種以上もある大きなグループですが、そのすべてが熱帯性です。その中でも比較的低温に耐える種類の一つが本種です。
とはいっても熱帯植物であることには変わりないので、冬に霜が降りるような所で露地栽培していると、どうしても枯死率が高くなります。

つるを自由に伸ばして大きく育てると、茎も太くなり沢山の花を楽しめます。作者がこれまでに見た最大の株は、幹が根元付近で直径15センチメートルくらいもあり、幅約10メートル高さ約３メートルの大きなフェンス全体に絡ませたものでした。
夏から秋にかけて、毎日数100個もの時計が一面に、いや両面に咲き誇っている様子は、じつに壮観と呼ぶにふさわしいものでした。

■ ハゴロモジャスミン（羽衣素馨）

別名：ジャスミン(jasmine)、ホシソケイ
分類：モクセイ科ソケイ属 / 常緑木質つる植物
学名：Jasminum polyanthum Franch.
見頃：葉＝周年 / 花＝5月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	◎	◎	－	－	○	○	－	◎	◎	◎	○	－	－	－	◎	◎	－

ハゴロモジャスミンは小鉢で開花したものが早春に出回っているのをよく見かけます。しかしこれを庭先に植えた場合の開花時期は5月頃となります。日当たりの良い場所だと株全体が花で覆われるほど沢山咲き、さらにその圧倒的な芳香の強さのせいで、辟易する人もいるほどです。バラと並んで、初夏に香る花の代表格と言えるでしょう。

ある程度樹勢が強くなってくると、株元から出たひこばえが地表を這い伸び、さらにその節々から根を下ろして新たな子株を生じたり、他物に絡みついてよじ登ったりすることがよく見られます。
こうなるまで放っておくと始末に負えなくなるので、地面を這うつるは早めに上向きに誘引する必要があります。他には伸び過ぎたつるを切り詰めるくらいの手間しか必要なく、とても栽培しやすい優秀な花木です。

ジャスミン茶(茉莉花茶)の原料とされるのは、本種と同じ仲間のマツリカ(茉莉花; Jasminum sambac)の花ですが、ハゴロモジャスミンの花でも、乾燥して同じようにジャスミン茶として利用できます。

■ ムベ（郁子）

別名：トキワアケビ、ウベ
分類：アケビ科ムベ属 / 常緑木質つる植物
学名：Stauntonia hexaphylla（Thunb.）Decne.
見頃：葉＝周年 / 花＝4～5月 / 果実＝9～10月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	○	◎	○	○	○	◎	－	◎	◎	◎	◎	－	－	－	○	◎	－

野生ではアケビ(別項目)より見かけることが少ないのですが､栽培されているものなら時々見ます。見た目はアケビとよく似ています。アケビとの違いは、常緑であること、葉質が厚いこと、果実がやや小さく、熟しても裂開しないことなどです。

果実はアケビと同じく激甘ですが、種子と果肉が離れないので、アケビよりさらに食べにくいです。
アケビと一緒に植えることで、両者の実付きが良くなります。

■ モッコウバラ（木香茨、木香薔薇）

分類：バラ科バラ属 / 常緑木質つる植物
学名：Rosa banksiae W.T.Aiton
見頃：葉＝周年 / 花＝初夏
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	○	◎	○	－	○	○	－	◎	◎	○	○	－	－	－	◎	◎	－

バラの仲間では珍しく、トゲがまったく無いというのがモッコウバラの最大の特徴です。茎が細く緑色で葉も小さいので、一見ひ弱そうにも見えるのですが、意外と丈夫で病害虫にも強いので、とても育てやすい植物です。

あちこちで見られる黄花の種類は花付きが良いので、開花時は見応えがありますが、香りが無く一期咲きというのが残念なところ。ただし、黄花でも一重咲きのものとか、白花のモッコウバラは香ります。しかしこれらは黄花八重咲き種より花数が少ない傾向があります。

モッコウバラは翌年咲くための花芽が8月には出来上がっているので、夏以降に枝を切ると、それだけ翌年の花が少なくなります。もし枝を切る必要がある場合は、花が咲き終わった直後にしましょう。

■ その他の常緑つる植物 18種

特　性 →	耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
アサヒカズラ …	◎	◎	◎	◎	ー	ー	○	○	ー	◎	◎	ー	ー	ー	ー	ー	◎	◎	ー
イタビカズラ♀	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ー	◎	○	ー	ー	○	ー	ー	◎	◎	◎
カロライナ ジャスミン	◎	◎	○	◎	ー	ー	○	○	ー	◎	◎	○	ー	ー	ー	ー	○	◎	ー
シラタマカズラ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	ー	◎	◎	ー	◎	ー	ー	ー	◎	○	◎
ソケイ ……	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	ー	◎	◎	◎	ー	ー	ー	ー	○	◎	ー
ソケイノウゼン	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	ー	◎	◎	ー	○	ー	ー	ー	◎	◎	ー
ツキヌキ ニンドウ	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	◎	◎	○	ー	ー	ー	ー	○	◎	ー
ツリガネカズラ	◎	◎	○	◎	○	○	○	○	ー	◎	◎	ー	○	ー	ー	ー	◎	◎	◎
ツルグミ ……	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	○	◎	ー	ー	○	ー	◎	ー
ツル ニチニチソウ	◎	◎	○	◎	○	◎	○	○	◎	○	◎	ー	ー	ー	ー	ー	◎	○	◎
ツルマサキ ……	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	ー	○	ー	ー	ー	◎	○	◎
ナスタチウム …	○	◎	◎	ー	ー	ー	○	◎	ー	◎	◎	◎	ー	ー	ー	ー	◎	◎	ー
ナニワイバラ …	◎	◎	○	◎	○	ー	○	○	ー	◎	◎	◎	○	ー	ー	ー	◎	◎	ー
ハーデン ベルギア	◎	◎	○	◎	ー	○	◎	ー	ー	◎	◎	ー	ー	ー	ー	○	○	◎	ー
ハトヤバラ ……	◎	◎	○	◎	○	ー	○	○	ー	◎	◎	○	ー	◎	ー	ー	◎	◎	ー
ヒメイタビ♀ …	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	ー	◎	○	ー	ー	ー	ー	ー	◎	○	◎
ブーゲンビレア	◎	◎	ー	◎	○	ー	○	ー	ー	◎	◎	ー	ー	ー	ー	◎	◎	◎	ー
フユイチゴ ……	◎	◎	◎	○	○	ー	○	◎	ー	◎	◎	◎	◎	○	ー	ー	◎	◎	ー

■ 9-3-7　落葉つる植物 9種

■ アケビ（木通、通草、山女、丁翁）

分類：アケビ科アケビ属 / 落葉性木質つる植物
学名：Akebia quinata (Houtt.) Decne.
見頃：葉＝春～秋 / 花＝4～5月 / 果実＝9～10月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	－	－	－	○	◎	－

雑木林に行くと、木に絡まっているアケビをよく見かけます。つるは左巻き（進行方向に向かって反時計回りに伸びていく）。楕円形の薄い葉を5枚ずつつける様子は独特の優しい雰囲気が感じられます。

秋の果物としてはもっとも甘味の強い部類と言えるでしょう。食べられるのは黒い種子の周りにある白い果肉だけで、種子が邪魔になって食べ辛いことこの上なし。それでも雑木林に入ってアケビの実を見つけた時は、嬉しくて自然に顔がほころんでしまいます。

アケビは授粉しても自家不和合性が強くて結実しにくいのが難点です。そのためアケビと交雑しやすいミツバアケビ(Akebia trifoliata)を一緒に植えると確実に結実させることができます。
この果実自体はアケビそのものですが、中の種子は当然ながら両者の雑種となります。またミツバアケビ自体の果実も美味しいです。

■ キウイフルーツ (kiwi fruit)

和名：オニマタタビ(鬼木天蓼)
別名：シナサルナシ(支那猿梨)、トウサルナシ、シナスグリ、キウイ(kiwi)、
　　キーウィー、キーウィ、キウィ
分類：マタタビ科マタタビ属 / 落葉性木質つる植物 / 雌雄異株
学名：Actinidia chinensis Planch.
　　= Actinidia deliciosa (A.Chev.) C.F.Liang & A.R.Ferguson
見頃：葉＝春～秋 / 花＝初夏 / 果実＝10～11月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	－	◎	◎	－	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	－	－	－	○	◎	－

　キウイの本来の原産地は中国南部なのですが、これがニュージーランドに渡って品種改良され、現在では果樹として世界的に普及しています。
　kiwi fruitという名前は、ニュージーランドから米国に初めて果実を輸出する時に、ニュージーランドの国鳥である「キーウイ(kiwi)の名前にちなんで」輸出業者が命名したものです。「鳥のキーウイと似ていることから」この名が付けられた、という説は間違いです。

　秋に落葉した後も長い間、毛むくじゃらの果実がぶら下がっている様子はユーモラスな感じもあります。生長力が旺盛でつるが長く伸びるので、一株でも広い面積をカバーできます。
　大きく丸い葉に茶色の毛が密生している様子が地味に見えるせいか、全体的な印象としてやや品位に欠ける点が惜しいところ。
　また雌雄異株なので、果実の収穫を楽しむためには雌株と雄株を一緒に植える必要があります。

　キウイは食物アレルギーの原因となることもありますから、アレルギー持ちの方は特に注意が必要です。
　それから、キウイはマタタビ(Actinidia polygama)と近縁なので、苗木が猫の被害に遭うこともあります。

■ センニンソウ（仙人草）

分類：キンポウゲ科センニンソウ属 / 落葉性木質つる植物 / 有毒植物
学名：Clematis terniflora DC.
見頃：葉＝春～秋 / 花＝晩夏 / 果実＝秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
○	◎	◎	○	○	－	○	－	◎	◎	◎	－	－	－	－	－	◎	◎	－

雑木林の外れで日当たりの良い場所に、低木の樹冠を覆い尽くしたセンニンソウの花が、白いベールを掛けた花嫁を思わせるように、その一角だけが明るく輝いて見えます（作者の実体験）。十文字に開いた純白の花が群れ咲く様子は、厳しい残暑を感じさせない清々しさを漂わせます。

また、果実に着いた綿毛を仙人の髭になぞらえて、センニンソウという名が付けられました。

センニンソウのつるはまっすぐに伸びて、巻き付くことはほとんどないのですが、その代わり細長い葉柄が、木の枝などにくるくると巻き付いて上へ上へとよじ登る、という性質を持っています。フェンスや金網に絡ませるのに最適です。

センニンソウは大きく美しい花が咲くクレマチス（clematis）と同じ仲間なのですが、日本原産なのでクレマチスより丈夫で病害虫もなく、とても栽培しやすい植物です。

■ ツタ（蔦）

別名: ナツヅタ(夏蔦)、アマズラ、アマヅラ、モミジヅタ
分類：ブドウ科ツタ属 / 落葉性木質つる植物
学名：Parthenocissus tricuspidata (Siebold et Zucc.) Planch.
見頃：葉＝春～秋 / 紅葉＝秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	－	○	◎	－	－	◎	○	◎

ペギー葉山による往年の名曲「学生時代」の冒頭で歌われている植物が本種です。歌詞にあるチャペルとは、青山学院大学構内にある礼拝堂のことです。
また、阪神甲子園球場の壁面に絡んでいるツタも有名ですね。

ツタは巻きひげの先端が吸盤になっていて、壁面を自力で這い登ることができます。春の若葉と秋の真っ赤な紅葉が特に美しいです。反面、落葉性なので冬季に見栄えが悪くなるのが最大の弱点です。
特に目立つ病害虫もなく、手をかける必要もなく、丈夫で作りやすい植物です。

■ ツルバラ（蔓薔薇）

分類：バラ科バラ属 / 落葉性木質つる植物
学名：Rosa spp.
見頃：葉＝春～秋 / 花＝初夏
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	○	－	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	○	－	－	－	◎	◎	－

「綺麗な花にはトゲがある」とよく言われますが、その代表格がバラの花ですね。

ツルバラは花形・花色・つるの長短強弱など、バリエーションが非常に多いので、自分の好みに合った品種を選べます。ツルバラは品種にもよりますが、バラ全体から見ると、総じて性質が丈夫で作りやすい部類です。

黒点病・ウドンコ病(*)やバラクキバチ・チュウレンジバチなどに注意が必要です。これらの病害虫に侵されてもバラが枯れるようなことは滅多にありませんが、一旦被害に遭うと著しく美観を損なっのは当然として、花が咲かなくなることも多いので、きちんと対応しなければなりません。

■ ノウゼンカズラ（凌霄花）

別名：ノウゼン、ノショウ、ノウゼンカツラ
分類：ノウゼンカズラ科ノウゼンカズラ属 / 落葉性木質つる植物 / 有毒植物
学名：Campsis grandiflora (Thunb.) K.Schum.
見頃：葉＝春～秋 / 花＝夏
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	○	○	○	○	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	－	－	－	◎	◎	◎

強い日差しを浴びて濃いオレンジ色に咲くノウゼンカズラの花を見ると、猛暑を跳ね返しているような力強さを感じます。花は大量に蜜を出すので、蜂がよく訪れます。また人の気配が少ない場所だと、メジロなどの小鳥が蜜を吸いに来ることもあります。

生長が非常に旺盛です。幹から気根を出して他物や壁面をよじ登ります。また地下茎を伸ばして思わぬ所から芽を出すこともよくあります。実際に作者は、株元から２メートルも離れた所から子株が芽を出していたのを見ています。

成木になると、春から夏に伸びた枝の先端に花をつけるようになるので、剪定するのは冬期に一回だけ行います。ただし、ひょろひょろと長く伸びた枝は、随時切り詰めても構いません。
一度植え付けると、剪定以外に手をかける必要がないと思えるほど、手のかからない優秀な花木です。

「ノウゼンカズラの花を触った手で目をこすると失明する」というような迷信が古くから信じられており、1970年代以前の古い植物図鑑でも、本種は有毒だと書かれているものがあります。しかしノウゼンカズラでの中毒例はこれまで一切記録がなく、現在では本種は無毒であるとされています。
ただ、本種にはラパコール(lapachol)という物質が含まれ、これには弱い毒性があって、かぶれたり、目に入ると炎症を起こす恐れがある、という記載もありますが、詳細は不明です。

■ フジ（藤）

別名：ノダフジ(野田藤)
分類：マメ科マメ亜科フジ属 / 落葉性木質つる植物
学名：Wisteria floribunda (Willd.) DC.
見頃：葉＝春～秋 / 花＝初夏
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害性	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	◎	－	◎	○	○	○	○	◎	◎	◎	－	－	○	－	－	◎	◎	－

フジのつるは右巻きです(進行方向に向かって時計回りに伸びていく)。陽当たりの良い所ほど沢山の花を咲かせるとか、花の観賞や緑陰に最適だとかの理由から、藤棚やトンネルを設置することが広く行われており、フジの名所が全国各地にあります。

しかし本作者は、この藤棚からさらに発想を拡げて、フジを垂直のフェンスに絡ませて花を観賞するのもありではないかと考えるのです。
各地にある藤棚を見ると判るように、フジは１本植えるだけで広い面積をカバーできます。特に目につく病害虫もなく作りやすい植物です。

藤にまつわる作者の思い出。
数十年前のこと、仕事先のすぐ近くにあった雑木林の外れに、高さが20メートルはあろうかというクヌギの大木が立っていました。その大木の樹冠全体にフジの太いつるが絡んでいて、薄紫の花をたわわに下げていたのです。

藤の薄紫とクヌギの若葉の色が、日光を受けて微妙に溶け合い、遠目には、まるでクヌギに紫の薄絹を掛け渡したような幻想的な雰囲気でした。この時の光景は作者の脳裏にくっきりと焼き付いていて、藤の花を見るたび必ずこの時の情景が記憶の底から甦ってきます。

■ ブドウ（葡萄）

分類：ブドウ科ブドウ属 / 落葉性木質つる植物
学名：Vitis cvs.
見頃：葉＝春～秋 / 果実＝秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	○	－	○	－	－	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	－	○	◎	◎	－

ブドウは言わずと知れた秋を代表する果物の一つです。またワインの原料としても知られていますね。ワインを醸造する場合はふつう、ワイン専用の品種が使われますが、生食用の品種でもワインを造ることは可能です。ただし、たとえ家庭用であるとしても、ワインや果実酒を造ることは酒税法違反となりますから注意しましょう。

果物としてのブドウ品種は沢山ありますが、家庭でブドウを栽培し、収穫まで楽しめるように育てるのは、気候的な要因とか病虫害管理の難しさとかもあるので、家庭果樹としてはそこそこ難易度の高い部類といえるでしょう。まあ園芸家からすると、それだけチャレンジのしがいがあるとも言えますが。

■ ヤマブドウ（山葡萄）

分類：ブドウ科ブドウ属 / 落葉性木質つる植物 / 雌雄異株
学名：Vitis coignetiae Pulliat ex Planch.
見頃：葉＝春～秋 / 果実＝秋
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害性	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
◎	○	－	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	－	－	◎	◎	－

ヤマブドウは巻きひげが他物に絡みついてよじ登ります。果実は生食したり、上質の果実酒にもできるのですが、酒税法ではヤマブドウはブドウとみなされているため、果実酒を造ることは、たとえ家庭用であっても、酒税法違反となります。

ヤマブドウは秋の紅葉が特に美しく、crimson glory vine という英名もあります。果実はブドウより小さいものの、性質が強く日本の気候にも合っているので、栽培種のブドウよりはるかに作りやすいのが特徴です。

生長が旺盛なので、1本植えるだけでフェンスの広い範囲をカバーできます。ただ、ブドウと違ってヤマブドウは雌雄異株なので、果実の収穫を楽しむためには雄株と雌株の両方を植える必要があります。
また近年、果房が大きく甘味も強い優良品種も多く出回っています。

■ その他の落葉つる植物 15種

特　性 →	耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易	フェンス	壁面
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
イワガラミ ……	◎	◎	◎	◎	○	－	○	○	◎	○	○	－	○	－	－	－	○	◎	◎
カザグルマ ……	○	◎	◎	◎	○	○	－	－	－	◎	◎	－	－	－	－	－	◎	◎	－
キイチゴ ……	◎	◎	○	－	○	－	－	－	◎	◎	◎	◎	◎	－	－	◎	◎	◎	－
クレマチス ……	○	◎	◎	○	○	－	○	－	－	◎	◎	－	－	－	－	－	◎	◎	－
サルトリイバラ♀	◎	◎	◎	－	○	◎	◎	－	◎	◎	◎	－	◎	○	－	－	○	◎	－
サルナシ♀ ……	◎	◎	－	◎	○	－	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	－	－	－	○	◎	－
ツルアジサイ …	◎	○	○	－	－	－	－	◎	◎	◎	◎	－	－	－	－	－	◎	◎	◎
ツルウメモドキ	◎	◎	○	◎	○	○	◎	○	◎	◎	◎	－	○	－	－	－	◎	◎	－
テッセン ……	○	◎	○	○	○	○	－	－	－	◎	◎	－	－	－	－	－	◎	◎	－
テリハノイバラ	◎	◎	－	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	○	－	－	－	◎	◎	－
ナツユキカズラ	◎	○	○	◎	○	－	◎	○	○	◎	◎	－	○	－	－	－	◎	◎	○
マタタビ♀ ……	◎	◎	○	○	○	－	－	◎	◎	◎	◎	◎	◎	－	－	－	○	◎	－
ミツバアケビ …	◎	◎	◎	○	－	－	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	－	－	－	－	◎	－
モミジイチゴ …	◎	◎	○	－	○	－	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	－	－	◎	◎	◎	－
レイケステリア	◎	◎	◎	－	－	－	○	◎	◎	○	◎	○	◎	－	－	◎	○	◎	－

■ 9-4　生け垣に使ってはいけない植物 4種

「生け垣に使ってはいけない」とは、いささかきつい言い方になるかも知れませんね。本章では生け垣に推奨される植物として、数多くの樹木を紹介していますが、その中には有毒植物もいくつか取り上げています。

絶対に使ってはいけない、とまでは言えない面もあるのですが、生け垣として優れた性質を備えてはいるものの、毒性が特に強いとか、小さなお子さんが誤って、有毒な果実を食べてしまう可能性が高いなどの理由から、生け垣として使うにはお勧め出来ない、使わない方が良いと思われる植物をここに取り上げました。

■ キャラボク（伽羅木）

分類：イチイ科イチイ属 / 常緑低木 / 雌雄異株 / 有毒植物
学名：Taxus cuspidata var. nana Hort. ex Rehder
見頃：葉＝周年 / 果実＝晩夏
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	◎	－	○	○	◎	◎	◎	○	－	－	－	－	◎	○

本種は当初、「9-3-3　常緑針葉樹」で取り上げていたのですが、その毒性や誤食の面を考えると、ここへ移すのが適当と判断しました。

キャラボクの幹は斜め上に伸びながら枝分かれするので、母種のイチイ(Taxus cuspidata)と違って、直立することはありません。濃緑色の小さな葉が刈り込むほどに密生して、格調高い端正な生け垣に仕上がります。

成木になると生け垣でも雌株に真っ赤な実が生っているのを見かけることがあります。果肉は甘くて食べられます。しかし、中の硬い種子には強い毒性があって、誤って飲み込むと最悪死亡することもあります。この毒成分は果肉以外の樹

体すべての部分に含まれているので、取り扱いには注意が必要です。
　キャラボクは庭木として植えられているのを時折見かけるのですが、これが有毒植物だと知っている人はそれほどいません。これまでの作者の経験でも、九州では造園業者でさえ、およそ半数くらいは、有毒だとは知りませんでした。
キャラボクの市場への出回り量がそこそこあることを考えると、本種の毒性についてはもっと注意喚起をするべきではないかと考えています。

■ キョウチクトウ（夾竹桃）

分類：キョウチクトウ科キョウチクトウ属 / 常緑低木 / 有毒植物
学名：Nerium oleander var. indicum (Mill.) O.Deg. et Greenwell
見頃：葉＝周年 / 花＝6～9月
特性：

耐病虫害	病虫害少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	－	◎	◎	◎	◎	◎	－	◎	◎	○	○	－	－	◎	○

　1960～70年代の高度経済成長期に、生長が早く、夏に長期間花が咲き続けるとか、排気ガスや大気汚染などの公害にも強い等々の理由から、各地の公園や道路緑化にキョウチクトウが沢山植えられてきました。作者自身、畑に挿し木して養成したキョウチクトウの苗を、数千本単位で出荷したこともあります。
　真夏の高温乾燥でも平然と、沢山の花が咲き続ける様を見ると、夏を楽しんでいるようにさえ感じます。

　このキョウチクトウが有毒だと知っている方も多いでしょう。しかし、その毒が青酸カリをも上回るほど強烈だということは、それ程知られてはいないようです。
　例えば、バーベキューで手近にあったキョウチクトウの枝を串に使ったら中毒したとか、餌に混入した葉を食べた牛が死亡した等々、人・家畜・ペットなどの、キョウチクトウによる中毒例は枚挙にいとまがありません。

さらに、剪定した葉や枝を燃やして出る煙も有毒だし、さらにさらに、葉を腐葉土にして混入した土さえも危険だとなると、素人には手の付けようがないとさえ言えるでしょう。

なお、この毒は皮膚からは吸収されないので、普通に触る分には何も問題ありません。

■ キンギンボク（金銀木）

別名：ヒョウタンボク(瓢箪木)、ヨメコロシ、ドクブツ
分類：スイカズラ科スイカズラ属 / 落葉低木 / 有毒植物
学名：Lonicera morrowii A.Gray
見頃：葉＝春～秋 / 花＝4～6月 / 果実＝6～7月
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	◎	◎	◎	○	－	◎	◎

キンギンボクという名前は、花の咲き始めが白色で、その後黄色に変化することから、この色を金銀にたとえて名付けられました。また果実が二つくっついて瓢箪のように見えるためヒョウタンボクの別名もありますし、ヒョウタンボクと呼ぶ人も多いです。

キンギンボクは鉢植えや庭木として時折見かけることがあります。この木は特性欄を見るとお判りのように、生け垣として優れた性質を数多く備えています。でも木全体が有毒なのです。別名を見るとちょっと怖くなりませんか？

キンギンボクの真っ赤に実る果実は、可愛らしくてとても美味しそうに見えます。この果実は特に毒性が強いので、小さなお子さんが通りがかりに口に入れる危険性もありますから、生け垣には向きません。生け垣に適してはいるけれど、使ってはいけない植物として、あえてここに取り上げました。

■ ドクウツギ（毒空木）

別名：イチロベエゴロシ(市郎兵衛殺し)
分類：ドクウツギ科ドクウツギ属 / 落葉低木 / 有毒植物
学名：Coriaria japonica A.Gray
特性：

耐病虫害	病害虫少	刈込み少	枝葉密生	耐公害	耐潮性	耐乾性	耐陰性	耐寒性	暖地向	花果実	芳香	食餌植物	紅葉	高生垣	低生垣	移植容易
◎	◎	ー	○	◎	○	ー	ー	◎	○	◎	ー	ー	ー	ー	◎	○

ドクウツギは日本三大有毒植物の一つに数えられるほどの猛毒を持っています。ちなみに他の２種は、トリカブト(Aconitum carmichaelii)と、ドクゼリ(Cicuta virosa) です。

ドクウツギの果実は特に毒性が強く、人が誤食して死亡した例があります。またこの実を果実酒にして飲んだ人が中毒したという話しもあります。

＝＝＝　本文終わり　＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

植物名索引

本編に登場したすべての植物名を、別名や総称も併せてここに収録しました。

a 第９章で独立項目として、各種別に解説しています。
b 第９章で「その他の～」として、各特性を記しています。
c 「茨垣」に適する植物。
d 「つる垣」に適する植物。
e 「草垣」に適する植物。
f 「実生垣」に適する植物。

［ ア ］

アイビー ---------- 174ad, 176
アイリス ---------- 28e
アオキ ---------- 120b
アカザ ---------- 27
アカザカズラ ---------- 33d
アカシア ---------- 95
アガパンサス ---------- 28e
アカマツ ---------- 168b
アカメモチ ---------- 80
アキグミ ---------- 25c, 123a
アキニレ ---------- 149b
アケビ -------p--- 22f, 26, 183, 186a
アサガオ ---------- 31, 32d
アサヒカズラ ---------- 185b
アザレア ---------- 120b
アジサイ ---------- 149b
アズキ ---------- 28e
アスチルベ ---------- 38e
アストランティア ---------- 28e
アスナロ ---------- 152a
アスパラガス ---------- 174b
アスヒ ---------- 152
アセビ ---------- 64, 109, 120b, 134
アセロラ ---------- 120b
アテ ---------- 152
アピオス ---------- 33d
アベリア ---------- 74a
アマ ---------- 28e
アマズラ ---------- 189
アマチャヅル ---------- 33d
アマヅラ ---------- 189
アマリリス ---------- 28e
アメリカハナノキ ---------- 149b
アメリカハリグワ -------- 25c, 149b
アーモンド ---------- 143
アラカシ ------- 22f, 60, 75a, 92, 116
アリドオシ ---------- 25c, 120b
アルストロメリア ---------- 28e
アワ ---------- 28e
アワブキ ---------- 90

［ イ ］
イスノキ ---------- 120b
イソシバ ---------- 105
イタビカズラ ---------- 185b
イチイ ---------- 168b, 196
イチゴノキ ---------- 109
イチョウ ---------- 17, 167, 171b
イチロベエゴロシ ---------- 199
イヌガヤ ---------- 153a
イヌツゲ ---------- 66, 76a, 114
イヌマキ - 22f, 66, 154a, 164, 167, 169
イネ ---------- 102
イブキ ---------- 54, 55, 155a
イブキビャクシン ---------- 155
イブキ類 ---------- 16, 155, 156
イボタノキ ---------- 149b
イマメガシ ---------- 77
イロハカエデ ---------- 149b
イワガラミ ---------- 195b
イワヤナギ ---------- 147
インゲン ---------- 33d
インパチェンス ---------- 28e

［ ウ ］
ウグイスカグラ ---------- 149b
ウコギ ---------- 8, 140
ウチダシソヨゴ ---------- 96
宇宙いも ---------- 32d
ウツギ ---------- 124a, 141
ウノハナ ---------- 124
ウバメガシ --------- 22f, 60, 77a, 92
ウベ ---------- 183
ウマメガシ ---------- 77
ウメ ---------- 62
ウメモドキ ---------- 22f, 149b
ウンシュウミカン -------- 120b, 126
ウンナンオウバイ ---------- 125

［ エ ］
エクボバナ ---------- 130
エゴノキ ---------- 149b
エスカロニア ---------- 120b
エニシダ ---------- 149b
エリカ ---------- 78a
エンドウ ---------- 33d
エンバク ---------- 28e
エンピツビャクシン ---------- 162

［ オ ］
黄金シノブヒバ ---------- 161
オウバイ ---------- 125a
オオイタビ ---------- 176a
オオカナメモチ ---------- 80
オオデマリ ---------- 149b
オオムギ ---------- 28e
オオムラサキ ---------- 79a
オカボ ---------- 28e
オカメザサ ---------- 172a
オカワカメ ---------- 33d
オキザリス ---------- 28e
オクラ ---------- 28e
オニヅタ ---------- 177
オニマタタビ ---------- 187
オモチャカボチャ ---------- 32d
オリヅルラン ---------- 28e

オリーブ ---------- 120b

［ カ ］

カイヅカイブキ ------- 49, 155, 156a
カイドウ ---------- 149b
カエデ類 -------- 22f, 60, 62, 64, 136
ガクアジサイ ---------- 149b
カグラザサ ---------- 172
カクレミノ ---------- 120b
カザグルマ ---------- 195b
カシ ---------- 75, 92
カシ類 -------- 22f, 62, 64, 66, 77, 92
カナメガシ ---------- 80
カナメノキ ---------- 80
カナメモチ ------ 62, 64, 66, 80a, 118
カボチャ ---------- 33d
カマクライブキ ---------- 155
カマクラヒバ ---------- 157a
カマシア ---------- 28e
ガマズミ ---------- 149b
カモマイル ---------- 28e
カヤ ---------- 153, 168b
カラー ---------- 28e
カラコギカエデ ---------- 149b
カラスウリ ---------- 32d
カラタチ ---------- 25c, 126a
カラタチバナ ---------- 126
カラタネオガタマ ---------- 120b
カラマツ ---------- 170a
カリステモン ---------- 120b
カルミア ---------- 120b
カロライナジャスミン -------- 185b
カングミ ---------- 102
カンスゲ ---------- 28e
カンゾウ ---------- 28e
カンチク ---------- 174b
カンツバキ ---------- 81a, 97
カンナ ---------- 28e
カンボク ---------- 149b

［ キ ］

キイチゴ ---------- 25c, 195b
キウイ ---------- 187
キウィ ---------- 187
キウイフルーツ ---------- 187a
キーウィ ---------- 187
キーウィー ---------- 187
キク ---------- 28e
キクイモ ---------- 28e
キコク ---------- 126
キシツツジ ---------- 79, 110
キシモツケ ---------- 132
北山杉 ---------- 163
キヅタ ---------- 177a
キブシ ---------- 149b
ギボウシ ---------- 28e
キャラボク ---------- 196a
キュウリ ---------- 33d
キョウチクトウ ---------- 197a
ギョリュウ ---------- 149b
キリシマツツジ ---------- 120b
キンカン ---------- 82a
キンギョソウ ---------- 28e
キンギンカ ---------- 179
キンギンボク ---------- 198a
キングサリ ---------- 149b

キンシバイ ---------- 83a
ギンバイカ ---------- 120b
キンマサキ ---------- 113
ギンマサキ ---------- 113
金芽ツゲ ---------- 76
キンモクセイ
---------- 18, 43, 84a, 107, 117, 179
ギンモクセイ ---------- 107

［ ク ］

クコ ---------- 25c, 127a
クサツゲ ---------- 85a, 94
クサボケ ---------- 149b
クサマキ ---------- 154, 167
クスノキ ---------- 7
クチナシ ---------- 63, 86a
クヌギ ---------- 192
クマザサ ---------- 174b
クマノツツジ ---------- 89
グミ ---------- 22f, 123
グラジオラス ---------- 28e
クリナム ---------- 28e
クルクマ ---------- 28e
クレマチス ---------- 26, 188, 195b
クロカシ ---------- 92
クロスグリ ---------- 149b
クロチク ---------- 174b
クロツガ ---------- 159
クロツグ ---------- 174b
クロトン ---------- 120b
クロマツ ---------- 6, 168b
クワ ---------- 149b

［ ケ ］

迎春花 ---------- 125
ケイトウ ---------- 28e
ゲッキツ ---------- 120b
ゲッケイジュ ---------- 8, 63, 87a
ケラマツツジ ---------- 79, 110

［ コ ］

コウヤマキ ---------- 166, 168b, 171
コクチナシ ---------- 120b
コクマザサ ---------- 174b
コゴメバナ ---------- 130, 147
五色ヒイラギ ---------- 106
コシキブ ---------- 129
小玉スイカ ---------- 33d
コデマリ ---------- 63, 128a, 130
コトネアスター ---------- 120b
コニファー
---------- 44, 54, 160, 164, 168, 169
コノテガシワ ---------- 158a
コブカエデ ---------- 149b
ゴマ ---------- 28e
ゴマイザサ ---------- 172
コムギ ---------- 28e
コムラサキ ---------- 129a
コメツガ ---------- 159a
ゴーヤ ---------- 33d
コルクウィッチア ---------- 149b
ゴールドクレスト ---------- 160a

［ サ ］
ザイフリボク ---------- 150b
サカキ ---------- 108, 120b
ザクロ ---------- 25c, 150b
笹類 ---------- 25, 172
サザンカ
---- 23, 40, 62, 63, 65, 66, 81, 88a, 97
サジー ---------- 150b
サツキ ---------- 40, 64, 89a
サツキツツジ ---------- 89
サツマウツギ ---------- 138
サネカズラ ---------- 26, 178a
サラサドウダン ---------- 150b
サルスベリ ---------- 60, 62, 63, 64
サルトリイバラ ---------- 25c, 195b
サルナシ ---------- 195b
サルビア ---------- 28e
サワラ ---------- 161a
サンカクカエデ ---------- 133
サンゴジュ ---------- 7, 17, 90a
サンザシ ---------- 150b
サンシシ ---------- 86
サンシュユ ---------- 150b
サンショウ ---------- 25c, 150b

［ シ ］
シェフレラ ---------- 120b
シカクマメ ---------- 33d
シシガシラ ---------- 81
シジミバナ ---------- 128, 130a
シソ ---------- 28e
シナサルナシ ---------- 187
シナスグリ ---------- 187
シナレンギョウ---------- 131a
シノブヒバ ---------- 161, 168b
シホウチク ---------- 25c, 174b
シマトネリコ ---------- 91a
シモツケ ---------- 60, 128, 132a
ジャスミン ---------- 125, 182
ジャノメエリカ ---------- 78
ジャーマンアイリス ---------- 28e
シュロチク ---------- 174b
ショウガ ---------- 28e
ショウキウツギ ---------- 150b
ショウブ ---------- 28e
食用菊 ---------- 111
シラカシ ---------- 6, 22f, 92a
シラタマカズラ ---------- 185b
シラン ---------- 28e
シロザ ---------- 27
シロヤマブキ ---------- 150b
ジンジャー ---------- 28e
シンシュウカラマツ ---------- 170
ジンチョウゲ ---------- 86, 120b

［ ス ］
スイシカイドウ ---------- 139
スイカズラ ---------- 179a
スイセン ---------- 28e
スカイロケット ---------- 162a
スギ ---------- 25c, 64, 66, 163a, 171
スズカケ ---------- 128
スズメウリ ---------- 32d
スズラン ---------- 109, 134
スズランノキ ---------- 136
スダジイ ---------- 120b

スドウツゲ ---------- 94
ストロベリーグアバ ---------- 121b
ズミ ---------- 150b
スモークツリー ---------- 150b

［ セ ］
セアノサス ---------- 150b
セイヨウイボタ ---------- 93a
セイヨウキヅタ ---------- 176
セイヨウツゲ ---------- 66, 94a
セイヨウニンジンボク -------- 150b
セイヨウハシバミ ---------- 143
セイヨウヒイラギ -------- 25c, 121b
セキショウ ---------- 28e
ゼフィランサス ---------- 28e
センニンソウ ---------- 188a
センプク ---------- 86

［ ソ ］
ソウシジュ ---------- 95a
ソケイ ---------- 185b
ソケイノウゼン ---------- 185b
ソテツ ---------- 168
ソバノキ ---------- 80
ソヨゴ ---------- 96a
ソラマメ ---------- 28e
ソルガム ---------- 28e

［ タ ］
ダイズ ---------- 28e
タイワンアカシア ---------- 95
タイワンシオジ ---------- 91
タイワンヤナギ ---------- 95
タイワンヤマツツジ ---------- 110
タカノハススキ ---------- 28e
タギョウショウ ---------- 168b
タケ類 ---------- 66
ダスティミラー ---------- 28e
タチカンツバキ ---------- 97a
タチシャリンバイ ---------- 121b
タチバナ ---------- 98a
タバコソウ ---------- 121b
タブノキ ---------- 121b
タマスダレ ---------- 28e
タマツバキ ---------- 103
タワラグミ ---------- 102
ダンチク ---------- 28e

［ チ ］
チゴザサ ---------- 174b
チャ ---------- 8, 22f, 55, 65, 99a
チャイブ ---------- 28e
チャボヒバ ---------- 157
チョウセンニンジン ---------- 140
チョウセンマキ ---------- 168b
チョウセンレンギョウ -------- 131

［ ツ ］
ツウテンカエデ ---------- 133
ツガ ---------- 168b
ツキヌキニンドウ ---------- 185b
ツクバネウツギ ---------- 74
ツゲ ---------- 76, 121b

ツタ ---------- 189a
ツタカエデ ---------- 150b
ツツジ類 -- 40, 62, 64, 66, 79, 109, 145
ツノハシバミ ---------- 143
ツバキ類 --------- 62, 63, 65, 66, 109
ツリガネカズラ ---------- 185b
ツルアジサイ ---------- 195b
ツルウメモドキ ---------- 195b
ツルグミ ---------- 185b
ツルニチニチソウ ---------- 185b
ツルバラ ---------- 23, 25c, 190a
ツルマサキ ---------- 185b
ツルムラサキ ---------- 33d
ツルレイシ ---------- 33d

［ テ ］

テイカカズラ ---------- 180a
テッセン ---------- 195b
テマリカンボク ---------- 150b
テマリバナ ---------- 128
デュランタ ---------- 121b
テリハノイバラ ---------- 25c, 195b

［ ト ］

トウカエデ ---------- 133a
トウガラシ ---------- 28e
トウガン ---------- 33d
トウグミ ---------- 25c, 121b
トウサルナシ ---------- 187
ドウダンツツジ ---------- 22, 134a
トウネズミモチ ---------- 103, 121b
トウモロコシ ---------- 28e
トキワアケビ ---------- 183
トキワギョリュウ ---------- 121b
トキワグミ ---------- 102
トキワススキ ---------- 28e
トキワマンサク ---------- 100a
ドクウツギ ---------- 199a
ドクゼリ ---------- 199
ドクブツ ---------- 198
トケイソウ ---------- 181a
トサミズキ ---------- 150b
トベラ ---------- 121b
トマト ---------- 28e, 33d, 123
トリカブト ---------- 199
トリトマ ---------- 28e
トリモチノキ ---------- 116

［ ナ ］

ナガミキンカン ---------- 82
ナギ ---------- 101, 104
ナギイカダ ---------- 25c, 101a
ナシ ---------- 29, 155
ナス ---------- 28e
ナスタチウム ---------- 185b
ナタマメ ---------- 33d
ナツグミ ---------- 25c, 150b
ナツヅタ ---------- 189
ナツハゼ ---------- 135a
ナツメ ---------- 25c, 150b
ナツユキカズラ ---------- 195b
ナニワイバラ ---------- 185b
ナリヒラダケ ---------- 174b
ナワシログミ ---------- 25c, 102a
ナンキンカイドウ ---------- 139

ナンテン ---------- 22f, 121b
ナンヨウスギ ---------- 166

［ ニ ］
ニオイヒバ ---------- 168b
ニガウリ ---------- 33d
ニガカシュウ ---------- 33d
ニシキギ ---------- 22, 136a
ニチニチソウ ---------- 28e
ニッポンタチバナ ---------- 98
ニホンカラマツ ---------- 170
ニワウメ ---------- 32f, 137a
ニワザクラ ---------- 150b
ニンドウ ---------- 179

［ ヌ ］
ヌマスグリ ---------- 142
ヌマスノキ ---------- 142
ヌマミズキ ---------- 136

［ ネ ］
ネイハキンカン ---------- 82
ネギ ---------- 28e
ネグンドカエデ ---------- 150b
ネジキ ---------- 134
ネズミノコマクラ ---------- 103
ネズミノフン ---------- 103
ネズミモチ ---------- 63, 103a
ネリネ ---------- 28e

［ ノ ］
ノアサガオ ---------- 32d
ノウゼン ---------- 191
ノウゼンカズラ ---------- 191a
ノウゼンカツラ ---------- 191
ノショウ ---------- 191
ノシラン ---------- 28e
ノダフジ ---------- 192
ノニレ ---------- 150b
ノボタン ---------- 121b
ノムラ ---------- 150b
ノリウツギ ---------- 150b

［ ハ ］
バイカウツギ ---------- 138a
パイナップルグァバ ---------- 111
ハイビスカス ---------- 112
ハイブッシュブルーベリー ----- 142
ハクチョウゲ ---------- 104a
ハコネウツギ ---------- 150b
ハゴロモジャスミン ---------- 182
ハゴロモノキ ---------- 121b
ハシバミ ---------- 143, 150b
ハスカップ ---------- 150b
ハゼ ---------- 135
ハゼバナ ---------- 130
ハチク ---------- 25, 174b
パッションフラワー ---------- 181
ハツユキカズラ ---------- 180
ハーデンベルギア ---------- 185b
ハトヤバラ ---------- 185b
ハナイカダ ---------- 101
ハナカイドウ ---------- 139a

ハナズオウ ---------- 150b
ハナゾノツクバネウツギ -------- 74
ハナタチバナ ---------- 98
ハナツクバネウツギ ---------- 74
ハナミズキ ---------- 62
ハナモモ ---------- 150b
ハネガヤ ---------- 28e
パプリカ ---------- 28e
ババ ---------- 77
ハマナス ---------- 150b
ハマヒサカキ ---------- 22f, 105a
ハマボウ ---------- 151b
ハヤトウリ ---------- 33d
バラ ----- 25c, 26, 60, 62, 66, 184, 190
ハラン ---------- 28e
ハルグミ ---------- 102
ハルシャギク ---------- 28e
パンパスグラス ---------- 28e, 37
バンブー ---------- 173

［ ヒ ］

ヒイラギ ---------- 25c, 106a, 107
ヒイラギナンテン -------- 25c, 121b
ヒイラギモクセイ -------- 25c, 107a
ヒサカキ ---------- 22f, 65, 108a
ビナンカズラ ---------- 178
ヒノキ ---------- 152, 157, 161, 165a
ヒノキダマ ---------- 153
ヒノキ類 ---------- 44
ヒバ ---------- 152
ヒマラヤスギ ---------- 25c, 166a
ヒマラヤシーダ ---------- 166
ヒマワリ ---------- 28e
ピーマン ---------- 28e
ヒムロ ---------- 168b
ヒメアスナロ ---------- 168b
ヒメイタビ ---------- 185b
ヒメイチゴノキ ---------- 109a
ヒメウコギ ---------- 140a
ヒメウツギ ---------- 141a
ヒメツガ ---------- 159
ヒメツゲ ---------- 85
ヒメノボタン ---------- 121b
ヒメヒマワリ ---------- 28e
ヒメリンゴ ---------- 151b
ビャクシン ---------- 25c, 155, 168b
ヒュウガミズキ ---------- 151b
ヒョウタン ---------- 32d
ヒョウタンボク ---------- 198
ビヨウヤナギ ---------- 121b
ピラカンサ ---------- 22f, 25c, 121b
ヒラドツツジ ---------- 110a

［ フ ］

フィカス・プミラ ---------- 176
斑入りハクチョウゲ ---------- 104
フウセンカズラ ---------- 32d
フウチソウ ---------- 28e
フェイジョア ---------- 111a
ブクサス・バレアリカ ---------- 94
フクラシバ ---------- 96
フクラモチ ---------- 96
ブーゲンビレア ---------- 25c, 185b
フジ ---------- 192a
フジマツ ---------- 170
フジマメ ---------- 33d

ブッソウゲ ---------- 112a
ブッドレア ---------- 121b
ブドウ ---------- 193a, 194
フユイチゴ ---------- 25c, 185b
フユヅタ ---------- 177
ブラックベリー ---------- 151b
プリベット ---------- 93
プリペット ---------- 93
ブルーベリー --------- 24, 135, 142a
フレーザーカナメ ---------- 80, 118
ブンゴザサ ---------- 172

［ へ ］

ヘーゼルナッツ ---------- 24, 143a
ヘダマ ---------- 152
ヘチマ ---------- 31, 32d
ベニカナメモチ ---------- 80
ベニバナトキワマンサク ------- 100
ヘビウリ ---------- 33d
ヘブンリーブルー ---------- 32d
ヘボガヤ ---------- 153
ペラルゴニウム ---------- 28e
ベロニカ ---------- 28e

［ ホ ］

ホウオウチク ---------- 173a
ホウキギ ---------- 28e
ホウビチク ---------- 173
ホウライチク ---------- 173, 174b
ボケ ---------- 151b
ホシソケイ ---------- 182
ホスタ ---------- 28e
ホソバカシ ---------- 92
ホヅガワツツジ ---------- 89
ボックスウッド ---------- 94
ホップ ---------- 33d
ホトトギス ---------- 28e
本ツゲ ---------- 76
ホンマキ ---------- 154
ホンモチ ---------- 126

［ マ ］

マキ ---------- 154, 167
マクワウリ ---------- 33d
マサキ ---------- 60, 63, 64, 66, 113a
マサキノカズラ ---------- 180
マタタビ ---------- 187, 195b
マツバギク ---------- 18
マツリカ ---------- 182
マテバシイ ---------- 121b
マホニア ---------- 25c, 121b
マメイヌツゲ ---------- 114a
マメキンカン ---------- 82
マメツゲ ---------- 114
マメヒサカキ ---------- 105
マルキンカン ---------- 82
マルバシャリンバイ ---------- 115a
マルバノキ ---------- 151b
丸葉ヒイラギ ---------- 106
マルミキンカン ---------- 82
マンネンロウ ---------- 119

［ ミ ］
ミソハギ ---------- 38e
ミツバアケビ ---------- 186, 195b
ミツバツツジ ---------- 151b
ミニトマト ---------- 28e, 33d
ミヤギノハギ ---------- 151b
ミヤコザサ ---------- 174b
ミヤマシキミ ---------- 121b
ミョウガ ---------- 28e
ミント ---------- 28e

［ ム ］
ムクゲ ---------- 62, 64, 66, 144a
ムスカリ ---------- 28e
ムベ ---------- 183a
ムラサキシキブ ---------- 129

［ メ ］
メキシコハナヤナギ ---------- 121b
メギ ---------- 151b
メタセコイア ---------- 171b

［ モ ］
モクセイ類 ---------- 66, 84, 107
モクマオウ ---------- 151b
モチ ---------- 116
モチツツジ ---------- 110
モチノキ ---------- 22f, 63, 116a
モッコウバラ ---------- 184a
モッコク ---------- 63, 66, 122b
モミジイチゴ ---------- 25c, 195b
モミジヅタ ---------- 189
モロコシ ---------- 28e
モントブレチア ---------- 28e
モントレーイトスギ ---------- 160

［ ヤ ］
ヤコウカ ---------- 117a
ヤコウボク ---------- 117
ヤシ ---------- 169
ヤハズニシキギ ---------- 136
ヤブツバキ -------- 18, 22f, 81, 122b
ヤブラン ---------- 28e
ヤマタチバナ ---------- 98
ヤマツツジ ---------- 145a
ヤマトタチバナ ---------- 98
ヤマノイモ ---------- 33d
ヤマハギ ---------- 151b
ヤマブキ ---------- 146a
ヤマブドウ ---------- 194a
ヤマモモ ---------- 109
ヤヨイエリカ ---------- 78

［ ユ ］
ユキヤナギ -------- 63, 66, 128, 147a
ユスラウメ ---------- 22f, 148a
ユスラゴ ---------- 148
ユーコミス ---------- 28e

［ ヨ ］
ヨウシュイボタ ---------- 93
ヨウシュイボタノキ ---------- 93

ヨメコロシ ---------- 198
ヨルガオ ---------- 32d
ヨーロッパツゲ ---------- 94

［ ラ ］
ライチー ---------- 122b
ラカンマキ ---------- 22f, 154, 167a
ラクウショウ ---------- 168
ラズベリー ---------- 151b
ラベンダー ---------- 122b
ランタナ ---------- 122b

［ リ ］
リアトリス ---------- 28e
リボングラス ---------- 28e
リュウキュウアサガオ ---------- 32d
リュウキュウツツジ ---------- 79
リュウノヒゲ ---------- 28e
リンゴ ---------- 29

［ ル ］
ルコウソウ ---------- 32d
ルドベキア ---------- 28e
ルリマツリ ---------- 122b

［ レ ］
レイケステリア ---------- 195b
レッドロビン ---------- 80, 118a
レモングラス ---------- 28e
レンギョウ ---------- 131
レンゲツツジ ---------- 134

［ ロ ］
ロウバイ ---------- 151b
ローズマリー ---------- 8, 119a
ローリエ ---------- 87
ローレル ---------- 87

［ ワ ］
ワタ ---------- 28e
ワビャクダン ---------- 158

参考資料

本稿の執筆にあたっては多くの資料を参考にしました。ここで全部はとても挙げられないので、主要なものだけを以下に記します。（出版年順）

なお、各資料の内容については、あくまで参考程度にとどめるように留意しています。

「資料からの文章あるいは段落を、丸ごと本稿へ引用することは可能な限りしない」との方針で執筆しました。

従って、ごく一部での引用（『』内に限る）以外、本稿におけるすべての文章は、本作者によるオリジナルの書き下ろしとなっています。

また本稿では、資料には記載されていない、作者独自の見解や造語が多数含まれていることをお断りしておきます。

・上住泰・鍵渡徳次共著「原色 庭木・盆栽の病害虫診断」農山漁村文化協会　1972
・上原敬二著「生垣の仕立方と手入」加島書店　1979
・造園修景大事典編集委員会編集「造園修景大事典」同朋舎出版　1980
・塚本洋太郎総監修「園芸植物大事典」小学館　1990
・三橋一夫著「生垣・竹垣」家の光協会　1991
・建設省都市局公園緑地課監修「改訂版 造園施工管理 技術編」(社)日本公園緑地協会　1995
・日本植木協会監修「生垣図鑑」経済調査会　2012

その他、本稿の取り扱いについては、付属ドキュメント（IKEGAKI 6_readme.txt）の「本テキストについて」をご覧下さい。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

"A to Z of The HEDGE"
生け垣のすべて 第６版（岡本茂治）
Copyright (C) 2026/10/01 by S. OKAMOTO, All Rights Reserved.

Mailto: yashi[dot]okamoto[at]hya[dot]bbiq[dot]jp

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝